

選定種の解説

概説

RED DATA BOOK

維管束植物

植物相の概要

島根県の植物については、古くは『出雲国風土記』や江戸時代の「出雲国産物帳・隠岐国産物帳」などの中での記述であるが、学術上での研究は明治時代に始まったといえるであろう。明治22年（1889）、堀正太郎、明治31年に三宅驥一（1898）が隠岐諸島に植物調査に来て、明治40年には徳淵永治郎が隠岐諸島の島後、西ノ島、中ノ島の植物を調査し、堀、三宅の調査の結果の他、当時の知々井小学校教員松本常男の標本約130点をもとに「隠岐島植物分布論」（1911）に維管束植物619種を記載している。また、三宅驥一（1898）は「隠岐嶋ノ植物ハ太體ニ於テ山陰地方ノモノト大差ナシト云テ可ナルベシ」と記述していて、これは、その当時、山陰の植物相については、すでにかなり調べられていたようにも思われる。

昭和年代になってからは丸山巖（1929）：仁多植物誌、林実（1936）：北出雲植物小話、原貞吉編（1937）：罌淵寺附近植物目録、森山美具（1956）：西部石見の植物目録、岡本香（1971）：島根のスゲ属植物、宮本巖（1963）：西部石見の高等植物目録、丸山巖（1963、67、69）：山陰植物管見Ⅰ-Ⅲ、岡国夫（1968、69）：隠岐の植物1-2、宮本巖（1973）：島根半島植物誌、山本広（1980）：隠岐島・島根県東部のシダ植物の分布について、木村康信・丹後重典（1982-1986）：島前の植物目録、丸山巖（1984）：島根県大百科事典（植物項目265種）、杵村喜則（1989-1991）：島根半島の植生と植物相、杵村喜則（1991）：島根県のシダ植物、杵村喜則（2005-2006）：島根県種子植物相など、多くの調査者の調査結果、報告があって、県内の植物相の全体がほぼ明らかになってきている。

島根県は本州の西端域に位置していて、北は日本海の南部に面し、南は海拔1,000～1,300m程の中国山地脊梁部となっている。年平均気温は海岸域で14～15℃、中国山地域で10～11℃前後の地域である。

県内における植物相は東アジア区（日華区）系の植物群の中で、本県より南に分布域が続く暖温帯系の植物は海岸寄りの地域に、冷温帯系の植物は中国山地及び海岸域に分布している。

(1) 主として本州南岸線を分布の北限とする植物群の分布について

県内に分布する植物の内、暖温帯系の植物は主として本州南岸線（ハマオモト線、年平均気温15℃線）を分布の北限とする植物を欠いた植物群による植物相となっていることになる。しかし、そのような状態の中で、県内には本州南岸線が分布のおもな北限となる植物のかなりな種数の植物が、おもに海岸域に分布していて、注目すべきことである。これは、現在の気候条件、特に温度条件において、県内の海岸域は石見部から島根半島あたりまでは年平均気温がほぼ15℃であり、対馬暖流が海

岸を北上することの影響も考えられて、それらの植物群の生育、分布を可能にしているものと考えられる。そして、現在の気候条件下にこれらの植物群が生育の限界として分布しているものと考えられる一方、過去における縄文暖期の植物分布の一部が現在の条件下で残存可能な植物のみの残存を可能にしている状態のものとも考えられる。

このような分布の植物は当然のことながら石見部に多く見られて、出雲部、隠岐諸島では種数が少なくなっているが、中には石見部には生育が確認されないで、出雲部、隠岐諸島にのみ本州南岸線以南から飛び離れて分布する植物も知られている。

石見部まで分布が知られる植物としてはカンコノキ、ホウロクイチゴ、ナシカズラ、コパンモチ、シイモチ、タイミンタチバナ、ボタンボウフウ、ナナミノキ、オオカグマ、ナガサキシダなどがある。出雲部、隠岐諸島まで分布することが知られている植物にはサカキカズラ、ハマニンドウ、イズセンリョウ、ホウライカズラ、フウトウカズラ、ハスノハカズラ、クロバイ、バリバリノキ、ダンチク、ヒトモトススキ、ヒゲスゲ、キノクニスゲ、シシラン、ホウビシダ、ナガバノイタチシダ、テツホシダ、ナチシダ、アオネカズラ、イシカグマなどがあげられる。また、島根半島、隠岐諸島に隔離的に分布が知られる植物にはシシラン、ナゴラン、カツモウイノデ、ヌカボシクリハランなどがある。

(2) 冷温帯・北方・寒地系の植物群について

県内に分布する植物の内、東北地方、北海道などの北方に分布が続く植物や、朝鮮半島から中国大陸に分布が続く植物も多くの種類が知られている。それらは中国山地脊梁部や海岸風衝地、砂浜、また、山地の草原や露岩地などの不安定立地に生育地があって分布することが多い。

北方・寒地系の植物としてはハマハコベ、ハチジョウナ、エゾオオバコ、ハイネズ、ハマベンケイソウ、ハマナス、ヒョウタンボク、オオクグなどや、オオエゾデンダ、マンシュウハシドイ、エゾノヨロイグサ、ニッコウキスゲ、キンコウカ、ホソバアマナ、ミヤマベニシダ、シノブカグマ、シラネワラビ、ヤマドリゼンマイ、ミツガシワ、サギスゲ、リュウキンカなどが知られる。朝鮮半島から中国大陸に分布が続く植物はダルマガク、チョウジガマズミ、ヤナギイボタ、オニヒョウタンボク、モクゲンジ、ホソバママコナ、クルマバアカネ、ヒゴタイ、ホクチアザミ、ヨロイグサなどがある。

(3) 日本海側に特有な分布の植物群について

本県は日本海に面してはいるが、いわゆる冬季多雪の土地ではなく、冬季の降水量より夏季の量が多く、しばしば準日本海型気候区に考えられている。その中で、日本海側の多雪地に分布の中心がある特有な植物群とされる種の分布も見られる。これらの植物は県内では東部から石見にかけて、しだいに分布が

まれとなつて、種によってはその間に分布限界地がある。この群にはチシマザサ、オオバクロモジ、オニシモツケ、クロバナヒキオコシ、サンインヒキオコシ、タニウツギ、カンボク、サンインクワガタ、デワノタツナミソウ、ミヤマキケマン、ナガハシスミレ、トキワイカリソウ、ヒメモチ、カラスシキミ、エゾユズリハ、ハイヌガヤ、チャボガヤ、ハイヌツゲ、ツルシキミなどがあげられる。

(4) 中国地方に特有な植物及び県内に固有な植物について

これらの植物としてはダイセンヒョウタンボク、ダイセンミツバツツジ、ダイセンズゲ、ダイセンオトギリ、アラゲナツハゼ、キシツツジ、ヒメヤマツツジ、トゲナシアザミ、ピッチュウアザミ、サンベサワアザミ、サンインギク、ナツアサドリ、オキノアブラギク、トウテイラン、ヘイケイヌワラビなどがあげられ、そしてオキタンボボ、オキノアブラギク、オキシヤクナゲ、オオメノマンネングサ、オウチカングク、サンイントラノオ、イズモコバイモは島根県に固有な植物とされている。

(5) その他

襲速紀植物とされる種としてギンバイソウ、キレンゲショウマ、オオマルバノテンニンソウ、シロモジなどの生育地も知られている。

今回、この「しまねレッドデータブック」に取り上げた維管束植物は情報不足（DD）を含めて計366種である。

前述の「植物相の概要」で記載されている種類の多くは改訂版種選定カテゴリーの定義に従い、絶滅が心配される種として選定されているが、これらの植物種はもともと、生育する場所が限られていて、生育地の範囲、面積が小さい場合のものである。しかし、ここに取り上げられた植物の中には、過去におい

ては生育地が広い範囲にあつて、当時では絶滅が心配される状態でもなかったものが、何らかの原因によって現在では存続が危惧される状態となったと考えられる種もある。本文解説中の選定理由に多くが「……生育地が限られ……」と記述されていて、現在に至る状況は記述されていないが、その植物の分布上でのもともと限られている場合と何らかの原因により生育地が限られてきた場合もある。

昭和30年代において植物に対しての直接あるいは間接的な干渉の結果として、植物の種類によっては生育地や個体群の激減、消滅が気付かれるようになった。化石燃料が有効に利用されて、薪炭が不用となり林地が放置されることにより、特に林縁草地などの草原状地の植物、オキナグサ、ムラサキセンブリ、ヒゴタイ、マツムシソウ、フクシマシャジン、リンドウ、キキョウ、オミナエシ、センブリなどが激減してきた。また、機械化により、牛馬飼育のための草刈りは不用となり、同様に草原性植物が激減してきた。一方、各種土木工事は機械による効率化から農地での区画整理などにより水田周辺の水湿地の植物がかなり影響を受け、県内ではサンベサワアザミ、イヌセンブリ、トモエソウ、カキランなどの植物が激減し、生育地が消滅した場も多い。水田に関しては除草剤の開発、使用により水田雑草はほとんど絶滅状態である。山間の水田などでは僅かに水田周囲の水湿地に残されていたスプタ類、ホシクサ類など、減反政策により一時的に息を吹き返したようにも思われたが、水田周囲が樹林化することにより、絶滅寸前であり、県内全域での現状がつかみにくい。また、溜池や用水路においても同様にこの時期に多くの水生植物が激減、消滅した生育地が多い。特に里山の溜池では、除草剤や生活廃水の流入も考えられない池においても水生植物が全滅してしまった池が多く存在している。

(杵村喜則)

絶滅 (EX)

- ・ハマビシ

1種

野生絶滅 (EW)

- ・デンジソウ

1種

絶滅危惧I類 (CR+EN)

- | | | |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ マツバラシ ◇ マンネンズギ ○ イヌズギナ ○ フジシダ ↑ アマクサシダ ・ カツモウイノデ ○ ホウライヒメワラビ ○ ヒメハシゴシダ ○ フクロシダ ・ スカボシクリハラン ↓ アカウキクサ ↑ ミスミソウ ・ サンカヨウ ・ ウスパサイシン ・ ダイセンオトギリ ・ ザリコミ ・ サナギイチゴ ○ アイズシモツケ ↑ ミソナオシ ・ ヒナノカンザシ ○ ミヤマウメモドキ ↑ ホナガクマヤナギ ↑ キガンビ ・ エゾノヨロイグサ ○ タケシマシシウド ・ ハイハマボス ↑ ムラサキセンブリ ・ チョウジソウ ↑ ジュズネノキ ↑ シモバシラ ・ サンイントラノオ ・ シシラン ↑ ヤブウツギ ・ ヒゴタイ ・ オオダイトウヒレン ・ ハチジョウナ ↑ イバラモ ・ イズモコバイモ ○ ホソバナアマナ ・ バイケイソウ ↑ オオミクリ ○ ノグサ ・ キンセイラン ・ ユウシュンラン ・ サギソウ | <ul style="list-style-type: none"> ○ アスヒカズラ ・ ヒモラン ↑ タカサゴキジノオ ↑ ハコネシダ ◇ クモノスシダ ↑ イズヤブソテツ ・ ナガサキシダ ・ ミゾシダモドキ ・ クラガリシダ ・ オオエツデンド ・ オオヤマレンゲ ・ ヒメバイカモ ・ オニバス ・ ベニバナヤマシヤクヤク ・ ツルネコノメソウ ↑ ヒロハノカワラサイコ ↑ ホウロクイチゴ ○ ハマナタマメ ↑ オオバヌスビトハギ ・ テツカエデ ↑ イワウメヅル ↑ ウドカズラ ↑ ナツアサドリ ・ ヨロイグサ ↑ ムカゴニンジン ↑ ハマサジ ・ ヒメシロアサザ ↑ クサタチバナ ・ ハマベンケイソウ ○ オオヤマジソ ・ ミヤマクワガタ (ダイセンクワガタ) ・ イワギリソウ ・ キキョウ ○ ヤナギタンポポ ○ キクアザミ ○ キビシロタンポポ ・ ホンゴウソウ ○ ユウスゲ (キスゲ) ・ キンコウカ ・ ヒナノシヤクジョウ ・ スジヌマハリイ ↑ マメヅタラン ・ キエビネ ・ マヤラン ・ フガクスズムシソウ | <ul style="list-style-type: none"> ↑ スギラン ↑ オオバシナミズニラ ↑ ツルホラゴケ ・ タキミシダ ○ イワトラノオ ↑ ツクシヤブソテツ ○ ホソバシヨリマ ・ ヘイケイヌワラビ ↑ ホテイシダ ↑ イワオモダカ ↑ ミチノクフクジュソウ (注) ↑ バイカモ ・ マルバウマノスズクサ ・ シマサルナシ ・ キレンジショウマ ・ ハマナス ↑ コジキイチゴ ↑ タヌキマメ ↑ サイカチ ↑ ナナミノキ ↑ ヨコグラノキ ○ ハマボウ ↑ ウラジロウコギ ・ アマニュー ・ イワナシ ・ イヌセンブリ ・ アサザ ○ フナバラソウ ・ カイジンドウ ↑ ヤマホロシ ・ イワタバコ ↑ ダイセンヒョウタンボク ・ チョウジギク ・ スイラン ○ オカオグルマ ○ アギナシ ・ ホソバナコバイモ ・ ニッコウキスゲ ・ ハナゼキシヨウ ↑ ツクシクロイヌノヒゲ ・ サギスゲ ↑ ムギラン ・ サルメンエビネ ・ クマガイソウ ・ ジガバチソウ |
|---|---|---|

- ・ウチョウラン
- ・トキシウ
- ・カヤラン
- ・イイヌママカゴ

- ・ミズチドリ
- ・カシノキラン
- ・ナゴラン
- ・ショウキラン

- ・コバノトンボソウ
- ・マツラン
- ・クモラン

計146種

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

- ・ミズニラ
- ・ウチワゴケ
- ヌカイタチシダモドキ
- ↑ナンカイイタチシダ
- ・ヒメノキシノブ
- ・イチイ
- ホザキノヤドリギ
- ・ハマナデシコ
- ・サンヨウブシ
- ・リュウキンカ
- ・タイリンアオイ
- ・シラヒゲソウ
- ・シロヤマブキ
- ・カンコノキ
- ・シイモチ
- ・ダイセンキスミレ
- ・サケバゼリ
- ・ホンシャクナゲ
- ・ミツガシワ
- ◇サワリソウ
- ・コナミキ
- ◇サンインクワガタ
- ・ミミカキグサ
- ・ヒョウタンボク
- ・サワギキョウ
- ・テリハアザミ
- ・カシワバハグマ
- ・トチカガミ
- ・リュウノヒゲモ
- ・イトトリゲモ
- ・コキンバイザサ
- ・オオホシクサ
- ・マシカクイ
- ・エビネ
- ・キンラン
- ・カキラン

- ・ヒロハハナヤスリ
- ・ツクシイワヘゴ
- ↑ミヤマクマワラビ
- ・テツホシダ
- ・サジラン
- ミヤコミズ
- ・ハルトラノオ
- ・オオヤマフスマ
- ・ニリンソウ
- ・オキナグサ
- ・トモエソウ
- ・タコノアシ
- ◇キビナワシロイチゴ
- ・カジカエデ
- ・カラスシキミ
- ・オグラノフサモ
- ・サラサドウダン
- ↓アラゲナツハゼ
- ・サカキカズラ
- ◇カリガネソウ
- ・ホソバママコナ
- ↑ノタヌキモ
- ・ムラサキミミカキグサ
- ・カンボク
- ・ヒツツキアザミ
- ・サンベサワアザミ
- ↑ヤマザトタンポポ
- ・セキショウモ
- ・カワツルモ
- ・カタクリ
- ・ミズアオイ
- ・トウササクサ
- ・アンペライ
- ・ナツエビネ
- ・トケンラン
- ・ベニシユスラン

- ・ヤシャゼンマイ
- ツクシオオクジャク
- ・イワイタチシダ
- ・ツクシイヌワラビ
- ・ビロウドシダ
- ・ミヤマミズ
- ・ナガバノヤノネグサ
- ・ワチガイソウ
- ・アズマイチゲ
- ・フタバアオイ
- ・アオベンケイ
- ・ヤシャビシヤク
- ・ピッチュウフウロ
- ・メグスリノキ
- ・コガンピ
- ・ホテルサイコ
- ・ベニドウダン
- ・ハシドイ
- ・カギカズラ
- ・オウギカズラ
- ↑ゴマノハグサ
- ・タヌキモ
- ・ヤマヒョウタンボク
- ・フクシマシャジン
- ・モリアザミ
- ・オオモミジガサ
- クシバタンポポ
- ・オヒルムシロ
- ↓イトクズモ (ミカヅキイトモ)
- ・ヒメナベワリ
- ・ヒメシャガ
- ・ヒメミクリ
- ・ヒナラン
- ・ギンラン
- ・セッコク
- ◇ヤマトキシウ

計108種

準絶滅危惧 (NT)

- ・ミズスギ
- ・オオフジシダ
- ・シシラン
- ・コバノヒノキシダ
- シノブカグマ
- ・ミヤコイヌワラビ
- ・ヒメサジラン
- ・オオアカウキクサ

- ・ナツノハナワラビ
- ・シノブ
- ・ナチシダ
- ・クルマシダ
- ・ハチジョウベニシダ
- ・ハコネシケチシダ
- ・カラクサシダ
- ・カヤ

- ・イシカグマ
- ・ミズワラビ
- ・ホウビシダ
- ・オオカグマ
- ・ウスヒメワラビ
- ・ムクゲシケシダ
- ↓アオネカズラ
- ・パッコヤナギ (ヤマネコヤナギ)

<ul style="list-style-type: none"> ・ サクラバハノキ ・ マダイオウ ・ ユキワリイチゲ ・ コウホネ ・ サンヨウアオイ ・ ミツバベンケイソウ ・ オオヤマザクラ (エゾヤマザクラ) ・ イワタイゲキ ・ ヘラノキ ・ ボタンボウフウ ・ タイミンタチバナ ・ ホウライカズラ ・ イナモリソウ ・ トウテイラン ・ イヌタヌキモ ・ チョウジガマズミ ・ ヒロハヤマヨモギ ・ ハマベノギク ・ ヤナギスプタ ・ オオトリゲモ ・ ミクリ ◇ サツマスゲ ・ ヒトモトススキ (シシキリガヤ) 	<ul style="list-style-type: none"> ↓ キミズ ・ シロモジ ・ サンインシロカネソウ ・ ヒツジゲサ ・ コウヤミズキ ・ ツメレンゲ ・ ナンキンナナカマド ・ モクゲンジ ・ タチモ ・ レングツツジ ・ クロパイ ・ ガガブタ ↓ アオイゴケ ・ イヌノフグリ ・ ハマニンドウ ・ カノコソウ ・ ダルマギク ・ ナガバノコウヤボウキ ・ ミズオオバコ ・ タキキビ ・ ヤマトミクリ ・ キノクニスゲ ・ フウラン 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コケミズ ・ バリバリノキ ・ ジュンサイ ・ ハンゲショウ ・ イスノキ ・ オオメノマンネングサ ・ シモツケ ・ コバンモチ ◇ フサモ ↓ ゲンカイツツジ ・ ヤナギイボタ ・ スズサイコ ・ ホタルカズラ ・ カワヂシャ ・ オニヒョウタンボク ・ ナベナ ・ オッタチカンギク ・ スプタ ・ イトモ ・ ウキシバ ・ ナガエミクリ ・ オオクダ ・ ヨウラクラン 	計93種
--	---	--	------

情報不足 (D D)

<ul style="list-style-type: none"> ・ コヒロハハナヤスリ ・ シマキツネノボタン ・ シヤクジョウソウ ○ オオマルバノホロシ ・ ムラクモアザミ ○ アブラシバ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハマハナヤスリ ○ コゴメウツギ ・ キセワタ ・ イトタヌキモ (ミカワタヌキモ) ○ ミヤコアザミ ◆ ハクウンラン 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ナカミシシラン ○ オオバクサフジ ○ アオホオズキ ○ バアソブ ・ トリゲモ 	計17種
---	---	--	------

今回の改訂により掲載対象外となった種

クジャクフモトシダ	ヌリワラビ	クルマバアカネ	
ノシラン	ホザキノフサモ	センニンモ	
オオササエビモ	ヤマホオズキ	オキノアブラギク	計9種

【記号説明】

- ・ : カテゴリー区分変更なしの種 (266種)
- ↑ : 上位のカテゴリー区分への変更種 (47種)
- ↓ : 下位のカテゴリー区分への変更種 (7種)
- : 新規掲載種 (36種)
- ◇ : 情報不足からの変更種 (9種)
- ◆ : 情報不足への変更種 (1種)

(注) ミチノクフクジュソウ：前回の改訂では「フクジュソウ」としていたが、その後精査したところ、「ミチノクフクジュソウ」であることが判明したため今回表記を改めた。

フウロソウ目ハマビシ科

ハマビシ

Tribulus terrestris L.

島根県：絶滅 (EX)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

【選定理由】

昭和10年代において生育地が確認されていたが、昭和20年代には既に消滅し、その後、県内では生育地が確認されない。

【概要】

海岸の砂浜に生える一年草または越年草であって、茎は根際から分枝し、さらに分枝して地に這う型の植物。葉は3-5対の小葉をもつ葉と6-7対の小葉をもつ葉の2型があって対生する。花は夏から秋に咲き、葉腋に径2cmばかりの黄色5弁花を着ける。果実は10本の太い刺と多くの刺状の毛があって特徴的である。

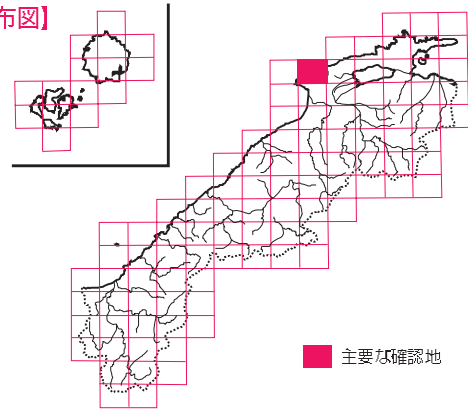
国内では西日本の海岸に分布域があるものの生育地はまれなようであり、本来、熱帯等の暖地のもののように、暖地では海岸だけでなく、内陸の乾燥地にも生えると考えられる。

【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部の一部の海岸砂丘での生育地が知られ

ていたものであるが、現在では県内での生育地は確認されていない。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
×																					×

シダ植物デンジソウ科

デンジソウ

Marsilea quadrifolia L.

島根県：野生絶滅 (EW)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

写真 □絵 1

【選定理由】

全国的に希少であり、隠岐（島後）で近年まで生育していたが、現在確認されていない。

【概要】

夏緑性で根茎は細く伸び、葉柄は10-15cmで四葉のクローバーのような小葉をもつ。

北海道・本州・四国・九州と奄美大島の低地の水田や池沼などに群生する。国外ではヨーロッパ・インド北部から東アジアに分布する。

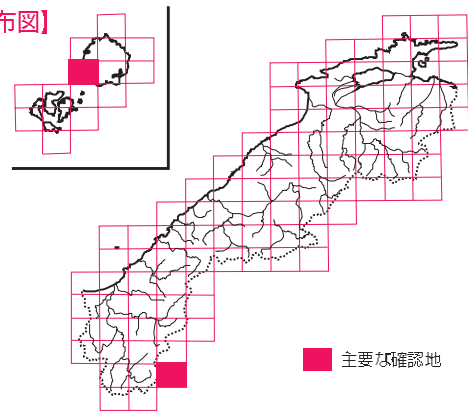
【県内での生育地域・生育環境】

西部での分布が知られていたが、絶滅している。隠岐（島後）でも20年ほど前には見られたが、近年確認できていない。

【存在を脅かす原因】

除草剤散布、遷移。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		×	×									×				×					

シダ植物マツバラ科

マツバラ

Psilotum nudum (L.) Beauv.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省:準絶滅危惧 (NT)

【選定理由】

県内での生育地はきわめて局地的であり、個体数も少ない。

【概要】

樹幹や岩隙生の多年生の常緑草本で、地上茎は直立し、2又分岐をする。高さは10-40cmほどで、全体緑色で枝には稜があり、断面は3角形となる。孢子嚢群は3室で、枝につく短い側枝の上に単生する。

国内では本州（宮城、石川県以西の暖地）から南西諸島にかけて分布し、韓国（済州島）・中国南部から、世界の熱帯・亜熱帯に広く分布する。開発や採集により、生育地が減少している。

【県内での生育地域・生育環境】

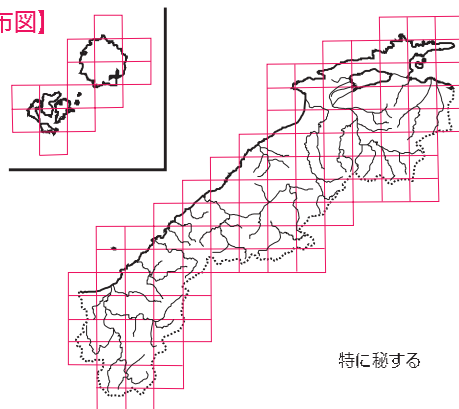
出雲部の一部に生育が確認されていた。近年出雲部の別地域に数カ所生育が確認された。県内では個体数はわずかで、日本海側では山口の笠山から飛んで分布し、石川県にも記録があったようであるが、絶滅したようである。

る。

【存在を脅かす原因】

生育地の開発、自然遷移、また、採集による。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎								○													

シダ植物ヒカゲノカズラ科

アスヒカズラ

Lycopodium complanatum L.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地はきわめて局地的であり、個体数も少なく、離れた分布を示す。

【概要】

常緑性のシダで、地上生で、匍匐茎は地中または地上を長く這い、まばらに分岐する。直立茎は斜上または直立し、高さ10-30cmになり、扇状に分岐する。鱗片葉は鮮緑色で、4列に並び、先端は棘状。背葉は線形で圧着し、側葉は広く、開出する。孢子嚢穂は1-3cmで円柱形。3-10cmの長さの柄に1-5個つく。

国内では北海道や本州中部以北には多いが、本州西部には少なく、滋賀、兵庫、鳥取、広島、岡山などの限られた場所に点在し、徳島県でも生育する。国外では北半球の温帯に広く分布する。

【県内での生育地域・生育環境】

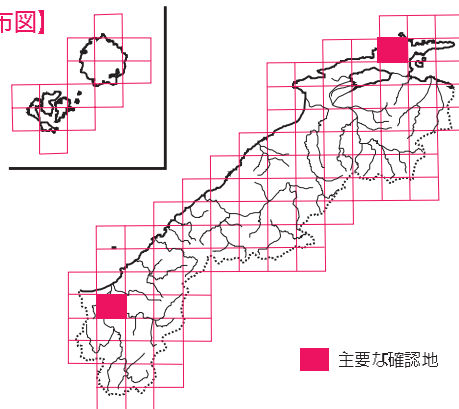
県内では近年西部と東部に分布が知られている。ともに切り開かれた道路脇の斜面で少数生育する程度である。

る。近くに全く生育地が知られておらず、遷移による絶滅が心配される。

【存在を脅かす原因】

遷移。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎		◎						○													

シダ植物ヒカゲノカズラ科

スギラン

Lycopodium cryptomerinum Maxim

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【選定理由】

分布が限られ、個体数はきわめて少ない。

【概要】

常緑で樹上まれに岩上に着生する。茎はまばらに又状に分枝し、茎は径3-5mmで長いものは30cmを越える。葉は開出して密生し、緑色で線状披針形から狭披針形、長さ1-2cm。孢子嚢は枝端近くにつき、孢子葉は栄養葉よりやや小さいが、孢子嚢穂というべきまとまりをもたない。

北海道東部から屋久島にかけての山林中に生育する。国外では韓国(済州島)や台湾・インドにも記録されている。

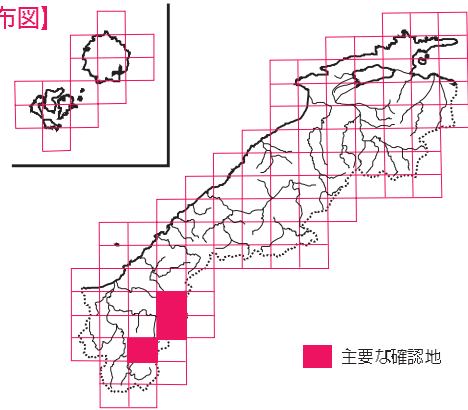
【県内での生育地域・生育環境】

西部の温帯上部の樹幹への着生が見られるが、個体数はきわめて少ない。

【存在を脅かす原因】

森林伐採。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎		○																	

シダ植物ヒカゲノカズラ科

マンネンスギ

Lycopodium obcurum L.

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内では過去に採集、確認したという情報があるが、現在の生育は確認できていない。県下では非常に希少な種である。

【概要】

地上生の常緑草本で茎の主軸は地中を長く匍匐し、帯赤褐色でまばらに分枝する。側枝は直立枝となって地上に伸び、下部は分枝せず、上部で分枝して樹木状となり、高さ10-30cm。葉は線形で鋭頭、全縁、緑色でやや硬い。孢子嚢ははっきりした形となり、1本の側枝に数個つき、小枝端に1個頂生する。南西諸島を除く日本各地の山地の林下や陽地に生じる。国外では東アジアから北アメリカにかけて分布している。

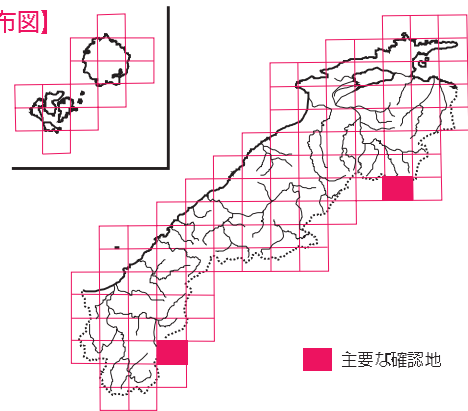
【県内での生育地域・生育環境】

以前西部の山地で採取された記録がある。また、東部の山地で生育するという情報もあったが現状は不明である。

【存在を脅かす原因】

遷移、採集。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
△		△		○																	

シダ植物ヒカゲノカズラ科

ヒモラン

Lycopodium sieboldii Miq.

島根県: 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: 絶滅危惧 IB 類 (EN)

【選定理由】

県内での生育地はきわめて局地的であり、個体数も少ない。日本海側で北限にあたり、離れた分布を示す。

【概要】

常緑性のシダで、樹幹や岩上について下垂し、長さ20-50cmになる。茎は細く、ひも状で、基部で多数に分枝する。葉は鱗片状で小さく、三角状卵形~卵形で長さ2mm以下、茎に圧着してつく。胞子嚢は小枝の葉腋につき、その部分がわずかに太くなる。

国内では本州の南部（伊豆半島・東海道・紀伊半島）と隠岐諸島に分布し、四国・九州・南西諸島（沖縄本島与那覇岳）に産する。九州南部や屋久島に比較的生育地がみられるが、森林の伐採や採集により生育地が減少している。

【県内での生育地域・生育環境】

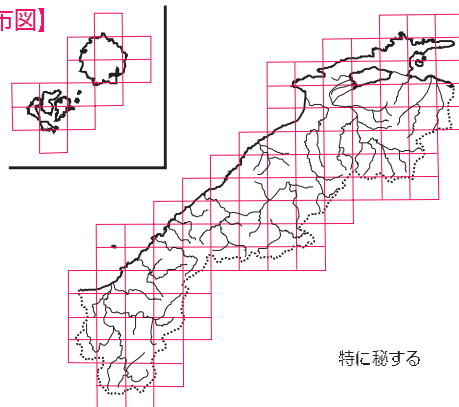
県内では古くから隠岐（島後）に自生分布が知られており、国指定天然記念物「高尾暖地性闊葉樹林」内での分布の記録もある。現在、高尾暖地性闊葉樹林内では自生が確認できないが、採集・栽培されている個体があり、

現在でも隠岐（島後）で自生があると思われる。残された個体があれば厳重な保護を必要とする。

【存在を脅かす原因】

森林伐採、採集。

【分布図】



特に秘する

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	○																	

シダ植物ミズニラ科

オオバシナミズニラ

Isoetes sinensis Palmer var *coreana* (Y.H.Chung & H.K.Choi) M.Takamiya et al.

島根県: 絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: 絶滅危惧 IB 類 (EN)

【選定理由】

県内の産地がまれであり、現在確認できるところがない。また、全国的にも生育地は少なく、減少傾向が著しい。

【概要】

外見では他のミズニラ類と区別できないが、全体的に大型で、大胞子表面はとぎれた畝状隆起があり、小胞子表面に針状突起がある。従来はシナミズニラと混同されていたが、シナミズニラは小胞子の長径が30μm以下で気孔の孔辺細胞長は80μm以下であるのが、オオバシナミズニラでは小胞子の長径は30μm以上で気孔の孔辺細胞長は80μm以上であることで区別されるという。シナミズニラは4倍体有性生殖種で国内では九州各県や佐渡に見られ、タイプは中国であり、オオバシナミズニラは6倍体有性生殖種で、茨城・長野と中国（岡山、広島、島根、山口の各県）、四国（高知）、九州（福岡、大分、宮崎）に分布する。また、国外では朝鮮半島に分布する。

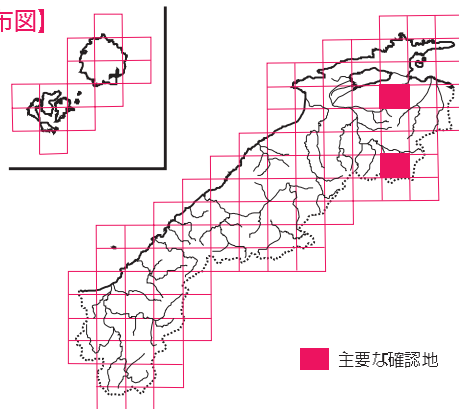
【県内での生育地域・生育環境】

最近まで出雲部の溜池や休耕田に産地が知られていたが、現在確実に分布する場所は知られていない。

【存在を脅かす原因】

溜池や休耕田の環境変化。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎										○		○									

シダ植物トクサ科

イヌスギナ

Equisetum palustre L.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

維管束植物

【選定理由】

県内の産地は1カ所のみ確認されており、個体数も少ない。他の産地から離れた分布であり、環境の変化により絶滅が心配される。

【概要】

湿地に群生する夏緑性草本で、地下茎は長く匍匐し、直立茎をつける。茎は高さ20-60cmで枝を輪生する。孢子嚢穂は主軸に頂生し1-3.5cm。0.5-3cmの柄を持つ。

国内では北海道や本州(関東・中部以北)に分布する。国外では北半球の温帯に広く分布する。栄養茎に孢子嚢穂をつけたミモチスギナとは枝の最下の節間が主軸の葉鞘より短いことで区別できる。

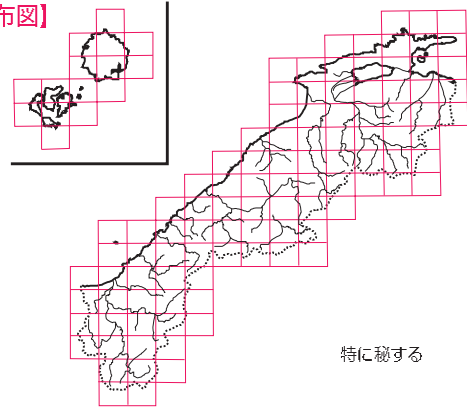
【県内での生育地域・生育環境】

近年、西部の湿地で確認したが、以前から分布が知られていたようである。他の地域とは非常に離れた分布ではあるが、自然分布と考えられ、非常に貴重な生育地である。

【存在を脅かす原因】

ごく限られた場所であり、遷移や乾燥化による絶滅が心配される。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎					○														

シダ植物キジノオシダ科

タカサゴキジノオ

Plagiogyria adnata (Bl.) Bedd.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

【選定理由】

産地・個体数ともに少ない。日本での分布の北限を構成している。

【概要】

地上生の常緑シダで根茎は短く斜上し、葉を叢生する。栄養葉は単羽状で、羽片の上側は中軸に流れてつく。頂羽片ははっきりせず、側羽片が鎌状に曲がる。

本州(伊豆諸島・伊豆半島以西の暖地)・四国・九州・南西諸島に生育し、国外では台湾・中国南部からアジアの熱帯に広く分布する。

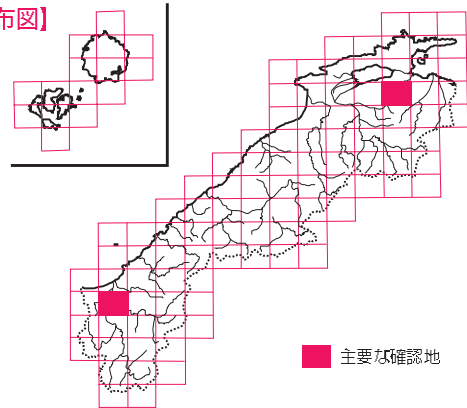
【県内での生育地域・生育環境】

県下での分布はとても希少で、西部と東部で局所的に生育していることが知られている。

【存在を脅かす原因】

森林伐採。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎																					

シダ植物コケシノブ科

ツルホラゴケ

Crepidomanes auriculatum (Bi.) K.Iwats.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内では生育地がきわめて少なく、個体数が限られている。国内での自生の北限となる。

【概要】

樹幹やまれに岩上に着生し、根茎が長く匍匐する。常緑で、葉柄は0.8-2cmで葉身は単羽状複生で長さ10-30cm、幅1.5-4cmで先端は円頭から鋭頭で基部はくさび形である。孢子嚢群は狭くなった裂片に生じ、包膜はコップ状である。

国内では本州南西部(和歌山県・三重県・島根県・山口県および伊豆諸島神津島)・四国・九州・南西諸島の森林中に見られ、インドからミクロネシア・マレーシアにかけての熱帯に分布する。

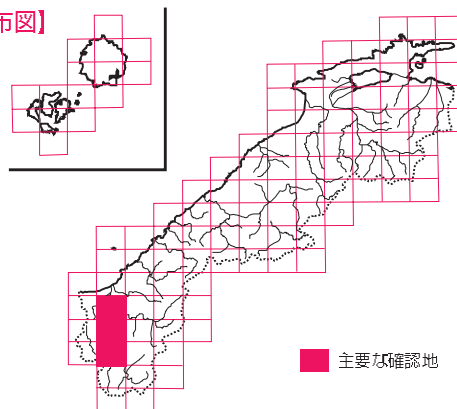
【県内での生育地域・生育環境】

西部の照葉樹林下の岩上に着生したものが確認されている。

【存在を脅かす原因】

附近の森林伐採にともなう環境の変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎						○													

シダ植物コバノイシカグマ科

フジシダ

Monachosorum maximowiczii (Bak.) Hayata

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内では西部に自生地が1カ所知られているだけである。

【概要】

地上生または岩上生の常緑のシダで、しばしば群生する。葉柄は光沢のある褐色で、5-10cmでほとんど無毛。根茎は短く斜上し、葉は単羽状複生で長さ15-30cm、幅2-3cm。葉は薄く、生時深緑色。羽片は50対前後ある。孢子嚢群は円形で小さい。

本州(福島県・関東地方以西)・四国・九州。国外では中国と台湾に分布する。

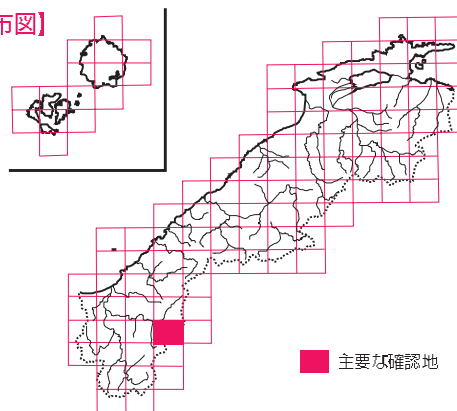
【県内での生育地域・生育環境】

県西部の山地に1カ所知られている。

【存在を脅かす原因】

森林伐採、遷移。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎		○																	

シダ植物ホウライシダ科

ハコネシダ

Adiantum monochlamys Eaton

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内では産地が限られている。

【概要】

常緑性のシダで、葉柄は光沢のある紫褐色から赤褐色であり、葉身は三角状卵形で3回羽状に分枝する。小葉は倒三角状卵形で基部はくさび形になり、胞子囊群が1個つく。胞子囊群のつく先端はややくぼむ。

国内での分布は本州・四国・九州であり、ややかわいた林中の岩上や岩の傍らの地上に生育し、朝鮮半島南部・中国・台湾に分布する。

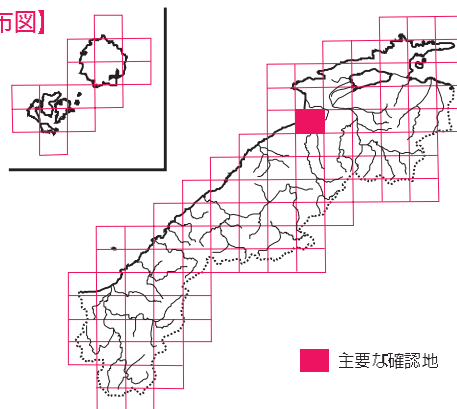
【県内での生育地域・生育環境】

県内では県東部の限られた場所にもみ分布するだけで、個体数も少ない。

【存在を脅かす原因】

森林伐採、土砂堆積、採集。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎													○									

シダ植物シシラン科

タキシダ

Antrophyum obovatum Baker

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: 絶滅危惧Ⅱ類(EN)

【選定理由】

県内で生育地は限られており、個体数はとても少ない。全国的にも希少な種である。

【概要】

常緑性のシダで、短い根茎から葉を叢生する。葉身は倒卵形で、上部から5分の1くらいのところ幅が最大となる。葉柄は普通は8cm以下であるが、10cmを超えるものもある。葉身は長さ10cm、幅6cm前後になる。胞子囊群は葉身の裏に縦に溝ができ、これに埋まってつく。

国内では本州(富山県・千葉県以西)・四国、九州で、やや陰湿な林中の溪流の近くの岩上に生じる。国外では台湾・中国からインドシナ半島・マレーシアに広く分布する。

【県内での生育地域・生育環境】

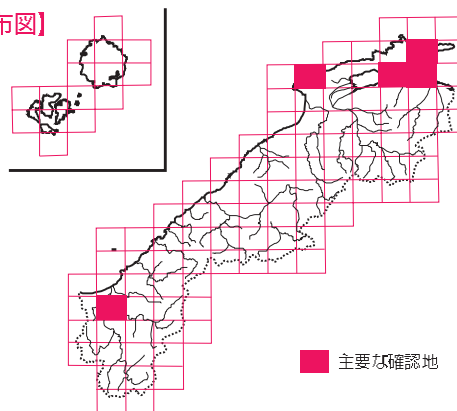
県内では東部に産地が知られていたが、環境の変化や採集により絶滅したところも多い。残っているところも個体数は僅かであり、絶滅が心配される。近年西部での

分布も確認された。

【存在を脅かす原因】

附近の森林の伐採、開発、採集。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎		◎						○														

シダ植物イノモトソウ科

アマクサシダ

Pteris dispar Kunze

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 1

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内では産地・個体数ともにも少ない。また、国内の日本海側での北限となっている。

【概要】

常緑性で根茎は短く、葉柄は光沢のある赤褐色で長さは20-25cm。葉身は2回羽状深裂し、広披針形から長披針形で、頂羽片がある。側羽片は3-6対ある。孢子嚢群は葉の縁につける。

国内では本州(関東地方以西)・四国・九州・南西諸島で、暖地の山麓から村落近くの日当たりのよい場所から陰地にかけて生育し、南部ではややふつうに見られる。国外では朝鮮半島・台湾・中国に分布する。

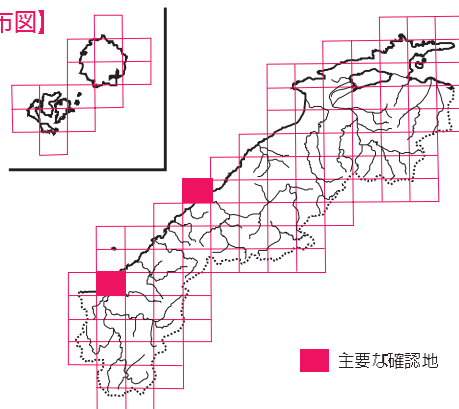
【県内での生育地域・生育環境】

現在、石見中部の海岸部の照葉樹林下に自生が知られ、別地域の記録もあるが現状不明である。

【存在を脅かす原因】

森林伐採、採集。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎						○													

シダ植物チャセンシダ科

クモノスシダ

Asplenium ruprechtii Kurata

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県下では個体数が少なく、きわめてまれである。

【概要】

常緑性の小型のシダで葉身は単葉で全縁、先端が長く伸び、先端近くに芽を出す。

北海道から九州まで広く分布し、山地の石灰岩上に生じることが多いが、安山岩などにも生じるといふ。国外では朝鮮半島・中国東北部・ソビエト東部に分布する。

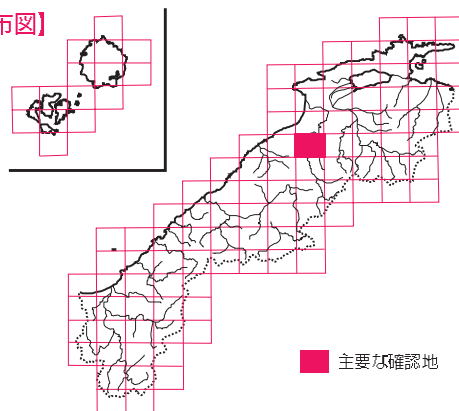
【県内での生育地域・生育環境】

東部の谷間の林下の岩に少数が生育していた。岩質は石灰岩以外のものである。現在は遷移により、現地確認をするのが困難な状況で、被陰による絶滅の可能性が高い。

【存在を脅かす原因】

遷移。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○								○														

シダ植物チャセンシダ科

イワトラノオ

Asplenium tenuicaule Hayata

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

生育地・個体数ともに少ない。

【概要】

常緑性の小型のシダであり、葉を叢生する。葉柄は短く2-5cmで葉身は2回羽状複生し、広披針形から三角状長楕円形で、鋭頭。長さ2-15cm。幅1-4cm。孢子嚢群は裂片に1-4個つき長楕円形で長さ2-3mm。

北海道・本州(主として太平洋側)・四国・九州でやや薄暗い岩上に生じる。国外では台湾から中国・ヒマラヤに分布する。

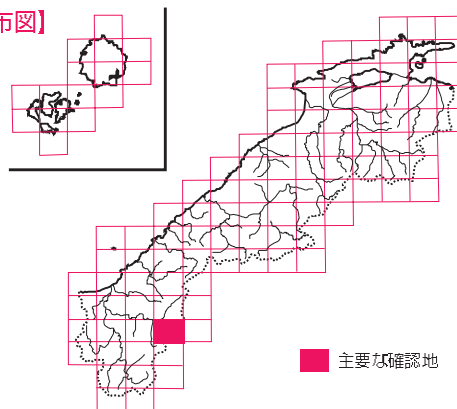
【県内での生育地域・生育環境】

県西部の生育は標本として以前から知られていたが、近年同場所で再発見された。

【存在を脅かす原因】

土壌堆積、遷移、採集。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎						○														

シダ植物オシダ科

カツモウイノデ

Ctenitis subglandulosa (Hance) Ching

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 1

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

日本での自生北限であり、個体数も少ない。

【概要】

常緑性の大型のシダであり、根茎は短く、葉を叢生し、葉柄は長さ40-80cmで密に鱗片をつける。基部の鱗片は褐色をおびたわら色で、上部は黄褐色。葉身は卵状三角形で3回羽状深裂する。

国内での分布は本州(千葉県・伊豆半島・伊豆諸島・紀伊半島南部・島根県)・四国南部・九州・南西諸島で山地の林下に群生する。国外ではインド北東部・中国南部・台湾・グアム・フィリピン・ジャワ・バリ・東ニューギニアとフィジーに分布する。

【県内での生育地域・生育環境】

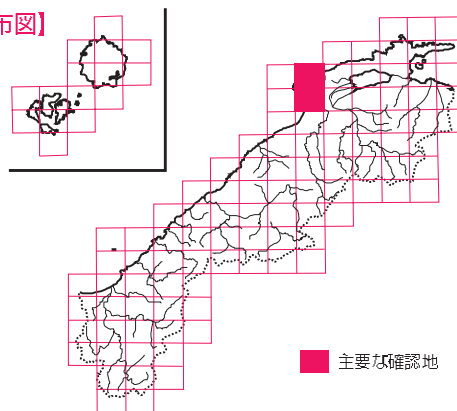
県内では島根半島の西部に数カ所の自生が見られる。個体数の多いところもあるが、個体数が減少しているところもある。スギ林の林床に自生しているものが多く、一斉伐採や、シカの食害により絶滅することが心配され

る。日本海側では佐賀県から飛び離れて分布する国内の自生北限である。

【存在を脅かす原因】

一斉伐採、シカの食害。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎								○														

シダ植物オシダ科

イズヤブソテツ

Cyrtomium fortunei J.Sm. var. *atropunctatum* (Kurata) K.Iwats.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 1

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

全国的に個体数が少なく。県下では個体数が非常に少ない。分布の北限を構成する。

【概要】

常緑性で葉を叢生する。側羽片は10-20対で広披針形、耳片は発達しない。包膜の中心部が黒褐色で辺縁は不規則に切れ込む。

本州（静岡以西）・四国（徳島県）・九州の山林中に見られる。現在、国内に固有の変種とされている。

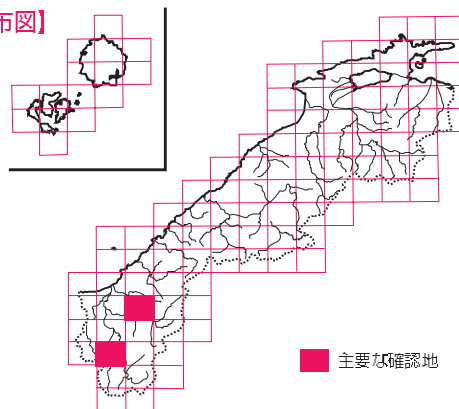
【県内での生育地域・生育環境】

石見西部の林下に生育が確認されている。

【存在を脅かす原因】

森林伐採。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎		○																	

シダ植物オシダ科

ツクシャブソテツ

Cyrtomium macrophyllum (Makino) Tagawa var. *tukusicola* (Tagawa) Tagawa

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

全国的に個体数が少なく。県下では個体数が非常に少ない。分布の北限を構成する。

【概要】

常緑性のシダ植物で、葉を叢生する。側羽片は6-10対程度であり、幅がヒロハヤブソテツに比べ、やや狭く、長楕円形から狭長楕円形。基部が円みを持たず、広いくさび形である。頂羽片も小さい。包膜に鈍鋸歯があり、中央部の色がやや濃い。

本州（栃木県・千葉県以西）・四国・九州で山林中の比較的湿ったところに生じる。国外では中国に産する。

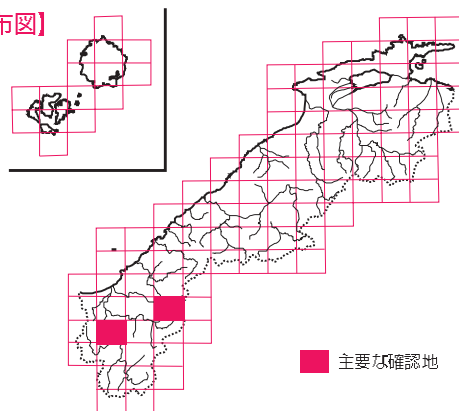
【県内での生育地域・生育環境】

県下では、西部の谷の林下に少数生育しているものが確認されている。

【存在を脅かす原因】

森林伐採、土砂堆積。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎		○																	

シダ植物オシダ科

ホウライヒメワラビ

Dryopteris hendersonii(Bedd.)C.Chr.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 1

島根県固有評価: -

環境省:絶滅危惧ⅠB類(EN)

維管束植物

【選定理由】

個体数が少なく、他の分布と非常にはなれた分布となっている。

【概要】

常緑性のシダで根茎は短く、横走から斜上する。葉柄は長さ40-60cmで開出する鱗片を密生し、下部は淡褐色～濃褐色である。葉身は30-50cm、幅30-60cmで広卵状三角形～卵形で下部は4回羽状深裂～全裂する。最下羽片が最大で非対称の三角形である。孢子嚢群は小羽軸の近くにつき、包膜は小さい。似たホウノカワシダとは葉柄の鱗片は淡褐色～濃褐色で、小羽片の裂片は狭披針形、鋸歯縁、脈がはっきり見え、包膜があることで区別されている。

国内では屋久島の山地に生育が知られており、国外ではヒマラヤ・タイ北部・中国・台湾・フィリピンに分布する。

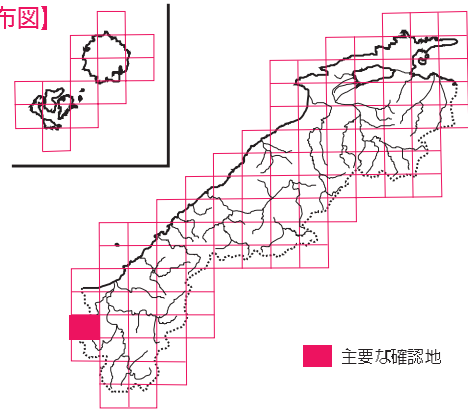
【県内での生育地域・生育環境】

近年西部の山地の林下の谷に生育が知られた。個体数はわずかである。

【存在を脅かす原因】

森林伐採、土壌堆積。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎						○													

シダ植物オシダ科

ナガサキシダ

Dryopteris sieboldii(van Houtte ex Mett.)O.Kuntze

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

生育地・個体数ともに少ない。国内での自生の北限域をなすものである。

【概要】

常緑生で、根茎は短く、葉は奇数羽状複葉である。側羽片は2-6対あり、線形で鋭尖頭、基部は円形から切形で長さは15-30cmである。頂羽片も側羽片と同様な形である。

千葉県以西の本州の太平洋側と四国・九州に分布し、石川県でも発見されているという。山地の林下に生じる。

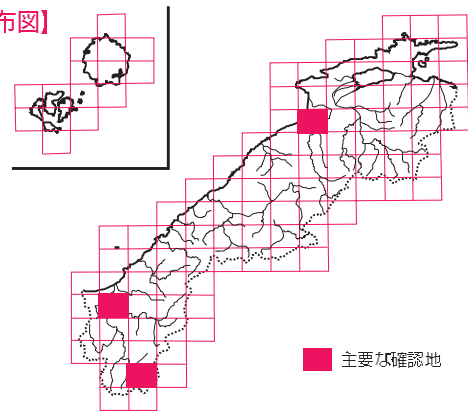
【県内での生育地域・生育環境】

石見西部に少数の分布が知られていたが、近年東部にも分布が知られた。スギ林の林床に生育する。

【存在を脅かす原因】

森林伐採。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎		◎		○				○													

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

シダ植物ヒメシダ科

ホソバシヨリマ

Thelypteris beddomei (Bak.) Ching

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地は1カ所のみ知られている。全国的に希少な種である。

【概要】

根茎が長く這い、先端部に葉をつける、葉柄はわら色で長さ約10cmでまばらに鱗片をつける。葉身は倒披針形で鋭尖頭、長さ20-50cm、幅5-8cm、下部の羽片はしだいに短くなり、下部数対は耳状になる。胞子囊群は裂片の辺縁よりにつき、胞膜は円腎形である。

静岡県・中部地方西部・中国(広島・山口)・四国(徳島県・愛媛県)・九州(北・中部)と屋久島にやままれに分布する。国外では韓国(済州島)・インド・スリランカからニューギニアにかけての地域に分布する。

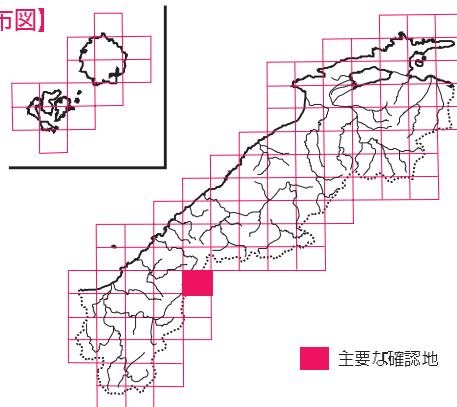
【県内での生育地域・生育環境】

近年、県西部で生育地が確認された。

【存在を脅かす原因】

遷移。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎							○												

シダ植物ヒメシダ科

ヒメハシゴシダ

Thelypteris cystopteroides (Eaton) Ching

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地は1カ所のみ知られている。国内で北限となる。

【概要】

常緑性で、根茎が長く這い、間隔をおいて葉をつける。葉柄は長さ2-4cm、わら色で有毛。基部は黒色。葉身は3-8cm、幅0.8-2cmで、長楕円形~広披針形で鋭頭。羽片は4-8に切れ込み、円頭である。胞子囊群は裂片の辺縁よりにつき、胞膜は円形から楕円形で、包膜は円腎形である。

国内では主として太平洋側で伊豆半島・紀伊半島南部・四国南部・九州(西・南部)・南西諸島に分布している他、広島県(宮島)で確認されている。また近年、山口県の北部の海岸部で確認されたが、県内の分布はこの産地に近い場所である。国外では台湾に分布し、明るい林下や斜面、路傍に生育する。

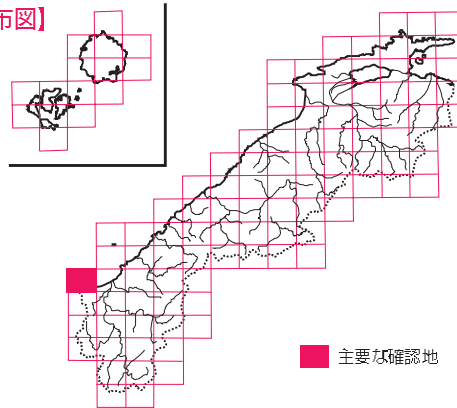
【県内での生育地域・生育環境】

西部の海岸に近い道路脇の斜面で確認されている。

【存在を脅かす原因】

遷移、開発。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎																	○		

シダ植物ヒメシダ科

ミゾシダモドキ

Thelypteris omeiensis (Bak.) Ching

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

国内での生育地は少なく、県内の分布は国内の分布の北限域を構成している。日本海側では他に生育地はなく、熊本県や愛媛県から飛んで分布しているきわめて貴重な種である。

【概要】

常緑で根茎は這い、葉が約5mmと短い間隔でつく。葉柄は20-40cmで葉身は長楕円状披針形で下部に向かってしだいに狭まる。これは下部の羽片が短くなることによる。2回羽状中裂から深裂し、側脈が単状ではっきり見え、胞子嚢は裂片の中肋よりに生じ、円形である。

千葉県以西の本州南部と四国・九州の山地にやままれに生じる。国外では朝鮮半島・中国・台湾に分布する。

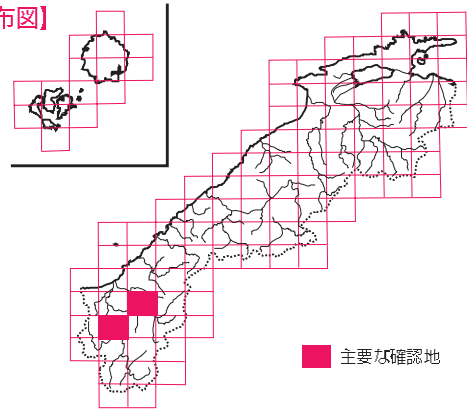
【県内での生育地域・生育環境】

現在知られている県内の分布は石見部西部の3カ所である。いずれも個体数はわずかで、林下の常時湿った状態にある若干土壌の堆積した岩壁に生育している。

【存在を脅かす原因】

森林伐採。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎		○																	

シダ植物イワテンダ科

ヘイケイヌワラビ

Athyrium eremicola Oka et Kurata

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 1

島根県固有評価: -

環境省: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【選定理由】

柿木村の鈴の大谷山が基準標本産地であるシダ植物であり、全国的に個体数の少ないものである。県内でも産地は少なくとも希少である。

【概要】

常緑性で根茎は直立し、数枚の葉を叢生する。葉柄は赤紫色をおび、長さ約20cm、1回羽状深裂する。

県西部と近隣の山口県・広島県に産地が知られていたが、近年県内では東部に、また県外では鳥取県西部や兵庫県でも自生が確認されている。

【県内での生育地域・生育環境】

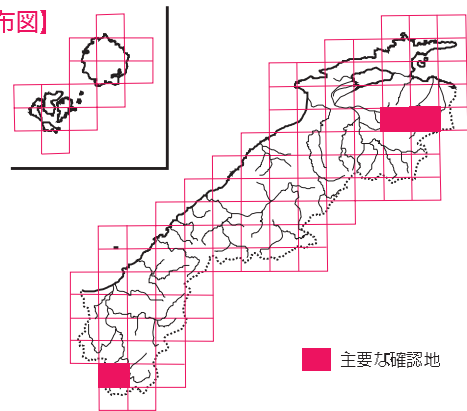
現在東部と西部でそれぞれ数カ所知られるのみである。

基準標本産地の鈴の大谷山では樹林伐採・崩土で絶滅した場所もあったようである。森林に覆われた陰湿な斜面に生育する。

【存在を脅かす原因】

森林伐採、採集。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎		◎		○																	

シダ植物イワデナダ科

フクロシダ

Acystopteris japonica (Luerss.) Nakai

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 1

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内では個体数が少ない。

【概要】

緑性のシダで根茎は短く直立し、葉を叢生する。葉柄は長さ1-7cmで関節はなく、赤褐色で光沢がある。葉身は2回羽状深裂し、狭披針形、鋭尖頭で長さ5-30cm、幅1.5-5cm。胞子囊群は裂片の辺縁近くにつき、包膜は球形囊状で大きいので名前の由来になっている。

北海道から九州の各地に生育するが、北部に多い。山林や林縁などの岩上に生じる。

国外では朝鮮半島・中国（北部・東北部）・アムール・ウスリーに分布する。

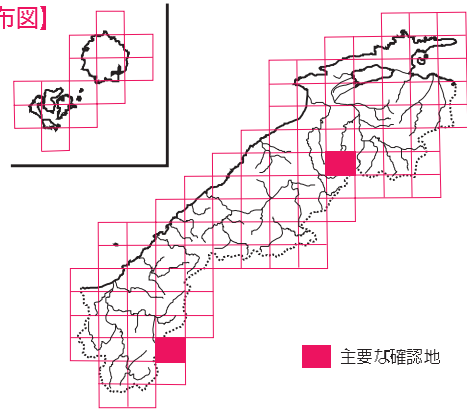
【県内での生育地域・生育環境】

中国山地の林下の岩上に少数生育しているのが知られている。いずれも個体数が少なく、現在確実に生育している場所は少なくなっている。

【存在を脅かす原因】

遷移、採集。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎								○														

シダ植物ウラボシ科

クラガリシダ

Drymotaenium miyoshianum (Makino) Makino

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: 絶滅危惧ⅡB類 (EN)

【選定理由】

県下では生育地は限られており、個体数が非常に少ない。全国的にも同様である。

【概要】

常緑性で葉は狭線形で長さは30-50cm、中肋は表面がくぼんで1条の溝となる。胞子囊群は連なって線形となる。

国内では本州（能登半島・長野・静岡・愛知・岐阜・近畿地方・中国地方西部）・四国・九州（大分県耶馬溪）で、深山の原生林中の樹幹や岩上に生じる。国外では台湾と中国（中部から南西部）に分布する。

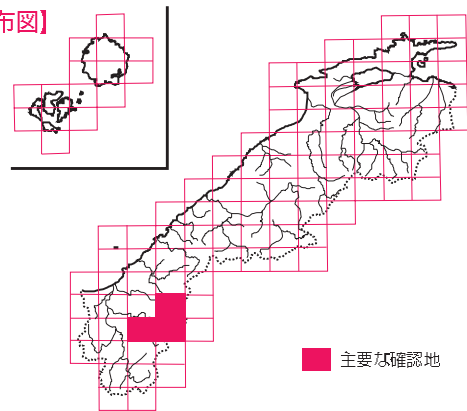
【県内での生育地域・生育環境】

石見西部の奥地の陰湿な場所の樹幹や岩上に少数生育する。

【存在を脅かす原因】

森林伐採、採集。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎		○				○														

シダ植物ウラボシ科

ホテイシダ

Lepisorus annuifrons(Makino)Ching

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 1

島根県固有評価: -

環境省: -

維管束植物

【選定理由】

県内で生育地は少なく、全国的にも個体数は少ない。

【概要】

根茎は長く這い、葉柄は3-5cmで葉は披針形で基部に近いところで幅が最大になり、基部はくさび型、先端は尾状に伸び、やや尖る。孢子嚢群は円形で、中肋よりにつく。北海道から九州までの各地で、林中の樹幹や岩上に生じる。朝鮮半島にも分布するようである。

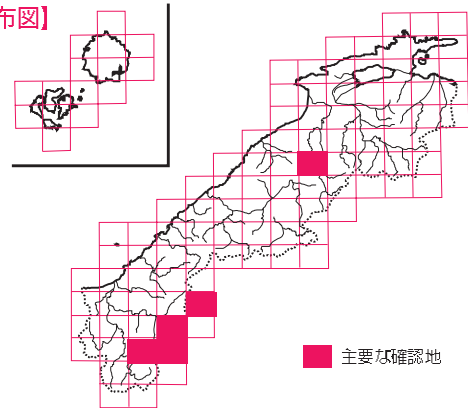
【県内での生育地域・生育環境】

県中部の山中や西部のブナ帯の樹幹に少数生育しているのが確認されている。

【存在を脅かす原因】

森林伐採、採集。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	◎	◎		○																	

シダ植物ウラボシ科

ヌカボシクリハラン

Microsorium buergerianum(Miq.)Ching

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

【選定理由】

暖地に生えるシダ植物で、山陰地方では隠岐諸島にだけ分布するともまれな植物である。現地ではごく少数の個体しか確認されず、国内での分布の北限となるものである。

【概要】

常緑性で根茎は長く伸び、まばらに葉をつける。葉は単葉で縁は全縁からわずかに波打ち、葉身は披針形から狭披針形で長さ10-30cmほどである。孢子嚢群は円形で下面にやや不規則に散在する。

本州(千葉県・伊豆諸島・伊豆半島・紀伊半島・山口県・島根県)・四国(太平洋側)・九州・南西諸島に分布する。島根県の分布は山口県から飛んで隠岐諸島に分布するものである。

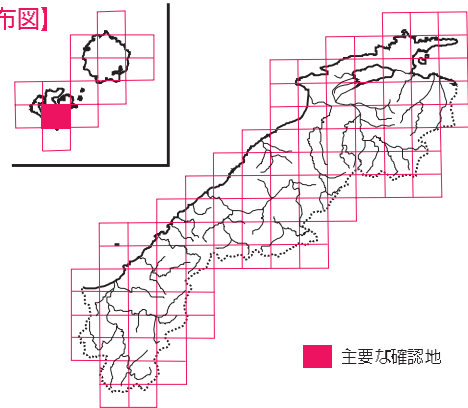
【県内での生育地域・生育環境】

常緑樹林に生育している。

【存在を脅かす原因】

森林伐採。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎					○													

シダ植物ウラボシ科

オオエゾデンダ

Polypodium vulgare L.

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 2

島根県固有評価: -

環境省: 絶滅危惧ⅠB類(EN)

【選定理由】

県内での生育地は隠岐諸島に限られているが、遷移により生育地の環境が悪化し、中には消失した場所もある。

【概要】

山地の岩上に生え、根茎は這い、長さ20-30cmばかりの単羽状の葉をつける常緑の多年生のシダ植物である。

国内では北海道と本州北部に僅かに分布し、山陰では鳥取県の一部と県内の隠岐諸島にのみ分布する。国外では朝鮮半島、中国、ロシア東部からヨーロッパ、北アメリカと北半球の温帯に広く分布域があるとされる。

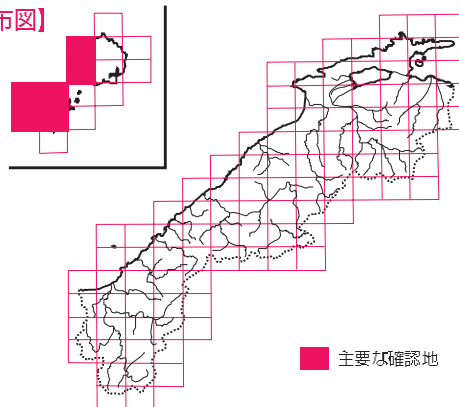
【県内での生育地域・生育環境】

隠岐諸島では主要4島のいずれにも生育が知られていた。ミツバイワガサなどの低木群落に出現する隠岐諸島に特有な種であり、牛馬の放牧に起因する露岩地が生育適地となっていた。しかし放牧の廃止に伴う遷移により絶滅しているところもあり、今後の推移が非常に心配される種である。

【存在を脅かす原因】

遷移。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	○	○			○	○												

シダ植物ウラボシ科

イワオモダカ

Pyrrhosia hastata (Thunb.ex Houtt.) Ching

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

全国的にまれな植物であり、県内ではきわめてまれな植物である。

【概要】

常緑性で葉柄は12-25cmと長く、葉身は3-5裂し、葉裏は赤褐色の星状毛で密に覆われている。胞子嚢群は主側脈の間に3-7列に並ぶ。

北海道から九州まで分布し、深山の林中の岩上や樹幹に着生する。

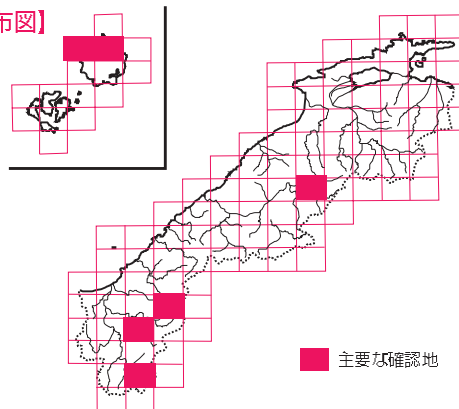
【県内での生育地域・生育環境】

隠岐諸島を含む、各地の岩上や樹幹に着生しているが見られるが、きわめてまれである。

【存在を脅かす原因】

森林伐採、採集。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎			◎	◎				○														

シダ植物アカウキクサ科

アカウキクサ

Azolla imbricata (Roxb.ex Griff.) Nakai

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 □絵 2

島根県固有評価: -

環境省:絶滅危惧ⅠB類(EN)

【選定理由】

全国的にまれな植物となっており、県内ではきわめてまれな植物である。

根毛がある。似たオオアカウキクサは葉の上部に突起がないかほとんどなく、根毛は早落性なので区別できる。

本州(東京都と東海地方以西の暖地)・四国・九州・南西諸島で、水田や湖沼、溝などの表面に生じ、冬季に特に鮮やかな赤色となる。除草剤の影響で減少が著しい。

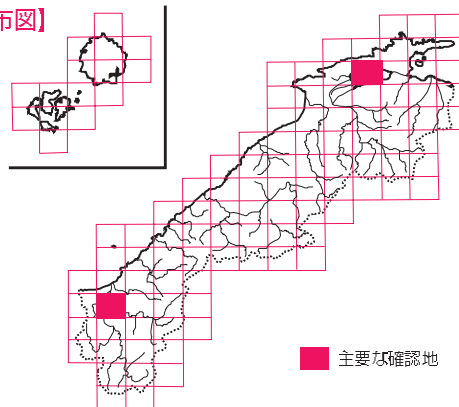
【県内での生育地域・生育環境】

東部に自生していたが絶滅した。近年でも生育が確認された場所があるが、消長が激しく見られなくなったようである。西部では、近年になって新たに生育が確認されている。

【存在を脅かす原因】

除草剤散布。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎		○								○											

モクレン目モクレン科

オオヤマレンゲ

Magnolia sieboldii K. Koch

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 □絵 2

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数がきわめて少なく、まれである。

【概要】

夏緑性の低木で、長さ15cm前後、巾10cm前後のやや大きい葉を互生する。花は径10cm程で白色、芳香があって特徴的である。西日本の山地に分布するが産地は多くないものとされる。

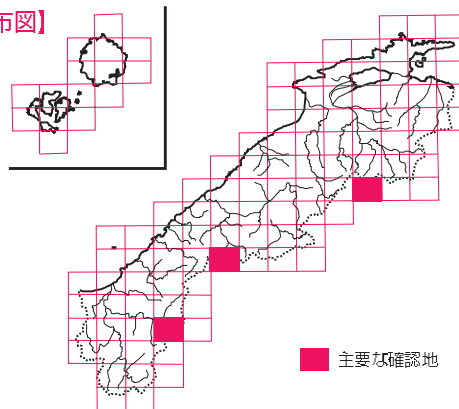
【県内での生育地域・生育環境】

県内では中国山地脊梁部にまれに生育地が存在するが、個体数は僅かであって絶滅が心配される。

【存続を脅かす原因】

種々の目的による樹木伐採と園芸上での枝の採取、掘り取り。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎	○		○																	

キンポウゲ目キンポウゲ科

ミチノクフクジュソウ

Adonis multiflora Nishikawa et Ko.Ito

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 2

島根県固有評価: -

環境省:準絶滅危惧 (NT)

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も限られている。

【概要】

夏緑林内に生える草丈30cmばかりになる多年草。早春、芽を出すと同時に花が咲く。花は径4cm程で、多数の黄色の花弁をもつ。花後に茎が伸びると同時に葉も大きく開き、3~4回羽状葉を互生する。夏には地上部はすべて枯れる。古くから栽培されている植物で、自生品があれば必ず採取されるであろう。

国内では本州の東北地方以南から九州にかけて分布する。

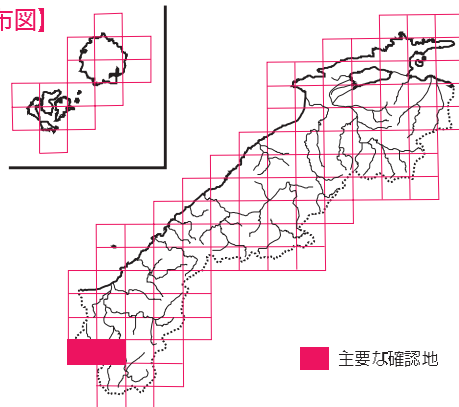
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は石見部西部にまれに見られる。夏緑二次林内のやや明るい林床に生える。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開と園芸上での採集が考えられる。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○							○												

キンポウゲ目キンポウゲ科

ミスミソウ

Hepatica nobilis Schreber var. *japonica* Nakai

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 2

島根県固有評価: -

環境省:準絶滅危惧 (NT)

【選定理由】

県内での生育地は限られている。

【概要】

山地の林内、林縁に生える常緑性の多年草。植物体は地下茎をもち、葉を数枚根生し、草丈は10cmばかりのもの。葉は長さ5cm前後の葉柄があって、葉身は三角形で基部が心形、3中裂し、裂片の先は鋭頭である。花は春に咲き、長さ10cm前後の花茎を出して、先に径1cm程の白色の花をつける。本州の中部地方以西から九州北部に分布する。

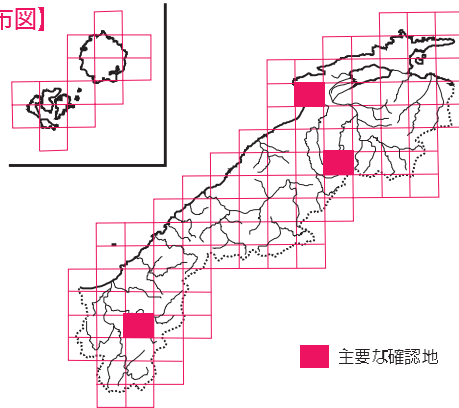
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部から石見部にかけて生育地が点在するが、限られている。隠岐諸島での生育地は不明である。主として夏緑二次林内に生えている。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開による生育地の環境変化。園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○																	

キンポウゲ目キンポウゲ科

ヒメバイカモ

Ranunculus kadzusensis Makino

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 □絵 2

島根県固有評価: -

環境省:絶滅危惧ⅠB類(EN)

【選定理由】

生育場所が限定されており、その生育場所で河川改修やツルヨシによる被陰が進行している。

【概要】

湖沼、溜池、河川などに生育し、国内では本州及び九州にまれに分布。北海道から本州に広く分布するバイカモに比べて葉や花が小形で、葉柄の長さ4-12mm、葉身の長さ1.5-3cm、花の直径約1cm以下。花柄はあまり伸びず、長さ1-3cmの範囲にあることと、果実に毛が無い点でバイカモと区別することができる。九州にはバイカモが無く、ヒメバイカモのみが分布している。種子または根茎で越冬する。

【県内での生育地域・生育環境】

県西部の高津川水系の上中流域にのみ生育。

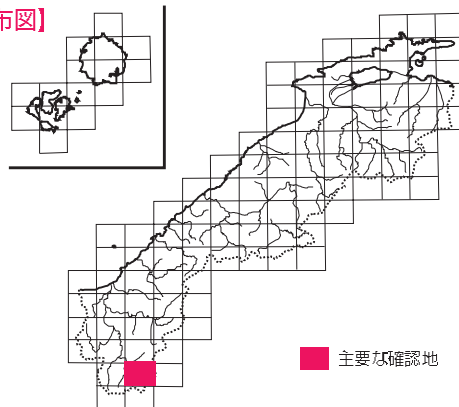
【存続を脅かす原因】

河川改修、ツルヨシによる被陰。

【特記事項】

平成24年3月に「島根県希少野生動植物の保護に関する条例」に基づく指定希少野生動植物に指定されている。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		◎				○															

キンポウゲ目キンポウゲ科

バイカモ

Ranunculus nipponicus (Makino) Nakai var. *submersus* Hara

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 □絵 2

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

生育場所が限定されており、河川改修や水質汚濁が進行している。一河川では長年にわたって多数のパッチが確認されているものの、農業用水路などでは衰退が目立ってきていることから、今回ランクをこれまでの絶滅危惧Ⅱ類から絶滅危惧Ⅰ類に変更した。

【概要】

冷涼な清流中や湧水池に群生する日本固有の多年生沈水植物。

北海道及び本州各地に広く分布するが、水温が通年20℃を越えない冷涼な環境を好むため、本州南西部ではその生育場所は河川の上流や湧水のある場所に限られる。糸状に細裂する葉は互生し、葉身の全長は3-7cm、葉柄の長さは0.5-2cmで房状になる。白色5弁の花は水面または水上に出るが、流れの速い場所では水中で開花し結実する。種子による繁殖のほか、節から不定根を出し、切れ目による栄養繁殖も行う。

【県内での生育地域・生育環境】

三瓶山とその周辺の限られた河川や水路中にのみ生育。

【存続を脅かす原因】

河川改修。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○					○															

キンポウゲ目メギ科

サンカヨウ

Diphylleia grayi Fr. Schm.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価:分布限界種(南限)

環境省:—

【選定理由】

生育地が極限されていて、将来でのこの種の県内での存在が危惧される。

【概要】

冷温帯の林内に生える多年草。植物体は草丈30cm前後で、茎の上部に大小2枚の葉をつけ、茎の先に径2cm程の白花を数個つけて咲く。実は径1cm程で藍色に熟し、時に美しく見える。北海道から中国山地にかけて分布する。

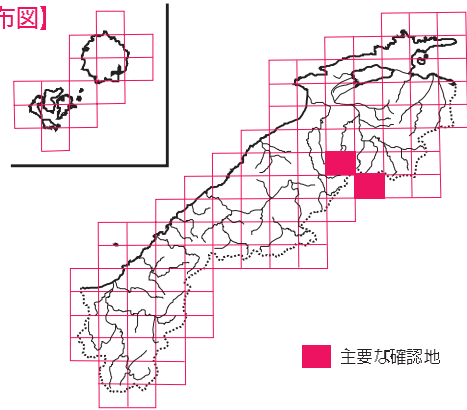
【県内での生育地域・生育環境】

県東部の中国山地脊梁部、主としてブナ林内に群生する。

【存続を脅かす原因】

森林伐開と園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎				○																	

キンポウゲ目スイレン科

オニバス

Euryale ferox Salisb.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 □絵2

島根県固有評価:—

環境省:絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【選定理由】

県内での現在の産地が1カ所に限定されており、除草剤並びにザリガニやウシガエルなど移入種による被害によって産地の環境が悪化している。

【概要】

1属1種で本州、四国、九州に分布。植物体全体が長さ1-3cmほどの鋭い棘で覆われる1年生の浮葉植物で、やや富栄養化した泥深い池沼や用水路に生育する。塊状の茎から太いひげ根を多数泥中に伸ばし、時に直径2m以上にもなる大型の浮葉を叢生する。光沢のある葉の表面にはしわが多数あり、裏面は濃紫色を帯び、葉脈が椀状に隆起する。花には水中で自家受粉して結実する閉鎖花と、水面上で開花する開放花の2つあり、花卉の色は赤紫色で美しい。果実は長さ5-15cm、幅5-10cmの楕円形で、熟すと分解して寒天質の仮種皮によって包まれた直径約1cmの黒色の種子を多数放出する。種子は仮種皮が腐るまでの1-2日間水面に浮かび、その間に

分散する。種子は埋土種子として数十年間にわたって休眠状態を保つことが報告されている。

【県内での生育地域・生育環境】

昭和30年代までは松江城の堀にも群生していたが、現在は松江市内の1つの溜池にのみ自生している。

【存続を脅かす原因】

除草剤と移入種による被害。

【特記事項】

日本各地の自生地で保護・保全のための施策が取られ始めており、島根県では平成22年12月に「島根県希少野生動物植物の保護に関する条例」に基づく指定希少野生動物植物に指定されている。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎																	○				

ウマノスズクサ目ウマノスズクサ科

マルバウマノスズクサ

Aristolochia contorta Bunge

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 3

島根県固有評価: -

環境省: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

維管束植物

【選定理由】

生育地が極限されていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

多年生の蔓草で、枝分れして数mに伸びる。葉は卵形で基部は心形、長さ5cm前後で互生する。花は葉の腋に数個ずつ着き、萼筒は球形で先が細長く伸びる特徴的な形である。実は緑色で長さ3cm程の卵形、3-4cmの柄があって下垂する。

朝鮮半島、中国北部に分布が続く大陸系の植物である。日本で最初に気づかれたのは島根であり、松江市八雲町岩坂で採集されたものである。現在でも、岩坂地内には生育地が確認されている。国内では長野、山形、群馬、岐阜、島根だけに分布する。

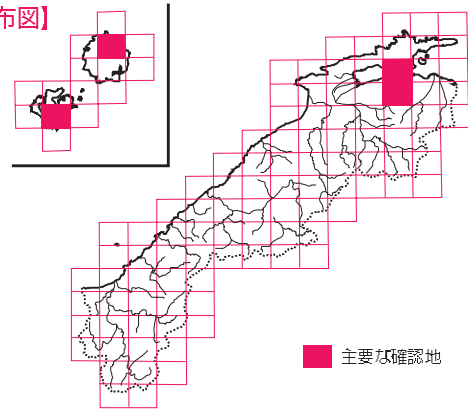
【県内での生育地域・生育環境】

県内では東部と隠岐諸島にだけ生育地が知られていて、路傍、林縁、川土堤などに生える。

【存続を脅かす原因】

草地の刈り取り、諸土地造成。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎			◎						○		○			○		○					

ウマノスズクサ目ウマノスズクサ科

ウスバサイシン

Asiasarum sieboldii (Miq.) F. Maek.

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 3

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

生育地は限られていて、生育地での個体数がきわめて少なく、まれである。

【概要】

多年生の草本で、普通は地際に2枚の葉をつけて生える。葉は卵状で基部心形、長さ7-8cm程。花は早春、地際に咲いて、径1cm前後、濃紫色。萼筒は半球形で萼裂片は3枚で外側に反り返る。

本州、四国、九州に生える。

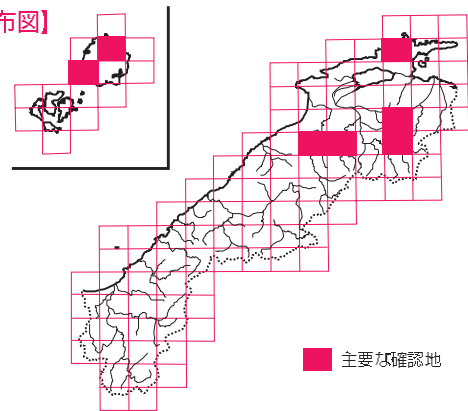
【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐(島後)、東部に生育地が点在して、主として夏緑樹林内に見られる。

【存続を脅かす原因】

森林伐開、森林の照葉樹林化、諸土地造成及び、園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎			◎	○																	

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

オトギリソウ目ボタン科

ベニバナヤマシャクヤク

Paeonia obovata Maxim.

島根県：絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 3

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【選定理由】

生育地は極限され、生育地での個数もきわめて僅かである。

【概要】

夏緑樹林内に生える多年草で草丈は30-50cm程。葉は2回3出複葉で2-3枚着き、径5-6cmの薄桃色の花を1個咲かせる。

朝鮮半島から中国東北部に分布が続く大陸系の植物で、国内では北海道から九州まで分布する。

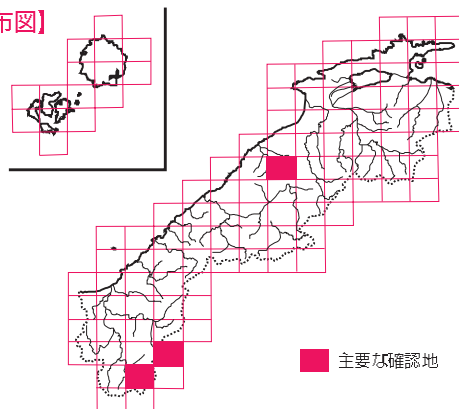
【県内での生育地域・生育環境】

県内では中部、西部の中国山地沿いの夏緑林内に分布するが、生育地はまれである。

【存続を脅かす原因】

森林伐開と園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○		○																	

オトギリソウ目マタタビ科

シマサルナシ

Actinidia rufa (Sieb. et Zucc.) Planch. ex Miq.

島根県：絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：分布限界種 (北限)

環境省：－

【選定理由】

生育地が極限されていて、個体数もまれである。

【概要】

夏緑性の蔓性木本で、多く分枝して周りに絡みつき、繁茂する。葉は楕円形で長さ15cm前後、巾5cm前後で互生する。花は白く径1.5cm程で、雄花、雌花、両性花をつける。果実は秋に熟し、楕円形で、長さ3-4cm程。

分布は本州の南部、中国地方西部から南、四国、九州、南西諸島の範囲にある。

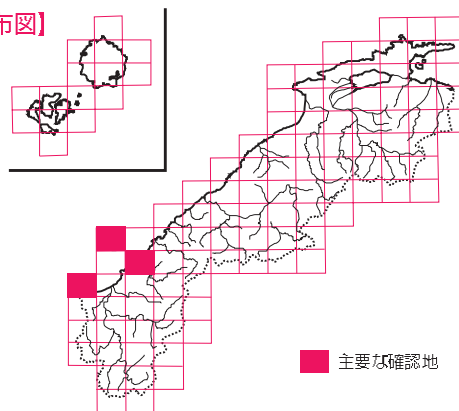
【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見部西部にのみ分布し、日本海沿岸の暖地の主として林縁に生育する。

【存続を脅かす原因】

森林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○																	○		

オトギリソウ目オトギリソウ科

ダイセンオトギリ

Hypericum asahinae Makino

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 □ 絵 3

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

生育地がきわめて限られ、生育地での個体数もきわめて僅かである。

【概要】

草丈20-30cmの多年生草本。葉は楕円形で、長さ2-3cm、巾5mm前後で対生し、多くは十字対生状にやや密に着く特徴がある。花は径2cm程で黄色5花弁に黒点、黒線がある。

北陸から中国地方の高地に分布する植物。

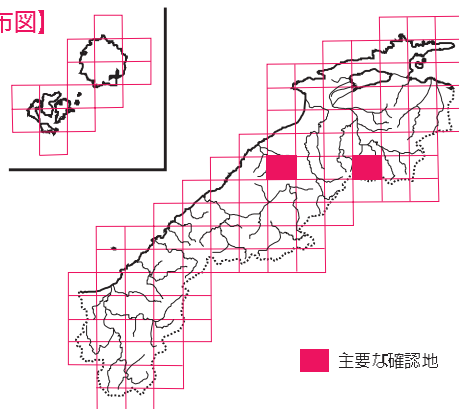
【県内での生育地域・生育環境】

県内では東部、中部の山地高所に僅かに分布し、主として山頂、尾根筋の露岩地状の乾燥する立地に生える。

【存続を脅かす原因】

草原化、樹林化等の遷移と園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○				○																

バラ目ユキノシタ科

ツルネコノメソウ

Chrysosplenium flagelliferum Fr. Schm.

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

生育地はきわめてまれで、個体数も僅かである。

【概要】

夏緑樹林内の沢沿い湿り気の強い岩上などに生える草本。走出枝があって径1cm程の葉を互生して、高さ5cm程の花茎を立て頂部に黄緑色の花を集散花序に2~3個ずつつける。花後、走出枝が伸びて、先端に根生葉をもつ新株をつくる。

国内では四国に分布して、本州では近畿以北、北海道にあり、少しばかり北方系の種のようなものである。

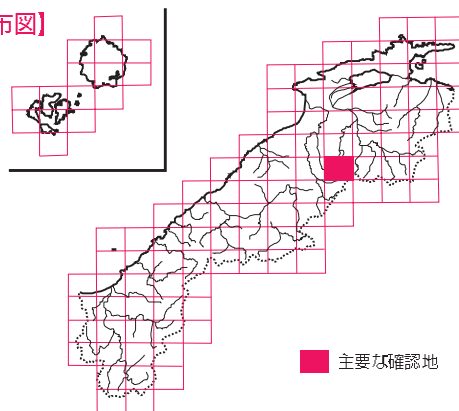
【県内での生育地域・生育環境】

県内では東部にきわめて僅かな産地があり、個体数も限られている。冷温帯夏緑樹林内の谷川沿いの水湿な岩上に生育する。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開、趣味園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	

バラ目ユキノシタ科

キレンゲショウマ

Kirengeshoma palmata Yatabe

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 3

島根県固有評価: -

環境省:絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【選定理由】

生育地はきわめて限られており、生育個体数も限られている。

【概要】

夏緑林内の湿り気の強い地に生える多年草。草丈は1m前後になるやや大形のもので、葉は浅く裂けたほぼ円形で径15cm前後あって、対生する。茎の先端部に筒状の黄色5花弁、長さ3-4cmのやや大きな花を多数つけて咲く。

国内では紀伊半島から四国、九州に分布し、いわゆる襲速紀要素の代表的植物として知られる。

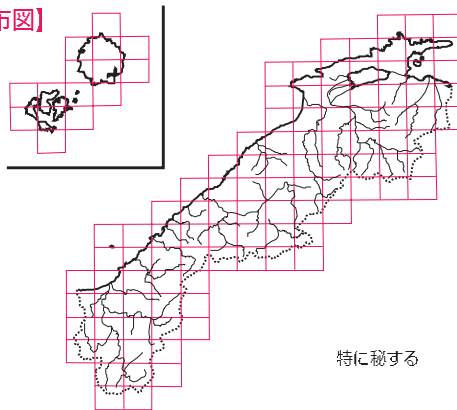
【県内での生育地域・生育環境】

県内では西部中国山地にのみ生育地が知られ、冷温帯林の沢筋深山の崖錐地に群生する。

【存続を脅かす原因】

森林伐開と園芸上での採取。

【分布図】



特に秘する

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○																	

バラ目ユキノシタ科

ザリコミ

Ribes maximowiczianum Komarov

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

生育地がきわめて限られており、個体数も僅かである。

【概要】

夏緑性の低木で枝を多く分けて、2m程の高さで叢生する。葉は多くは大きく3裂して概形は五角形である。雌雄異株の植物とされ、雄花序には黄緑色の小花を10個ばかり、雌花序には2-3個つける。果実は径2mm程で赤く熟す。

国内では東北地方から中国地方、四国の冷温帯林域に分布する。

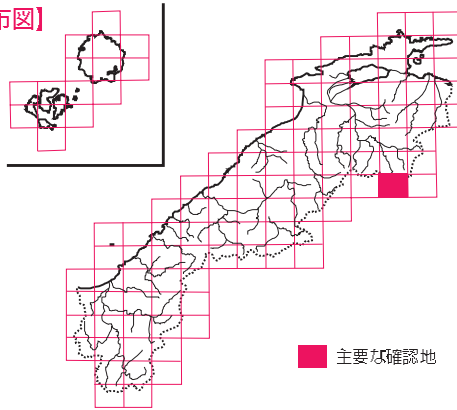
【県内での生育地域・生育環境】

県内では東部の中国山地脊梁部ブナ林内、露岩地に生えている。

【存続を脅かす原因】

森林伐開。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○																					

バラ目バラ科

ヒロハノカワラサイコ

Potentilla nipponica Th. Wolf

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 3

島根県固有評価:分布限界種(南限)

環境省:絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数は明らかに減少している。

【概要】

植物体は地際に根生葉を数枚つける。葉は単羽状複葉で、小葉はさらに中裂する。開花株では数本の茎を出し、花は夏に咲き、径1.5cmばかりの黄色5弁で、時に美しく見える。陽当りのよい河原や砂質草地に生える夏緑性の多年草である。

北海道と本州中部以北の地に分布する。

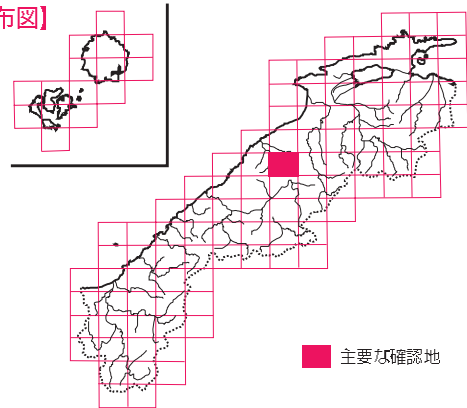
【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見部の一部(三瓶山)の山地尾根筋に限られた個体数をみる生育地がある。過去には草原(三瓶山西ノ原)内にも多くの個体が生育していたが、草原の樹林化により絶滅してしまった。主要な分布地は北陸地方以北にあり、県内に存在するものはきわめて貴重な存在のものと考えられる。

【存続を脅かす原因】

遷移による生育地の樹林化、園芸上での採取。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○				○																

バラ目バラ科

ハマナス

Rosa rugosa Thunb.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 3

島根県固有評価:—

環境省:—

【選定理由】

生育地は限られていて、生育地での個体数も限られている。主要な生育地のは県指定天然記念物とされているが、自然災害等により絶滅が心配される状況である。

【概要】

海岸の砂丘に生える夏緑低木としてのバラ類の一種。植物体は高さ1m程で根際で枝を分け株となる。枝には大小多くの刺が生えて特徴的である。葉は4~5対の小葉を持つ羽状複葉で、表面は皺状である。花は初夏に咲き、枝先に数個、花茎7~8cm程の大きな紅紫色5弁花をつける。果実も大きく径2~3cmの扁球形、赤橙色に熟れて、時に美しい。

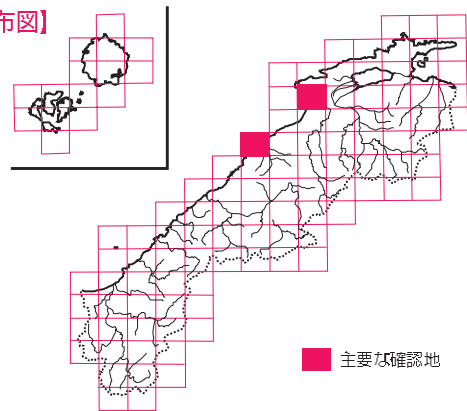
【県内での生育地域・生育環境】

中部の海岸砂地に生育地が知られていて、保護されている。

【存続を脅かす原因】

波浪等による自然災害、遷移、園芸上での採取。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○																		○	○	

バラ目バラ科

サナギイチゴ

Rubus pungens Camb. var. *oldhamii* (Miq.) Maxim.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価:—

環境省:絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【選定理由】

生育地はきわめて限られており、個体数もきわめて僅かである。

【概要】

夏緑性の小低木で茎は細く地に這い、普通は刺がある。葉は長さ10cm程の奇数羽状葉で2~3対の小葉に分かれ、二重鋸齒縁をもつ。花は枝先に1~3程が付き、径約2cmの白色5花弁。果実は径約1cm、赤く熟す。

本州、四国、九州のブナ林域に生育して、本来まれな植物とされる。

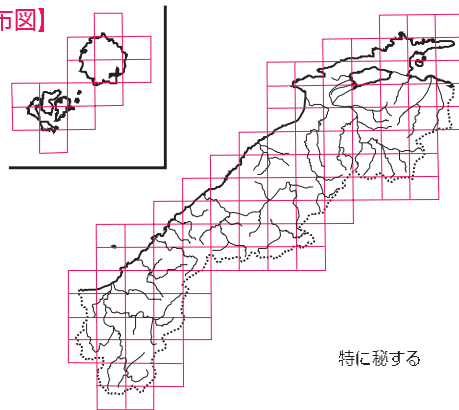
【県内での生育地域・生育環境】

県内では中部に生育地があるが、ブナ林域より下部でウラジロガシ林域の溪谷沿いの地に生育するものである。

【存続を脅かす原因】

森林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○			○																	

バラ目バラ科

ホウロクイチゴ

Rubus sieboldii Blume

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価:分布限界種(北限)

環境省:—

【選定理由】

県内での分布は県西にのみあり、生育地での個体数も僅かである。生育地には分布北限地がある。

【概要】

常緑の低木で、茎は蔓状に伸びて、先端が地につけば、根をおろす。葉は広卵形で長さ10~20cmと大きい。葉裏は黄白色~黄褐色のものが密生する。茎、葉面に刺がある。花は春に咲き、径3~4cmで5弁の白花。果実は径2cm程で赤く熟れる。

本州の中部以西、四国、九州、南西諸島に分布する。

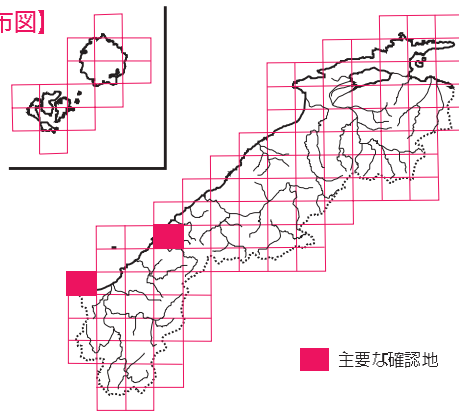
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は県西部にのみ見られる。海岸沿いでのみ生育して、海岸の砂礫地から後背の斜面、崖地に生え、群生する。

【存続を脅かす原因】

道路拡幅工事その他の造成工事による生育地の破壊。刈り取り。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○																○	○		

バラ目バラ科

コジキイチゴ

Rubus sumatranus Miq.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価:—

環境省:—

維管束植物

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数もさきわめて僅かである。

【概要】

茎は叢生して、高さ1-2m程の夏緑の低木。葉は互生し、3-7小葉の奇数羽状複葉で長さ10-20cm程。茎、枝、羽軸には暗紅色の長軟毛が密生し、鉤刺が疎生していて特徴的である。花は初夏の頃に咲き、枝先に長さ20-30cmばかりの散房状から円錐状に花序を出し花をつける。花軸や小花柄にも長腺毛が密生する。萼は披針形で反り返り、背面に長軟毛がある。花弁は倒卵形で長さ1cm程、白色。果実は長楕円形、長さ1cm程で黄赤色に熟れる。

本州の関東地方以西、四国、九州から朝鮮半島南部、中国に分布する。

【県内での生育地域・生育環境】

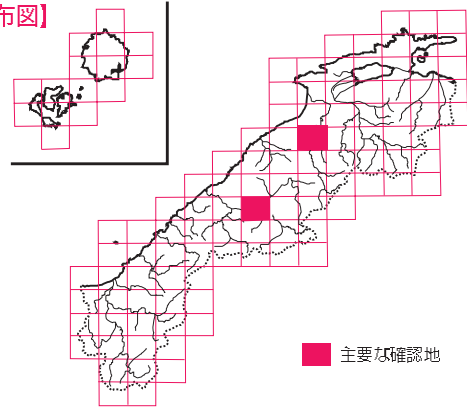
県内では出雲、石見部の山地に2-3の生育地が知ら

れる。林冠が破壊された林床や溪側に生えるが、いずれの生育地でも個体数はさきわめて僅かである。

【存続を脅かす原因】

遷移による環境変化。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○					○					○										

バラ目バラ科

アイズシモツケ

Spiraea chamaedryfolia L. var. *pilosa* (Nakai) Hara.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価:—

環境省:—

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

【選定理由】

県内での生育地はまれなものであり、あまりにも僅かな生育株のものであって、このままでは将来必ず絶滅するものと考えられる。

【概要】

高さ1-2mの夏緑低木のシモツケ属の一種、葉は長さ4-5cm、幅2cmばかり。葉は卵形で上半部重鋸歯縁。花序散房状で、花は白色、径1cmばかり、萼列片花時に反曲し、宿存するのが特徴的である。分布は東アジア、シベリアにあって、国内では北海道から本州中部以北の地、さらに離れて九州、熊本にも生育地があるらしいものとされる。

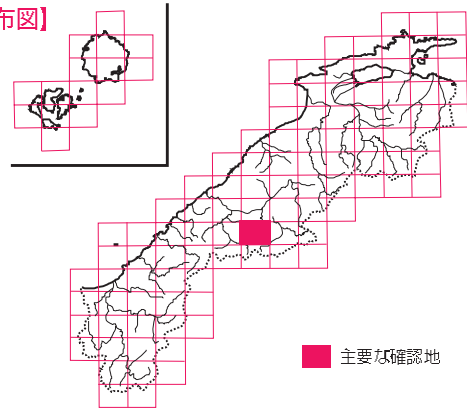
【県内での生育地域・生育環境】

石見中央部山地、岩上に僅かな個体数からなる生育地があるだけである。

【存続を脅かす原因】

遷移による環境変化。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○							○														

バラ目マメ科

ハマナタマメ

Canavalia lineata (Thunb.) DC.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵3

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内では波浪等による生育地の消滅があって、現状として確実な生育地は明らかでない。

【概要】

海岸の砂礫に生える蔓性多年草。葉は羽状3小葉。小葉は四形から広側卵形で径10cmばかり。花は淡桃色、豆実は長さ10cmばかりで2~5個の種子がある。

国内では本州、関東以西、四国、九州から南西諸島、中国に分布するとされる。

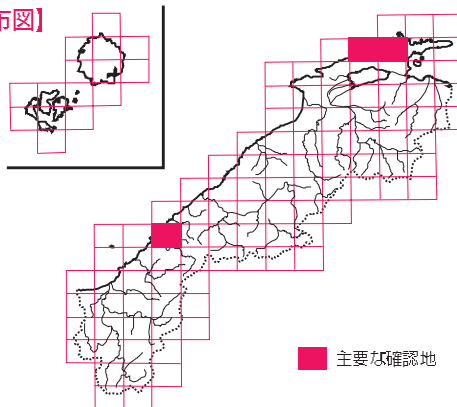
【県内での生育地域・生育環境】

県内海岸礫地のあちこちで生育するものようであるが、安定して生存することがまれである。

【存続を脅かす原因】

波浪による生育地破壊、冬期の気温低下などの気象異変。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○																			○	○	

バラ目マメ科

タヌキマメ

Crotalaria sessiliflora L.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵4

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地はまれで、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

草丈の低い草地に生える高さ20-30cmの1年生草本。植物体は全体に褐色の毛が多い。葉は狭長楕円形で長さ5cm、幅1cm前後のもの。花は夏から秋にかけて咲き、茎頂に青紫色の花を10個ばかりつけ、時に美しく思われる。果実は豆果で長さ1cmばかり、長楕円形で萼片に包まれた特異な形態で特徴的である。

本州の東北地方南部から四国、九州、南西諸島に分布域がある。

【県内での生育地域・生育環境】

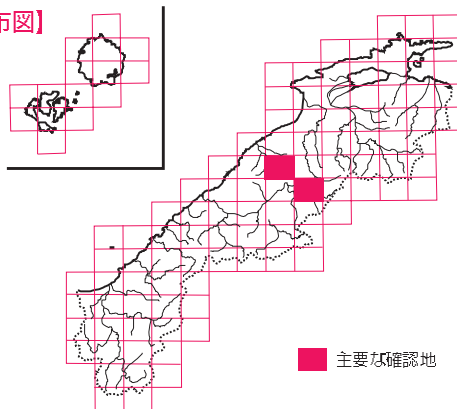
県内では全域の山間の草原や、時に耕作地周辺の草刈場などにまれに生育地が存在する。

【存続を脅かす原因】

生育地での遷移による環境変化。耕作地周辺での生育

地については、休耕、草刈りの中止などによる遷移により、個体群が消滅した場がある。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○				○																

バラ目マメ科

ミソナオシ

Desmodium caudatum (Thunb.) DC.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も僅かである。

【概要】

夏緑性の低木で、高さは1mばかりになり、枝を多く分けて叢生状になる。葉は3小葉で、小葉は長さ5-10cm、幅2-3cmで濃緑色、常緑種に見える。花は夏から秋にかけて咲き、緑白色で長さは1cmに満たない目立たない花である。果実は節果できわめて扁平、長さ10cmばかりで7-8個の小節果よりなり、全面にかざ状の短毛があって人の衣服に奇妙な程によく着き、特徴的である。

本州の関東以西、四国、九州、南西諸島、さらに中国大陸に分布する。

【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部にまれに生育地が知られている。石見部にも生育地があるように思われるが、今のところ不明である。出雲部での生育地の内、消滅した場がある。

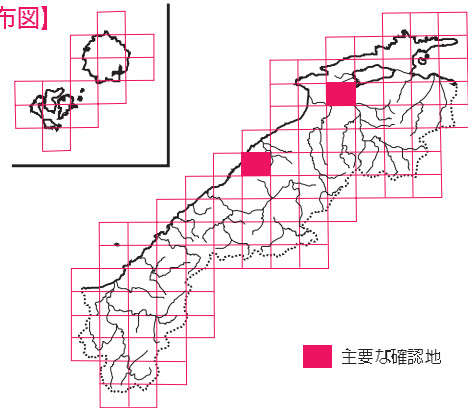
生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○			○				○													

きわめてまれな状態となっている。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開などによる生育地の環境変化。

【分布図】



■ 主要な確認地

バラ目マメ科

オオバナスビトハギ

Desmodium laxum DC.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれで、生育地での個体数も僅かである。

【概要】

常緑の多年草で草丈50cmばかり、葉は茎の下部に着き、3小葉で、小葉は卵形で、長さ5-10cm、幅3-5cmばかり、やや硬い感じがある。花は夏から秋に咲き、茎頂に長く花序を伸ばし、先端部に薄紫色の小花をまばらに10個ばかりつける。果実は節果で、3-4個の小節果からなる。小節果は長さ1cm程で、長三角形で特異な形で目立つ。

本州は関東地方以西、四国、九州の暖地林内に分布する。

【県内での生育地域・生育環境】

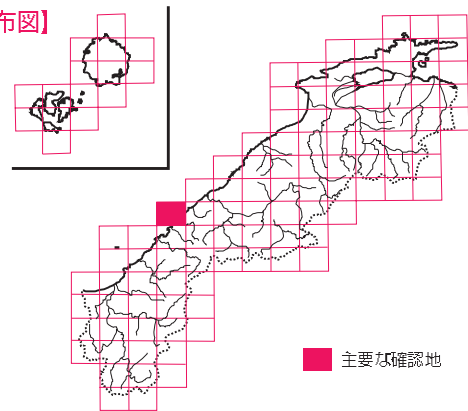
県内では石見部の一部に生育地が知られているが、個体数が激減して、きわめてまれな状態となっている。照葉樹林のより自然的な状態の樹林に生えている。石見部

に同じような自然的に優良な樹林が他にも存在していて、この植物の分布の可能性はある。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開による環境変化。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○						○													

バラ目マメ科

サイカチ

Gleditsia japonica Miq.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価:—

環境省:—

【選定理由】

県内での生育地はまれで、生育地での個体数もきわめて僅かである。

【概要】

高さ10数mになる夏緑性の樹種で、幹、枝には枝が変形した太い刺がある。葉は2形あって、長枝には2回羽状の複葉、短枝には単羽状の複葉がつく。短枝の単羽状複葉は、小葉がほぼ楕円形で長さ4-5cm、幅1-2cm、10対ばかりがつく。花は春に咲き、花弁は4枚、黄緑色の小花で枝先の総状の花序に多くつく。果実は豆果で長さ20-30cm、曲りくねった特異な形が特徴的である。

本州、四国、九州に分布する。

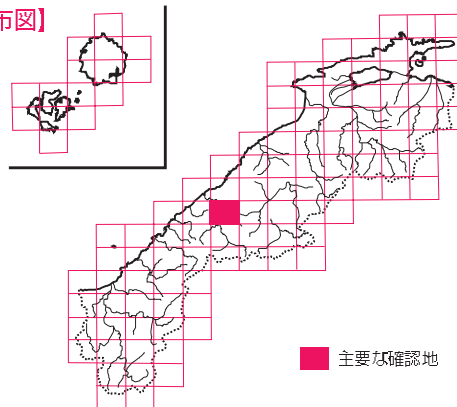
【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見部に生育地が存在する。出雲部では生育地が消滅したようである。川沿いの地に生えるものが多い。

【存続を脅かす原因】

樹林伐倒。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○							○													

ミカン目ヒメハギ科

ヒナノカンザシ

Salomonias oblongifolia DC.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価:分布限界種(北限)

環境省:—

【選定理由】

生育地がきわめて限られていることに加えて、生育地の植生遷移により絶滅が危惧される。

【概要】

湿地に生える草丈10cm前後の小形の1年生草本。葉は長さ1cm前後で長楕円形、互生する。夏から秋に茎頂の穂状花序に長さ2mm程の薄紫色の小花を多数つける。

本州の太平洋側、四国、九州以南に分布域がある。

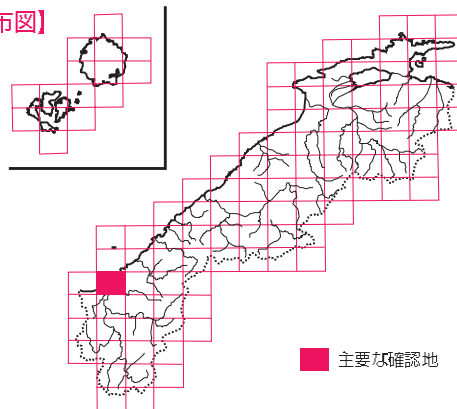
【県内での生育地域・生育環境】

県内では西部にのみ生育地が知られている。池畔の草地にイヌノハナヒゲ類などと混生している。

【存続を脅かす原因】

草地の遷移。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○					○														

ムクロジ目カエデ科

テツカエデ

Acer nipponicum Hara

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内ではきわめてまれである。

【概要】

山地に生える夏緑性の高木。葉は正常なもので長さ、巾ともに15cm前後、先端部は浅く3-5裂する。葉の表面は脈が裏側に落ち込んで、裏側の脈腋、脈をはじめ全体に赤褐色の毛が密に生える。

日本固有の種で東北地方から四国、九州に分布する。

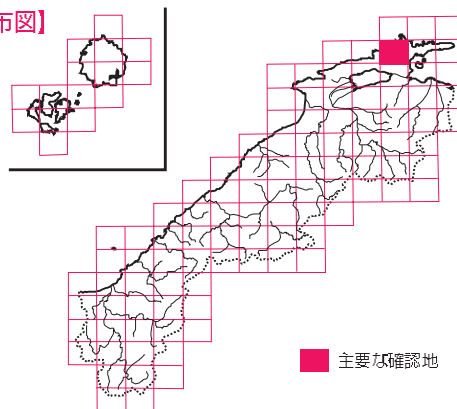
【県内での生育地域・生育環境】

県内では東部の一部にのみ生育地があり、アカガシ林域の林内に生える。

【存続を脅かす原因】

森林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	

ニシキギ目モチノキ科

ナナミノキ

Ilex chinensis Sims

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

常緑の樹種で、樹高は10数mになる。葉は長楕円形で、長さ10cm、幅3cmばかりで両面無毛平滑、鋸歯も弱く疎い。雌雄異株で、花は初夏の頃、葉腋に短い花序をつけて小花を咲かせるが、あまり目立たない。果実は秋に、楕円形で長さ1cm程、赤く熟れて目立つ。

国内では東海地方以西、四国、九州に分布し、中国にも分布が続くものとされる。

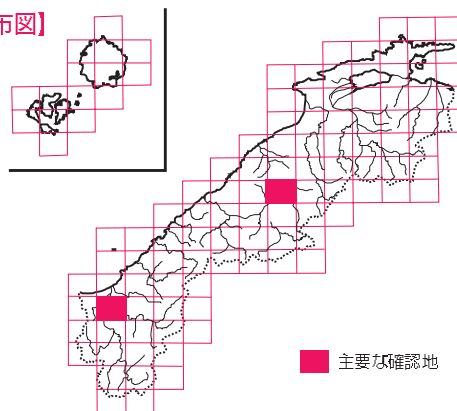
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は県西部から中央部にかけての山地にややまれに知られる。おもに露岩状地や崖錐地などの不安定な立地に生えて、しばしばアラカシ林に伴われて出現する。石見部の一部では県立自然公園内の樹林内にあって生育地が保護されている場もある。

【存続を脅かす原因】

森林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○		○				○													

モチノキ目モチノキ科

ミヤマウメモドキ

Ilex nipponica Makino

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価:—

環境省:—

【選定理由】

生育地での自然な遷移により絶滅が考えられる。

【概要】

本来、近畿地方北部から中部地方、東北地方に分布し、湿地に生える雌雄異株の夏緑低木である。

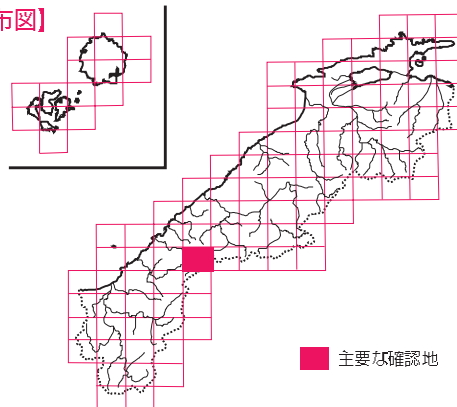
【県内での生育地域・生育環境】

石見地方の山地の一部に僅かな個体が分布している。

【存続を脅かす原因】

生育地での自然な遷移。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○					○														

ニシキギ目ニシキギ科

イワウメヅル

Celastrus flagellaris Rupr.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価:—

環境省:—

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られている。生育地での個体数もきわめて僅かである。

【概要】

夏緑性の蔓性木本である。葉はほぼ円形で、長さ、幅ともに4-5cmで、鋸歯は細かく、先が芒状にとがるのが特徴の一つ。托葉が刺となって残ることも特徴である。花は春に咲き、雌雄異株であって、雄株では雄花が2-3花ずつ、雌株では雌花が1花ずつつく。果実は球形、径5mm程で黄色に熟れる。

国内での分布は関東以西、四国、九州にあって、朝鮮半島から中国東北地方に続く。

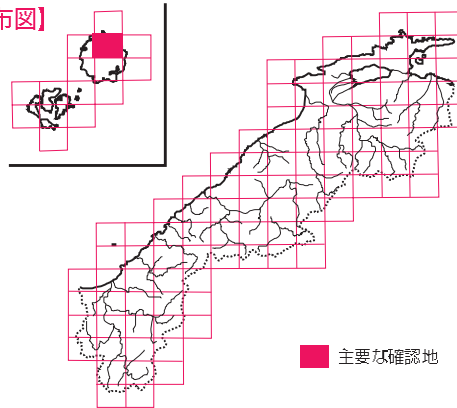
【県内での生育地域・生育環境】

県内での明らかな生育地は隠岐諸島にのみ知られて、出雲部、石見部での生育地については不明である。隠岐諸島では山地の夏緑二次林の林縁に生育地がある。林内にも個体が見られるが、生育は不明である。

【存続を脅かす原因】

生育地の遷移による環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○	○																	

クロウメモドキ目クロウメモドキ科

ヨコグラノキ

Berchemiella berchemiaefolia (Makino) Nakai

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価:—

環境省:—

【選定理由】

県内での生育地はやや限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

夏緑の樹種で高さは10数mになる。葉は長楕円形で、多くは波状縁で、葉裏は粉白色である。特徴的なことは葉のつき方で、互生で左右2列につくが、見た目には2枚ずつ続いて同じ側につく、奇妙なつき方をすることである。花は初夏の頃に咲いて、葉腋に短い集散花序で数個の黄色小花をつけて咲くが、枝の先端部では葉がなく、花序だけがつく状態となるのも特徴の一つである。果実は赤色に熟れる。

分布域は本州、四国、九州にあるが、本来やままれな植物である。

【県内での生育地域・生育環境】

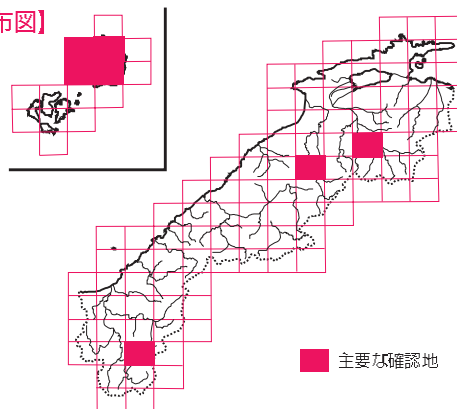
県内では出雲部、石見部の一部に生育地があって、隠岐諸島に分布している。隠岐諸島では奇妙に多くの生育

地が存在する。山地の斜面に生えるが、時に溪谷の溪流沿いにも生えている。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○				○													

クロウメモドキ目クロウメモドキ科

ホナガクマヤナギ

Berchemia longerracemosa Okuyama

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価:分布限界種(南限)

環境省:—

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数もまれである。

【概要】

夏緑性の低木であって高さは3mばかりの樹種である。葉はほぼ楕円形であって長さ5-6cm、幅2-3cmばかりで互生する。花期は夏で、枝先きに長さ10cmばかりの総状花序を出し、花は緑色の目立たない小花を多くつける。果実は秋に熟れて、長楕円形、長さ1cm弱で、赤く熟れて目立つが、最後は黒く熟れる。日本海側の山地にのみ生えるものとされる。島根の生育地は分布の南(西南)限にある。

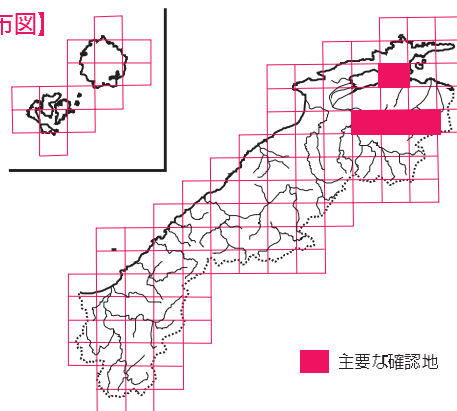
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は出雲部山地に知られていて、多くは夏緑二次林内に生えて、時に林縁にも見られて、果時にその果実が目立つことがある。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	

クロウメモドキ目ブドウ科

ウドカズラ

Ampelopsis leoides (Maxim.) Planch.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 4

島根県固有評価:分布限界種(北限)

環境省:—

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もきわめて限られている。

【概要】

蔓性の夏緑性木本で、周囲の樹種に巻きげで絡まり伸び上がる。葉は大きく、長さは30cm程にもなり、2~3対の羽状複葉であるが、最下の羽片だけは、2回羽状となる特徴がある。小葉は1cmばかりの柄があって、楕円形で長さ10cm、幅5cmばかりになる。花は初夏の頃に咲き、花序は集散形で黄緑色の小花を多数つける。果実は球形。赤く熟れ、さらに黒く熟れる。

国内の近畿南部、中国地方、四国、九州に分布するものとされる。

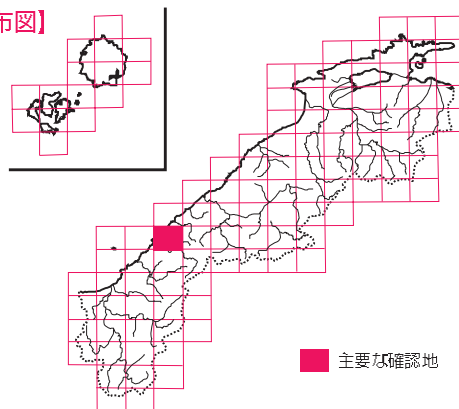
【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見西部の一部にきわめてまれな生育地がある。照葉樹林域の山中、谷間に生えている。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○																	

アオイ目アオイ科

ハマボウ

Hibiscus hamabo Sieb. Et Zucc.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 4

島根県固有評価:分布限界種(北限)

環境省:—

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も少ない。また国内での分布の北限である。

【概要】

海岸の砂泥地に生える落葉低木または小高木。高さは1~2mになる。葉は円形から広卵形で、長さ4~7cm、幅3~6cm、葉柄は1~2cmである。花期は7~8月で、枝の上部に、直径5cm前後の中心が赤褐色の黄色い花をつける。

国内では、本州(千葉県以西)、四国、九州、奄美大島に分布する。人家や庭園に栽培される場合もある。これまでの日本海側の分布北限は、山口県萩市笠山のものとしてされる。

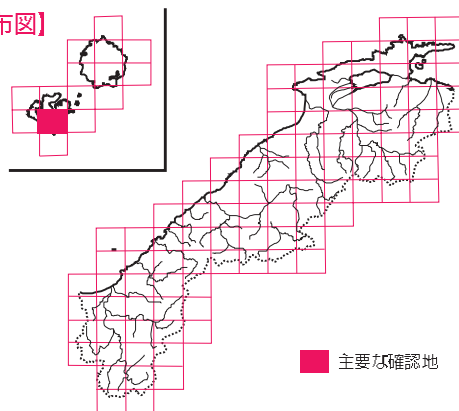
【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐諸島の一カ所に生育地がある。海岸沿いの砂礫地に生育している。

【存続を脅かす理由】

園芸採取、周辺樹木による被陰、周辺波浪による消失。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○																○		

ジンチョウゲ目ジンチョウゲ科

キガンピ

Diplomorpha trichotoma (Thunb.) Nakai

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 □絵 4

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も限られている。

【概要】

夏緑性の低木で高さは1mばかりのもの。葉は楕円形で長さ5cm、幅3cm前後で対生する。花は夏に咲き、枝先の短い花序に数花をつける。花は多くは黄色、萼筒は長さ1cmばかり、萼筒は先で4裂して平開する。

本州の近畿地方と中国地方西部、四国、九州に分布する。

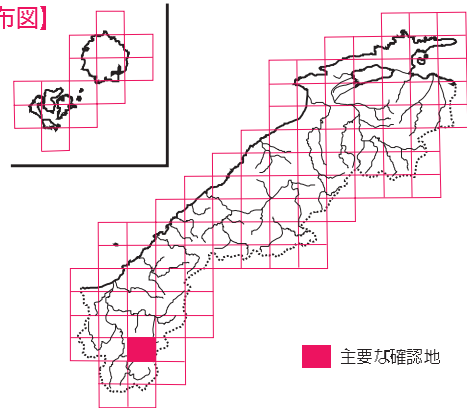
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地はきわめてまれであって、石見部のみ知られていて、出雲部、隠岐諸島での生育地は不明である。石見部での生育地の一つであった三瓶山西の原では、近年、個体が確認されない。草地の遷移による樹林化が原因となっていることが考えられる。県内では山地草原、冷温帯樹林内から林縁にやまに生える。

【存続を脅かす原因】

遷移による生育地の環境変化、特に周囲の樹種による被陰。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
△				○	○																

ジンチョウゲ目グミ科

ナツアサドリ

Elaeagnus yoshinoi Makino

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 □絵 4

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も僅かである。

【概要】

夏緑性の低木、葉は互生して、倒卵状楕円形、長さ5-6cm、幅2-3cmばかりで、表面には星状毛多く、裏面も黄褐色の星状毛に赤褐色の星状毛が散生して特徴的である。花は春に咲き、葉腋に数花が束生し、萼筒は長さ1cmばかり、萼裂片も長さ5mmばかりある。果実は長さ1cmばかりで、上半部は扁円錐で赤く熟れる。

本州の兵庫県以西、中国地方に分布する。

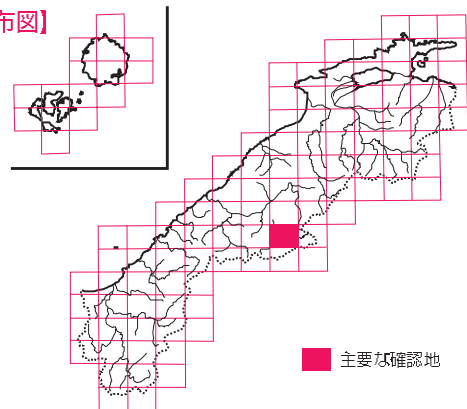
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地はまれで、県中央部に知られている。山地の明るい夏緑二次林内にまれに生える。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開と生育地の遷移による環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○			○																	

セリ目ウコギ科

ウラジロウコギ

Acanthopanax hypoleucus Makino

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も限られている。

【概要】

夏緑の低木で、高さは2m程で茎には長さ5mm程の細かい刺が多い。葉は小葉5枚の掌状複葉で、互生する。小葉は楕円形で長さ10cm、幅4cmばかり、裏面は白色を帯びていて特徴的である。花は夏に咲き、枝先に伸びる花序軸に2~3の散形花序をつけ、多数の小花を咲かせる。先端の花序は雌花、側生の花序は雄花である傾向が強い。

本州の関東以西、四国、九州の山地に生え、石灰岩地域にあることが多いとされる。

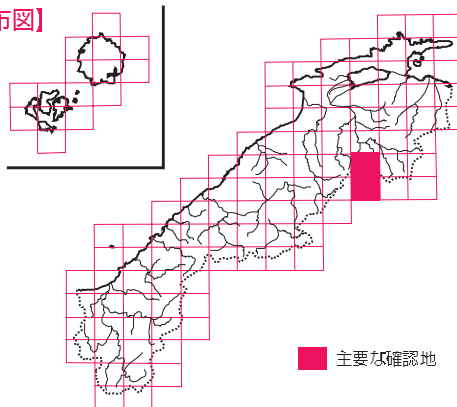
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は出雲部の中国山地脊梁部にのみ、きわめてまれに見られる。山地の露岩地、岩角地に生える。

【存続を脅かす原因】

生育地での遷移による環境変化、森林開伐。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	

セリ目セリ科

エゾノヨロイグサ

Angelica anomala Lallemant

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もきわめてまれである。

【概要】

植物体は2~3回3出羽状複葉を根生して草丈30-50cm程のものであるが、開花株では花茎を高さ1m程に伸ばし、枝を分けて枝先に複散形花序に白色小花を多数つける。

国内では本州(中部地方以北)、北海道に分布するが、鳥取県(大山)、本県(隠岐諸島)にも分布が知られている。

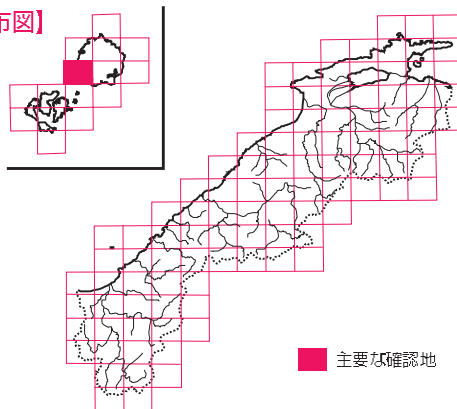
【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐(島後)にのみ生育地が知られ路傍、林縁の草地に生える。

【存続を脅かす原因】

道路拡幅工事などによる路傍、林縁の草地の破壊。この5年間に道路拡幅工事により2ヵ所の生育地が破壊、消失した。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○	○																	

セリ目セリ科

ヨロイグサ

Angelica dahurica (Fisch.) Benth. et Hook

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地は局限されており、生育地での個体数も激減している。

【概要】

植物体は2~3回3出羽状複葉で根生し、草丈は50cm程であるが、開花株は花茎を2-3cm程に伸ばし、枝を分けて枝先に大形の複散形花序をなして白色小花を多数つける。

国内では本州、九州に分布するが、朝鮮半島、中国東北部からシベリアにかけての範囲に分布域のある大形の草本である。

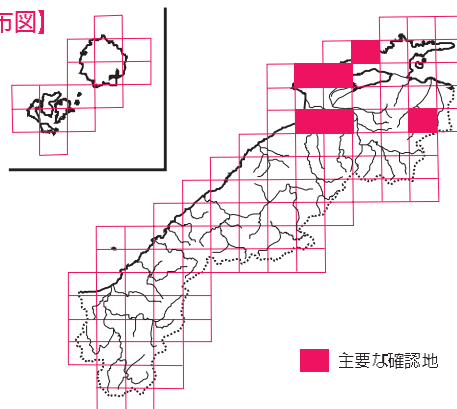
【県内での生育地域・生育環境】

県東部から中央部にかけての範囲に生育地が知られるが、生育地は山地林縁、路傍の草地であり、草地の遷移により生育地が消失した所もある。また、近隣の思わぬ所に新たな生育地を見ることがある。

【存続を脅かす原因】

草地の開発、遷移。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○					○																

セリ目セリ科

アマニュウ

Angelica edulis Miyabe

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られており、生育地での個体数も多くない。

【概要】

植物体は1~2回3出羽状複葉を根生し、草丈50cm前後。開花株は花茎を1m前後に伸ばし、花茎先端部で2~3の枝を分け、径20cm程の大きな複散形花序に白色の小花を多数つける。

本州の主として中部地方以北に分布し、中国地方、四国にも分布するものとされる。

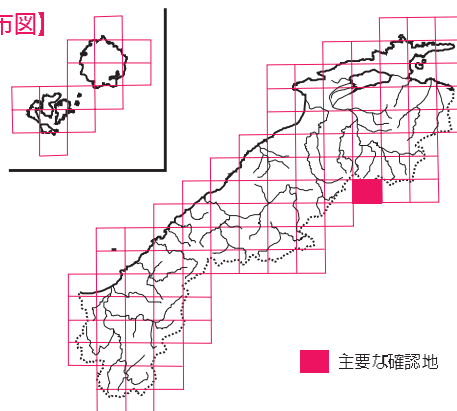
【県内での生育地域・生育環境】

県内では東部の中国山地脊梁部に僅かな生育地が知られる。沢の上部、谷頭の崖錐状地で、サワグルミ、トチノキなどの樹林下に群生する。

【存続を脅かす原因】

森林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎				○																	

セリ目セリ科

タケシマシシウド

Dystaenia takesimana Kitag.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 4

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地は一地域のみで、きわめて限られている。

【概要】

山地に生える多年草。葉は2~3回の羽状に分かれ、小葉は卵形で縁に荒く不規則な切れ込みがある。花期は6~7月で、白い花弁をもつ複散形花序となる。本種が含まれるセリモドキ属には、本種とセリモドキの2種のみがあり、本種はこれまで韓国の鬱陵島にのみ生育する固有種であるとされてきた。セリモドキの草丈が30-90cm、花序の直径が5-10cmであるのに対し、本種は草丈が150-200cm、花序の直径も20cmになる。

【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐諸島の一カ所に生育地がある。林縁の草地や道路法面に生育している。

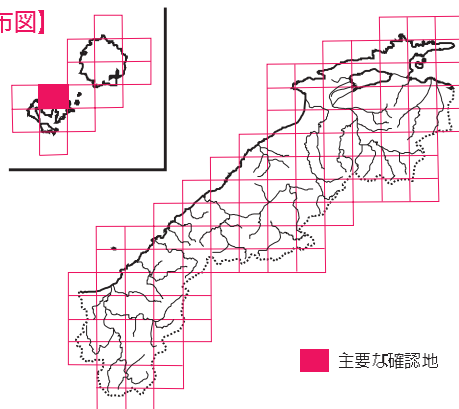
【存続を脅かす理由】

遷移によるヤブ化・樹林化。

【特記事項】

平成24年に海士町の文化財に指定されている。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○						○												

セリ目セリ科

ムカゴニンジン

Sium ninsi L.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれで、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

水湿地に生える草丈50cmばかりになる夏緑性の多年草。葉は単羽状複葉で小葉は円形から線形で互生する。花は秋に咲いて、葉腋に枝を出して先の複散形花序に多くの小花をつける。

北海道から本州、四国、九州に分布し、朝鮮半島から中国に分布が続く。

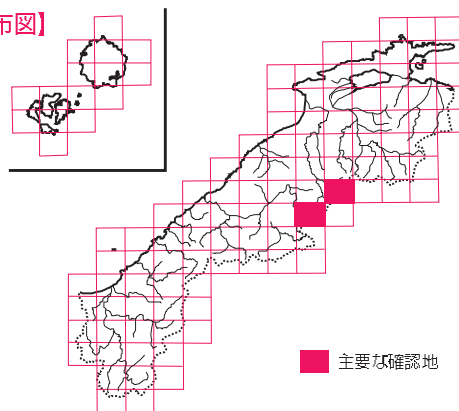
【県内での生育地域・生育環境】

県内では中国山地山間に溜池などの水湿地にまれに生育地がある。

【存続を脅かす原因】

埋め立てによる生育地の消滅。溜池の放置による生育地での遷移。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○							○														

ツツジ目ツツジ科

イワナシ

Parapyrola asiatica (Maxim.) Kitamura

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られており、生育地での個体数も僅かである。

【概要】

匍匐形の常緑小低木で、茎は枝を分けて地に這う。葉は楕円形で、長さ7-8cm、巾3cm前後で両面に短毛があり、葉縁に長毛があって特徴的である。花は春、枝先に筒状の長さ1cm前後で桃色の花を数個つける。果実は夏前に熟れ径1cm程、甘くて食べられるといわれる。

北海道西南部から主として日本海側に島根県まで分布するものとされる。

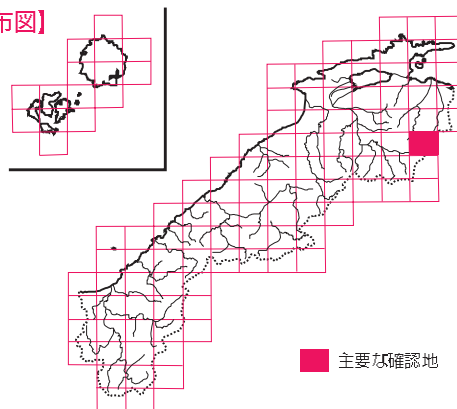
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部東部の一部に生育地が知られている。山地の崖地に生育している。

【存続を脅かす原因】

遷移。園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	

サクランソウ目サクランソウ科

ハイハマボッサ

Samolus parviflorus Rafin.

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 □ 絵 4

島根県固有評価: -

環境省: 準絶滅危惧 (NT)

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

水湿地に生える多年草で、草丈は10cm前後、根元で分枝して、花茎を立てる。葉は倒卵形で、長さ2-5cm程、巾は1-2cm、全体無毛。花茎の先に白色小花を10個ばかりまばらにつける。

北海道から本州の海岸に近い場所に生育する。

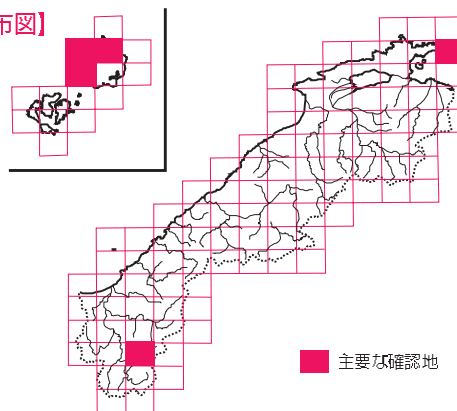
【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐(島後)と東部に生育地が知られている。海岸の侵出水がある岩棚などに生えているが、時に海岸に近い溜池の縁や、山中の岩場の水湿地状態の場所にも生える。

【存続を脅かす原因】

溜池などでは草地の遷移。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○	◎															○			

イソマツ目イソマツ科

ハマサジ

Limonium tetragonum (Thunb.) A. A. Bullock

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 4

島根県固有評価: -

環境省: 準絶滅危惧 (NT)

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もきわめて僅かである。

【概要】

海岸の砂地に生えて、越年草とされるもので、花が咲くと枯れる。葉は長楕円形で基部に向かい狭くなる形で多数が根生する。花は秋になって咲き、高さ30-50cm程に花茎を伸ばし、多くの枝を分けて、黄色の小花を多くつける。

本州の東北地方以南、四国、九州の太平洋側から朝鮮半島、中国に分布するものとされる。

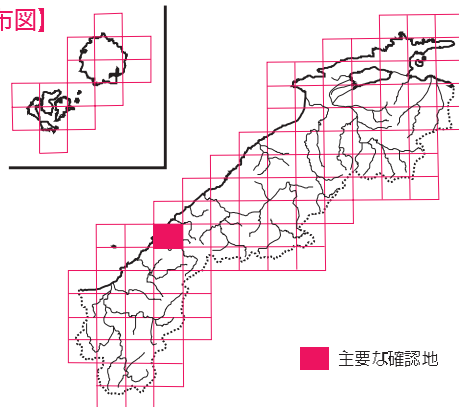
【県内での生育地域・生育環境】

石見部の一部にのみ生育地があり、日本海側での唯一の生育地である。海岸の砂礫浜から岩場の割れ目に生えている。

【存続を脅かす原因】

海岸での開発行為による生育地の破壊、消滅。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○																		○	

リンドウ目リンドウ科

イヌセンブリ

Swertia tosaensis Makino

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 5

島根県固有評価: -

環境省: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も僅かである。

【概要】

水湿地に生える1年草または越年草。植物体は草丈30cm前後で、長さ4-5cmの倒披針形の葉を対生する。茎の上部で枝を分かち花をつける。花は秋に咲き、径1.5cm程で、白色に紫色の条がある花弁は5深裂するもので、時に花弁が5枚あるように見える。花は多数ついて夜空に星を見る如くに美しい。

本州、九州に生える。

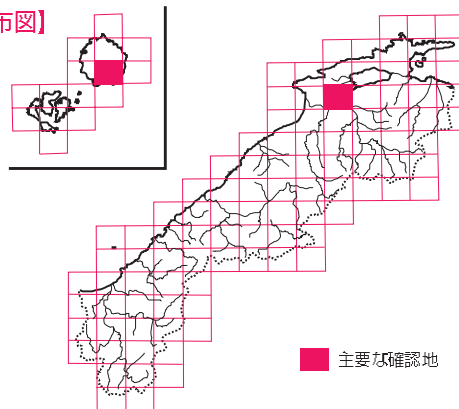
【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐(島後)と東部に生育地が知られている。溜池の水辺や水田脇の水湿地に群生していて、他のイネ科草本などと混生して見られる。

【存続を脅かす原因】

水湿地草地の遷移。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			○									○									○

リンドウ目リンドウ科

ムラサキセンブリ

Swertia pseudochinensis Hara

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 5

島根県固有評価: -

環境省: 準絶滅危惧 (NT)

維管束植物

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

陽当りのよい草地に生える1年草または越年草。茎は紫色を帯び、多くは高さ30cm程度で、線形で長さ3cm前後の葉を対生する。花は夏から秋にかけて咲いて、淡紫色で径2cmばかり、花冠裂片は濃紫色の脈がある。

国内では本州の関東地方以西、四国、九州に分布して、朝鮮半島、中国東北部に分布が続く。

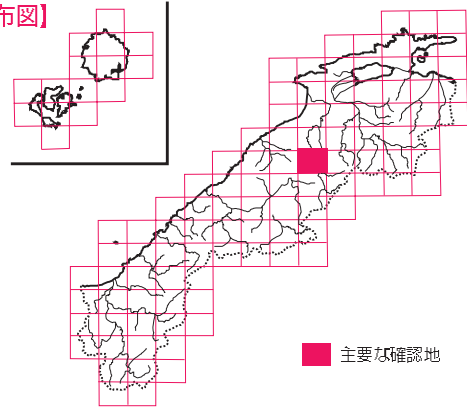
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部、石見部山地に生育地が点在し、山地の草原や山道脇の草地などに生える。時には道路路面などにも生えるが、いつしか消滅してしまう。

【存続を脅かす原因】

生育地の遷移による環境変化。抜き取り。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○						○														

リンドウ目ミツガシワ科

ヒメシロアサザ

Nymphoides coreana Hara

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 5

島根県固有評価: -

環境省: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

【選定理由】

県内での産地が限定されており、圃場整備による乾田化及び放棄水田の遷移や埋め立てによって産地が脅かされている。

【概要】

本州以西の平地の溜池、水田などに生育する浮葉植物。葉、花ともガガブタよりも小形で、ヒメガガブタの別名がある。葉は長さ2-6cm、幅2-4cm、平滑で表面に紫褐色の斑状模様が目立つ。白色の花冠は4-6裂して径8mmほど、裂片の縁は毛状に細裂する。花は葉柄の基部に束生し、花柄の長さは1-3cm。果実の中には径1mmほどの黒色の種子が詰まっている。

県内では宍道湖と中海を結ぶ大橋川の河口左岸域にある休耕地で1999年8月に初めて発見され、その後2カ所の自生地が確認されている。

【県内での生育地域・生育環境】

大橋川河口域左岸の休耕地、中州の水田及び江島の水

田。

【存続を脅かす原因】

圃場整備による乾田化及び放棄水田の遷移や埋め立て並びに除草剤による影響。

【特記事項】

これまで確認されている3カ所の生育場所はいずれも小個体数からなり、水田の埋め立てや乾田化、あるいは放棄水田の遷移により消滅寸前の状態である。大橋川河口左岸域はこれまでのところ湿田が保たれ、休耕地にはミズアオイやミズワラビなども生えているので、この地域全体を水生絶滅危惧植物の保護・保全地区とする施策が望まれる。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○															○						

リンドウ目ミツガシワ科

アサザ

Nymphoides peltata (Gmel.) O. Kuntze

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 5

島根県固有評価: -

環境省: 準絶滅危惧 (NT)

【選定理由】

生育場所が1地域に限定されており、その生育場所で河川改修が進行している。

【概要】

全国各地の湖沼や溜池、水路に群生する多年生の浮葉植物。直径1cmほどの地下茎は蓮根のように多孔質で長く水底を這う。水中茎と葉柄が地下茎から伸び、水面に浮葉を展開する。浮葉は広楕円状心臟形で、長さ5-15cm、幅4-10cm、葉縁はゆるやかに波打ち、基部は葉柄の付け根まで深く切れ込む。浮葉の表面は濃緑色で光沢があり、裏面は光沢が無く淡黄緑色または紫褐色でざらつく。花は杯状の5花弁の合弁花であり、縁に長さ1mm内外の微歯が連なる。キュウリの花に似た黄色の花の直径は2-4cmと大きく、人目を引く。種子は扁平で、長さ4mm、幅約3mm、表面に柱状の突起があり水鳥などに付着する。発芽は水中で抑制され、実生の定着は春先に一時的に干出した場合にのみ起こる。開花しない集団も

多く、全国に点在する67地域個体群のうち57地域個体群は1クローンのみで構成されているという報告もある。県内のアサザも開花しない集団であり、1系統と考えられる。

【県内での生育地域・生育環境】

斐川平野の用水路。

【存続を脅かす原因】

河川改修の進行と人為的な刈り取り。

【特記事項】

県内では、ビオトープの造成を目的として、自生地内に他地域のアサザが持ち込まれている。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎																○					

リンドウ目キョウチクトウ科

チョウジソウ

Amsonia elliptica (Thunb.) Roem. et Schult

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 5

島根県固有評価: -

環境省: 準絶滅危惧 (NT)

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

水湿地に生える夏緑性の多年草。草丈は50cmばかりになり、長さ10cm程の披針形の葉を互生する。花は初夏に咲き、茎頂に径1cm前後の青紫色の花を多数つける。花冠は狭長な5裂片に裂け、平開して、美しい。果実は円柱状で1花に2本ついて、長さ5-6cm。

本州、九州に分布し、朝鮮半島、中国に分布が続く。

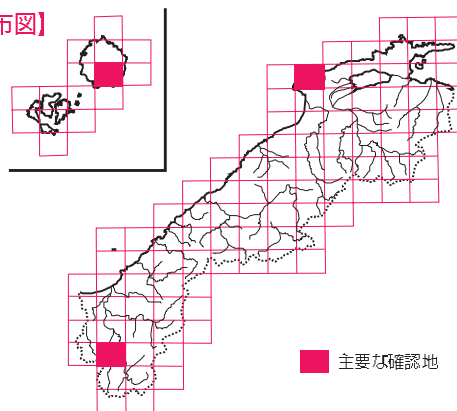
【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐(島後)、東部、西部の一部に生育地が知られていたが、西部の生育地については近年消滅してしまった。

【存続を脅かす原因】

遷移。埋立て等の人為的な生育地の破壊。園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		△	○									○					○				○

リンドウ目ガガイモ科

クサタチバナ

Cynanchum ascyrifolium (Franch. et Savat.) Matsum.

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 □ 絵 5

島根県固有評価: -

環境省: 準絶滅危惧 (NT)

【選定理由】

県内では生育地が限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

夏緑性の多年草で、草丈は50cmばかり。葉はほぼ楕円形で長さ10cm、幅5cm前後で対生する。花は初夏の頃に咲き、茎の上部の集散花序に、径2cmばかりの白色花を多数つけて、時に美しく咲く。花冠は5裂する。果実は袋果で細長く、長さ5cmばかりのもの。

本州の関東地方以西、四国に分布し、朝鮮半島、中国東北部に続く分布域があるとされる。

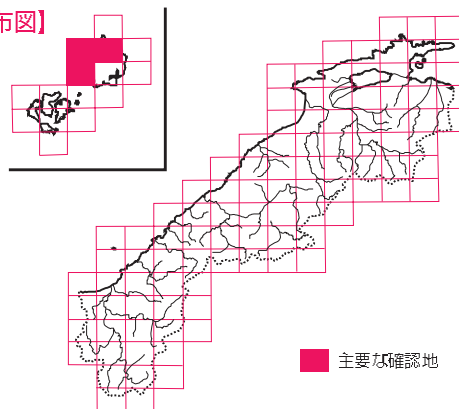
【県内での生育地域・生育環境】

県内では、隠岐諸島にのみ生育地が知られていて、出雲部、石見部での生育地の状況は不明である。隠岐 (島後) でも生育地はまれであり、山地の夏緑二次林内にあって、樹林内の遷移により、個体数は減少している。

【存続を脅かす原因】

遷移による生育地の環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○	○																	

リンドウ目ガガイモ科

フナバラソウ

Cynanchum atratum Bunge

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 □ 絵 5

島根県固有評価: -

環境省: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【選定理由】

県内での生育地はまれで、生育地での個体数もまれである。

【概要】

海岸風衝、岩礫地、草地に生える夏緑の多年草。草丈50cmばかり。葉は楕円形で長さ10cmばかり、幅5cmばかりで対生して、全体に毛がある。葉は初夏の頃、径1cmばかり、5深裂花冠の汚紫色で、秋の果実は広披針形で特徴的である。

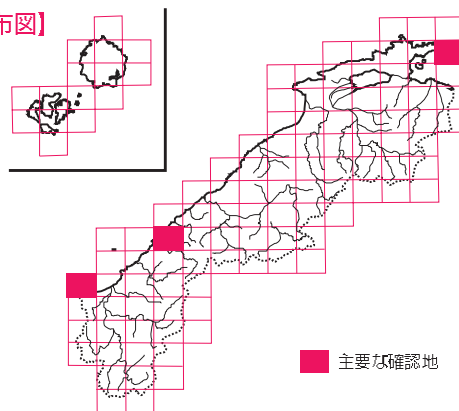
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲部、石見部の海岸付近に生育地が知られている。

【存続を脅かす原因】

草地の自然な遷移による環境変化、人による採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○																			○		

リンドウ目アカネ科

ジュズネノキ

Damnacanthus macrophyllus Sieb. ex Miq.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価:—

環境省:—

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もまれである。

【概要】

常緑の低木で高さ1m前後で、根が細長い数珠状に肥厚する特徴がある。葉は楕円形から長楕円形で長さ10cm、幅3cm程になり、両端がとがり、対生する。春に花が咲き、枝先や葉腋に白色の小花を2個つける。花冠は筒状で長さ1cm程で、先は4裂する。果実は径5mm程で赤く熟れる。

本州の近畿以西、四国、九州に分布する。

【県内での生育地域・生育環境】

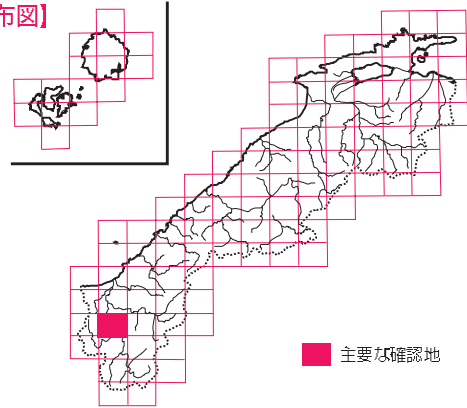
石見西部に生育地が知られている。コジイ、イチイガシ林内の低木として少数の個体の生育が認められる。この樹林は優良な神社林であって町の天然記念物として保護の対象となっている。数年前の強い台風によって林分が破壊された部分があったが、ジュズネノキには影響は

ないようである。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開による生育地の破壊。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○						○													

シソ目ムラサキ科

ハマベンケイソウ

Mertensia asiatica (Takeda) Macbride

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価:分布限界種(南限)

環境省:—

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もきわめて僅かである。

【概要】

海岸の砂礫地に生える多年草。地際から枝を分けて地に這い、葉は楕円形から広卵形で長さ5cm前後、巾3cm前後、互生して青白い色が特徴的である。花は夏に咲き、長さ1cm前後の青色で、枝先に数個ずつつける。

北海道、本州の海岸に分布するが、北方系の植物であり本州では生育地はまれなようである。

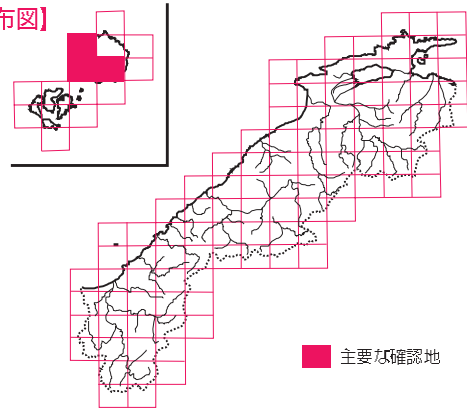
【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐(島後)に生育地が知られていて、海岸の砂礫の浜に生育している。

【存続を脅かす原因】

波浪等による自然災害、浜の改善工事。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○																	○	

シソ目シソ科

カイジンドウ

Ajuga ciliata Bunge var. *villosior* A. Gray

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 □ 絵 5

島根県固有評価: -

環境省: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

維管束植物

【選定理由】

県内では生育地が限定され、生育地での個体数も限られている。

【概要】

夏緑性の草丈30-50cm程の多年草。葉は卵形で、長さ7-8cm、巾3cm程で、やや大きな4-5対の鋸歯縁をもち対生する。花は初夏に咲き藍色で茎の上部に多くつく。

北海道から本州、九州に分布するものとされる。

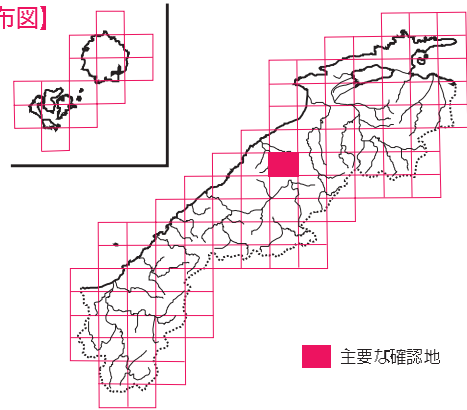
【県内での生育地域・生育環境】

県内では中央部に生育地が知られているが、生育地は草原状地であって、各種の草本類と混生して、まれに見られる。

【存続を脅かす原因】

草原の遷移、園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○				○																

シソ目シソ科

シモバシラ

Keiskea japonica Miq.

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もきわめて限られている。

【概要】

山地林内に生える夏緑性の多年草。草丈は50cmばかり、葉は長楕円形で、長さ10cm、幅3cm前後のもので対生する。花は秋に咲き、葉腋の総状花序に白色小花を多数つける。個々の花は皆、一方の側に向いて咲くのが特徴的である。

本州の関東地方以西、四国、九州に分布する植物とされる。

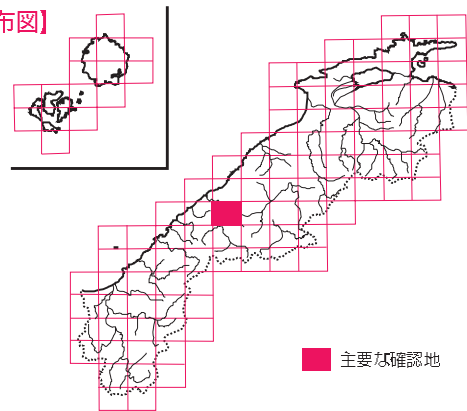
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は県中央部のきわめて限られた地に存在する。生育地は人工林内の林床で、個体数も多くはない。

【存続を脅かす原因】

人工林内の林床の遷移による環境変化、園芸上の採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○			○																	

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

シソ目シソ科

オオヤマジソ

Mosla japonica (Benth.) Maxim. var. *hadae* (Nakai) Kitam.

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: 準絶滅危惧 (NT)

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、全個体数も少ない。

【概要】

ヤマジソの変種とされて、ヤマジソに比べ葉が大きく丸く、葉は直立して高さ10-25cmばかり、開出毛が目立つ。花序の苞が卵円形で、長さ5-15mmもある点も特徴的である。全国的にもきわめて珍しい植物とされる1年生草本である。

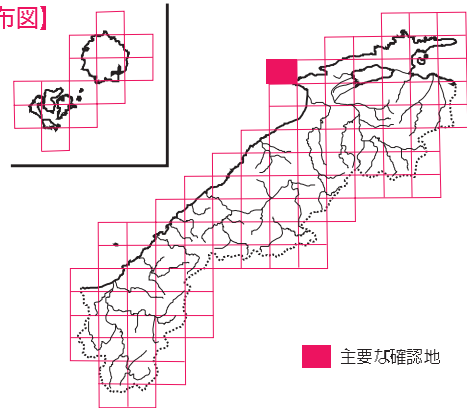
【県内での生育地域・生育環境】

県内では海岸風衝岩場に生育地が確認されている。

【存続を脅かす原因】

生育岩場は広くないので、この植物にとっての将来は安定した状態のものではないと思われる。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○																			○		

シソ目ナス科

ヤマホロシ

Solanum japonense Nakai

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もきわめてまれである。

【概要】

山地に生えるやや蔓性の多年草。葉は長卵形で長さ5cm、幅3cm前後のもので、時に3-5片に裂けるものがある。花は夏に咲き、小枝にまばらな集散花序を出し、少数の花をつける。花冠は薄紫色で径1cmばかり、先は5裂して反曲して咲く。果実は液果で赤く熟し、楕円形で径5-6mmのものである。

北海道から四国、九州、朝鮮半島から中国東北部に分布域があるとされる。

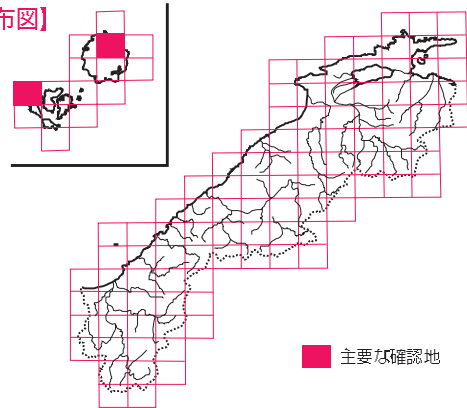
【県内での生育地域・生育環境】

全国に広く分布範囲がある植物であるが、県内での生育地はきわめてまれで隠岐諸島に知られていて、出雲部、石見部では不思議と見られないようである。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開などによる生育地の破壊。生育地での遷移による環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○	○																	

シソ目ゴマノハグサ科

サンイントラノオ

Pseudolysimachion ogurae Yamazaki

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 6

島根県固有評価: 島根県固有種

環境省: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

維管束植物

【選定理由】

生育地は限られていて、生育地での個体数も限られている。

【概要】

夏緑性の草丈30cmに満たない、やや小型の多年草で、根際で数本の茎を分枝して株をなす。地上に枝を出して増殖することがこの類の中では特徴あることである。葉は倒披針形で、長さ3cm程、巾0.5cm程で対生する。花は夏に咲き、茎の上部に穂状に青紫色の小花を多数つける。

島根県固有の植物であり、東部、中央に生育地が知られている。

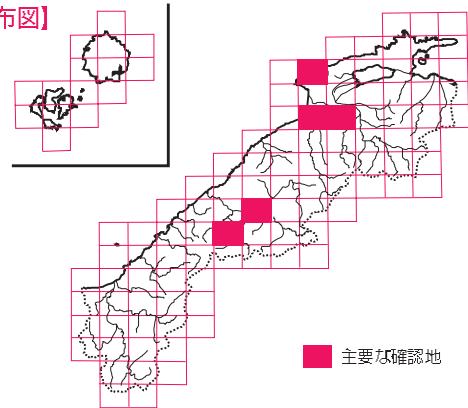
【県内での生育地域・生育環境】

県東部から中部にかけて生育地が知られている。生育地は主として岩上であり、岩山や林縁の露岩崖地に他の露岩地に特有な植物と共に生える。

【存続を脅かす原因】

生育地の自然な遷移、園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域								
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
◎	○							○						○										

シソ目ゴマノハグサ科

ミヤマクワガタ(ダイセンクワガタ)

Pseudolysimachion rotundum (Nakai) Yamazaki var. *subintegrum* (Nakai) Yamazaki

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 6

島根県固有評価: -

環境省: -

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

【選定理由】

生育地がきわめて限られていて、生育地での個体数も限られている。

【概要】

夏緑性の多年草で、草丈は20cm前後、葉は卵形で重鋸歯があって、長さ3-4cm程で対生する。花は夏から秋に咲き、茎頂に穂状に青紫色の小花をつける。ここに扱うものはダイセンクワガタとされる型のもので、中国地方の山地に固有な分布のものとして存在する。

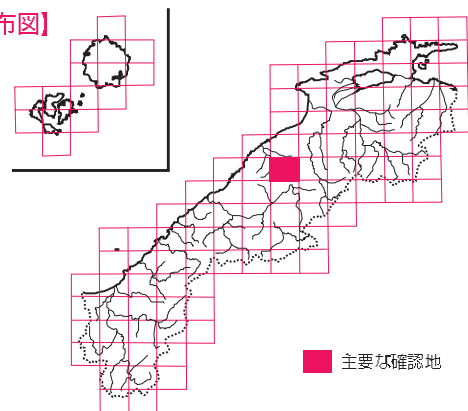
【県内での生育地域・生育環境】

県内では中部のごく一部の地に生育地が知られるもので、山地の林縁露岩地、岩上に生育するが、時に基盤の崩落による生育地の破壊がある不安定立地のため個体の消滅がある。

【存続を脅かす原因】

生育地の自然災害、自然系の遷移。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域								
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
	○							○																

シソ目イワタバコ科

イワタバコ

Conandron ramondioides Sieb. et Zucc.

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 6

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も僅かである。

【概要】

植物体は長楕円形の葉を数枚根生するもので、葉の長さは20cmばかり、巾5-10cm程で光沢がある。花は初夏に、20cmばかりの花茎を立て、先に10個程の紅紫色の小花をつける。

本州の福島県以南、四国、九州に分布する。

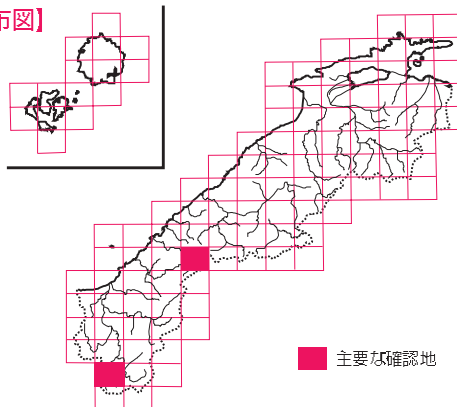
【県内での生育地域・生育環境】

県内では西部山地の一部に2-3の生育地が知られている。山地溪側の陰湿な岩壁など、おもに岩上に生育地がある。

【存続を脅かす原因】

森林伐開、園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○					○														

シソ目イワタバコ科

シシンラン

Lysionotus pauciflorus Maxim.

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 6

島根県固有評価: 分布限界種(北限)

環境省: 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数もきわめて僅かであり、絶滅寸前状態である。

【概要】

おもに樹幹に着生し、茎は這い、分枝して、枝先に長さ10cm前後、巾3-4cm程の長楕円形の葉を数枚束生する。植物体全体は高さ20cm程のものが多い。花は夏に咲いて、淡桃色の袋状の花冠は長さ4-5cmで美しい。

太平洋側の暖地、伊豆、四国、九州に分布する。

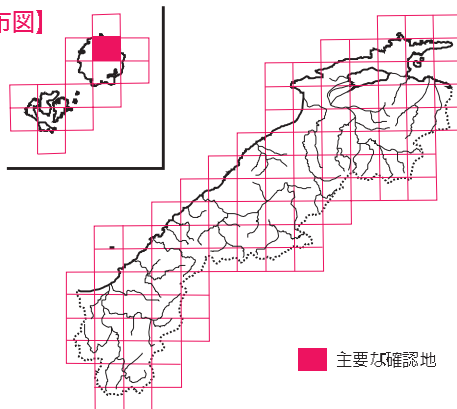
【県内での生育地域・生育環境】

以前より隠岐(島後)に生育地が知られていた。国指定天然記念物「高尾暖地性闊葉樹林」内での記録があるが、現在では絶滅状態である。島内において山草愛好家の間では、近年採取されたものとして採培する人もある。

【存続を脅かす原因】

森林伐開、園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎	○																	

シソ目イワタバコ科

イワギリソウ

Opithandra primuloides B. L. Burt

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 6

島根県固有評価: -

環境省: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

維管束植物

【選定理由】

県内では生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

植物体はやや小型の夏緑多年草で根生状の葉をつけて株となる。葉は柄があって葉身は長さ5-8cm程の卵形で、葉縁はやや大きい鋸歯縁で、全体に毛がある。花は初夏に咲き、根茎から葉の間に花茎を出し、先端に10個ばかりの赤紫色の筒状の小花をつけて美しい。

本州近畿地方以西、四国、九州に分布する植物である。

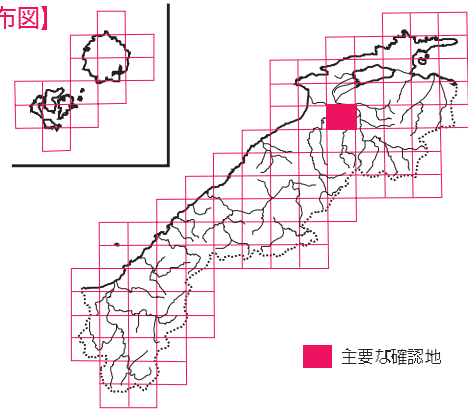
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は出雲部にまれに見られて、岩上、岸壁に生える。やや湿り気のある岩上から、時にはかなり乾燥する立地でも生育する。

【存続を脅かす原因】

岩上での遷移、園芸上での採取など。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域							
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
○								○															

マツムシソウ目スイカズラ科

ダイセンヒョウタンボク

Lonicera strophiphora Franch. var. *glabra* Nakai

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

夏緑の高さ1m程になる低木である。葉は対生し、卵状楕円形で長さ5cm、幅3cmばかり、葉表は短毛が散生し、葉裏脈上にも毛がある。花は春、葉の展開と同時に咲き、新梢の下部からでる花柄に2花をつける。苞は大きく目立ち、卵形の葉状で長さ2cm、幅1cmばかりである。花冠は漏斗状で長さ2cmばかり、緑白色から淡黄緑色で下垂して咲く。果実は液果で球形、径1cmばかりで赤く熟れる。県内の生育地のものは子房及び花柱が無毛な型で、オオバヒョウタンボクの変種として扱われ、本州中部以西、四国に分布するものとされる。

【県内での生育地域・生育環境】

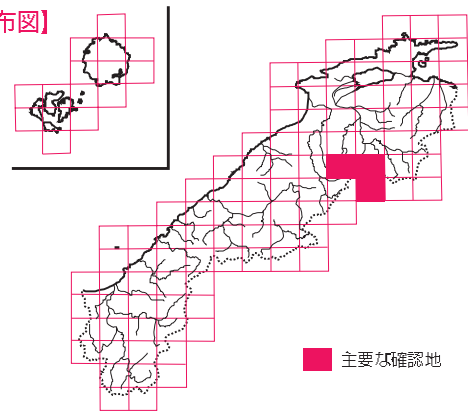
県内での生育地は出雲部中国山地脊梁部にまれに見られるもので、ブナ林内の露岩上に僅かな個体が生えてい

る。

【存続を脅かす原因】

園芸上での採取。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域							
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
○				○																			

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

マツムシソウ目スイカズラ科

ヤブウツギ

Weigela floribunda (Sieb. et Zucc.) K. Koch

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 6

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり生育地での個体数も限られている。

【概要】

夏緑性の低木で高さ2-3mの植物。葉は楕円形で長さ10cm、幅5cmばかりで対生する。花は春に咲き、枝先の短い散房花序に数個の花をつける。花冠は長さ3-4cmばかり、暗紫紅色で漏斗状、先は5裂片に分かれる。多くは下垂して咲く。果実は長さ2-3cmばかりの蒴果となる。

本州の関東以西、四国に分布域があるが、おもに太平洋側に分布する植物である。

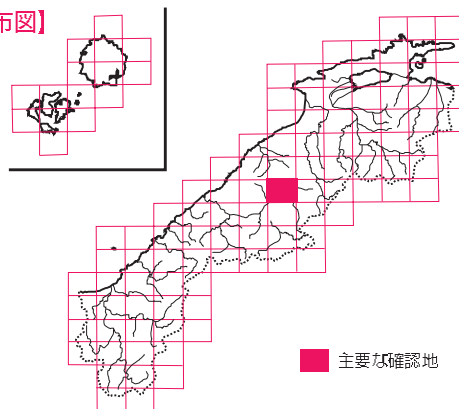
【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見部のみ生育地があつて、出雲での生育地は知られていない。おもに山地の林縁部に生え、時に川岸の岩場にも生える。

【存続を脅かす原因】

道路拡幅工事、河川護岸工事などによる生育地の破壊。遷移による環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○							○													

キキョウ目キキョウ科

キキョウ

Platycodon grandiflorum (Jacq.) A. DC.

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 6

島根県固有評価: -

環境省: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数もきわめて僅かとなっている。

【概要】

山地の草原状地に生える夏緑性の多年草。植物体は草丈50cm前後で、葉は長さ5-6cm、幅2cm程で、互生から対生、さらに輪生して着く。花は夏から秋に咲き、莖頂に数個がつく。花冠は広い鐘形で先きが浅く5裂して径4-5cmのもので、多くは青紫色である。

国内では北海道から四国、九州に分布して、朝鮮半島、中国に続く分布域をもつ。

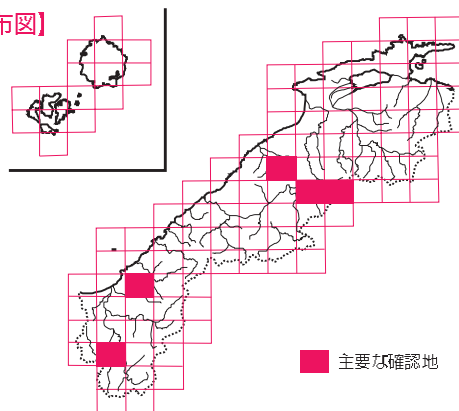
【県内での生育地域・生育環境】

県内の限られた地に生育地が点在し、生育地での個体数もまれであつて、あちこちで個体数の消滅がある。

【存続を脅かす原因】

生育地である草原状地としての管理が放棄され、樹林化による影響がもっとも大きいものと考えられる。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○			○			○													

キキョウ目キク科

チョウジギク

Arnica mallatopus (Franch. et Savat.) Makino

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 6

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

夏緑の多年草、草丈は30-50cm程で、葉は長狭楕円形で長さ10cmばかりで対生する。花は秋に咲いて、茎頂に5~10個程のやや小型の頭花をつけて咲く。頭花は長い柄があり、柄には白毛が密に生えていて特徴的である。小花は筒状で、花冠は黄色で時に美しい。

本州、四国の冷温帯に分布している。

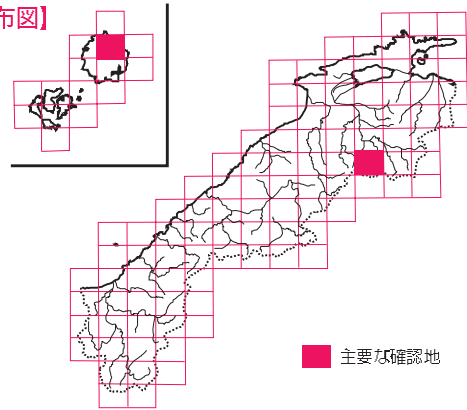
【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐(島後)、出雲部に生育地が知られている。いずれも深山のやや湿り気の強い岩上、岩壁に生え、時に茎は下垂する。

【存続を脅かす原因】

生育地での自然な遷移と園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎			◎																		

キキョウ目キク科

ヒゴタイ

Echinops setifer Iljin

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 7

島根県固有評価: -

環境省:絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もきわめて僅かとなっている。

【概要】

夏緑性の多年草。葉は長楕円形、長さ20-30cm、羽状に裂け、縁には刺毛があって裏面は白毛があって白色である。花は夏から秋に咲き、高さ1m前後の太い花茎を伸ばし、上部で2-3の枝を出し、球形の頭花に青紫色の小花を多数つけて美しく咲く。

日本と朝鮮半島に分布するが、国内では中部地方の一部から中国地方、九州にかけて隔離的に分布し、氷河時代からの残存する植物とされる。

【県内での生育地域・生育環境】

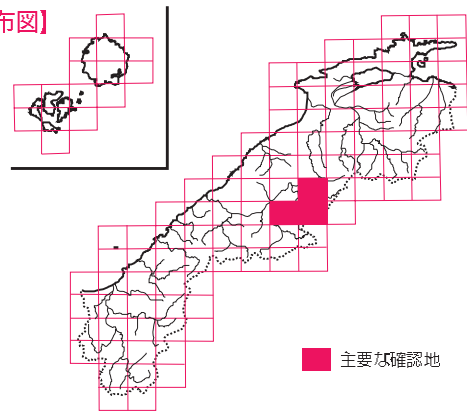
県内での分布は東部、中部の一部に生育地が確認されていたが、現在では東部にだけきわめて僅かな個体数が認められるだけの状態となっている。生育地は林縁の草地などの草原状地であり、過去における草刈場に多くの

個体が見られたものである。

【存続を脅かす原因】

遷移、生育地の樹林化。過去においては盆花等に利用されたと聞く。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○				○																

キキョウ目キク科

ヤナギタンポポ

Hieracium umbellatum L.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 7

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれで、生育地での個体数もきわめて僅かである。

【概要】

草丈50cmばかりの多年草。長さ5-10cmばかりの披針形の葉を多く互生する。花は秋に咲き、茎の上部に径2-3cmの黄色舌状花冠(頭花)を散房状に多くつける。国内では北海道、本州、九州に分布し、北半球に広く分布するものとされる。

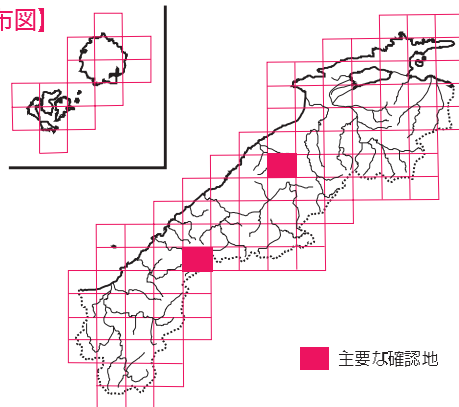
【県内での生育地域・生育環境】

県内では中部及び西部山地湿生地に分布する。

【存続を脅かす原因】

遷移による樹林化、乾燥化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○					○														

キキョウ目キク科

スイラン

Hololeion Krameri (Franch. et Savat.) Kitam.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、個体数も多くはない。

【概要】

山地の水湿地に地下茎をもって生える多年草。葉は披針形で長さ20cm前後で数枚が根生状に着いて、多くは垂直に立ち上がる。花は秋に咲く。開花株は高さ50cm前後に花茎を立て、上部で枝を分かち、枝先きに径3cmばかりの淡黄色の頭花をつける。

国内では本州の中部以西から九州にかけて分布する植物とされる。

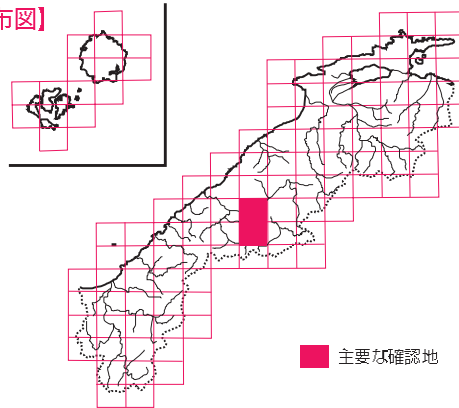
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は中央部の山地の一部に確認された場がある。山間地の水田跡、水田脇の水湿地、溜池の上流部での水湿地、また成因不明な山中湿地などで、他の水湿地特有な植物群と共に生育する。

【存続を脅かす原因】

水湿地の遷移による環境変化、埋め立てによる生育地破壊。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	◎											○									

キキョウ目キク科

オオダイトウヒレン

Saussurer nipponica Miq.

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

山地林内に生える夏緑性の多年草で、根生葉は長い柄があって葉身は卵形から卵状三角形で長さ10cm、幅5cm前後。茎は高さ50cmばかりで、じ上部に散房状の枝を分け、先にやや疎らに頭花をつける。花は夏から秋にかけて咲き、頭花は長さ1cmばかり、総苞外片は短く反曲する。小花は筒状で淡紅紫色である。

国内では近畿地方から中国地方の山地に分布する植物とされる。

【県内での生育地域・生育環境】

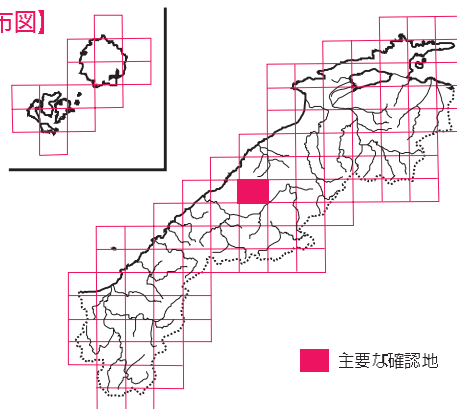
県内では石見東部の山地に限られた生育地が知られている。生育地はやや標高の高い所で、ミズナラなどの夏緑広葉樹林内にまれに生えるが、一部では山道の傍らの草地に20~30株程のまとまった個体群もみられ、林内の

林床よりも林縁などの明るい環境を好むように思える。

【存続を脅かす原因】

樹林の遷移や伐開による環境変化。園芸上での個体採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○			○																	

キキョウ目キク科

ククアザミ

Saussurea ussuriensis Maxim.

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

生育適地となるような草原状地が遷移により消滅しつつあることにより、生育地の消滅、個体の消滅により絶滅の心配が大きくなっている。

【概要】

山地草原状地に生え、草丈30-50cmばかりの多年草。葉柄部は長さ10cmばかり、葉身部は長さ10-20cmばかりで、葉は羽状浅裂-中裂のやや堅い質のもの。花は秋に咲き、頭花は10個ばかり散房状につく。

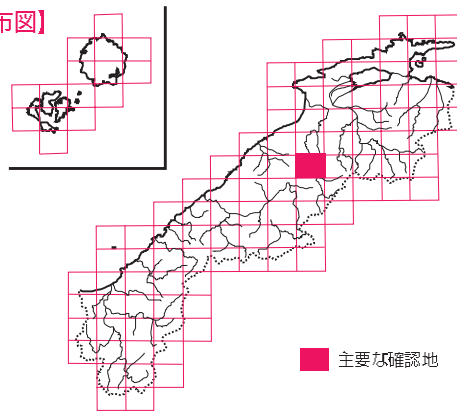
【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見東部の山地草原に限られた生育地が知られている。

【存続を脅かす原因】

生育地での遷移による樹林化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○			○																	

キキョウ目キク科

オカオグルマ

Senecio integrifolius (L.) Clairville var. *spathulatus* (Mig.) Hara

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれである。

【概要】

根生葉は長楕円形、長さ5-10cmばかりのものが5-10枚ばかりロゼット状をなし、草丈は30-50cm。茎頂部に初夏の頃、径2cmばかりの頭花黄花を10個ばかり散房状につける。

国内では本州、九州に分布し、朝鮮半島、中国などにも分布域があるものとされる。

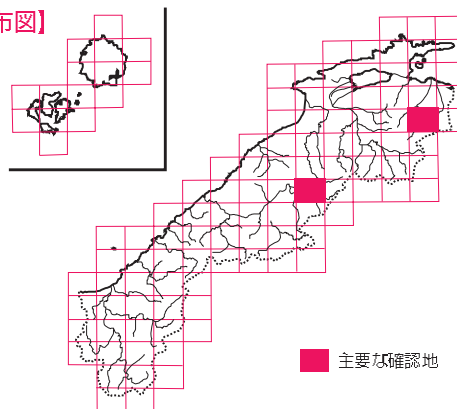
【県内での生育地域・生育環境】

乾燥気味の路傍、露岩状草刈り場などにまれな生育地があるが、いずれの場所も将来のこの植物の存続が心配される状態である。

【存続を脅かす原因】

遷移による環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○				○				○												

キキョウ目キク科

ハチジョウナ

Sonchus brachyotus DC.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

海岸に生える多年草で、長さ10cmばかりの長楕円形の葉を互生して、草丈50cmばかりになる。花は夏から秋にかけて咲き、茎頂部で枝を分けて、径3cm程の黄色花の頭花を着ける。やや北方系の植物で、国内では北海道から本州、九州に分布域があるが、本州中部以北の海岸に多く分布するものである。

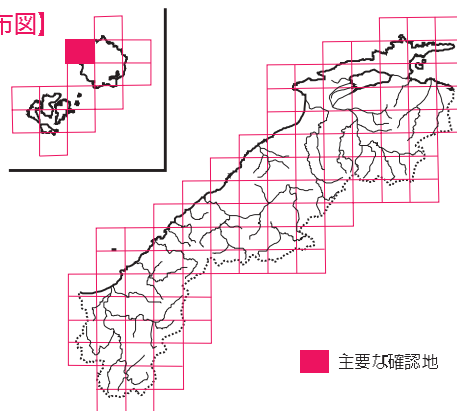
【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐(島後)の一部に分布するものが知られているが、生育地は多くはない。出雲部にも生育地があるとされるが詳細は不明である。石見部についても不明。

【存続を脅かす原因】

波浪等による自然災害や海岸の環境整備による生育地の破壊。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○																		○

キキョウ目キク科

キビシロタンポポ

Taraxacum hideoi Nakai ex H.Koidz.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 □絵 7

島根県固有評価: -

環境省: -

維管束植物

【選定理由】

県内での生育地はさわめて限られていて、生育地での個体数も少ない。

【概要】

里地の路傍や草地に生える多年草。葉は長さが20~30cm、倒披針形から披針形で、羽状に中裂し、根生する。花茎は30cm程度で、先に薄いクリーム色の頭花をつける。シロバナタンポポに比べると、角状突起がほとんどないこと、頭花が小さいこと、花茎が短いこと、瘦果が黒褐色であることなどが相違点である。

近畿地方、中国地方、四国、九州北部に分布する。

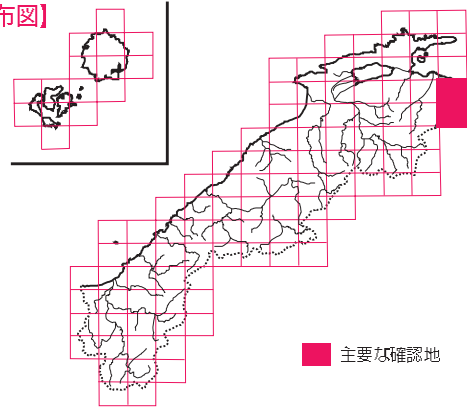
【県内での生育地域・生育環境】

県内では県東部に生育地があり、路傍や畦などに生育している。

【存続を脅かす理由】

圃場整備、土地造成、除草剤散布などの人為的攪乱。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○										○											

オモダカ目オモダカ科

アギナシ

Sagittaria aginashi Makino

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省:準絶滅危惧 (NT)

【選定理由】

県内での生育地はまれである。

【概要】

湿地、浅い池に葉を5-6枚根生して生えて、草丈は30cmばかりである。葉は水面より上に出たものは葉身の基部が矢じり形に2つ裂け、上の裂けない裂片より短いとされる。夏から秋にかけて、花茎を出し、花を3個ずつ輪生する。花茎の下方に雌花、上方に雄花がつく。

国内では北海道から九州、朝鮮半島に分布するとされる。

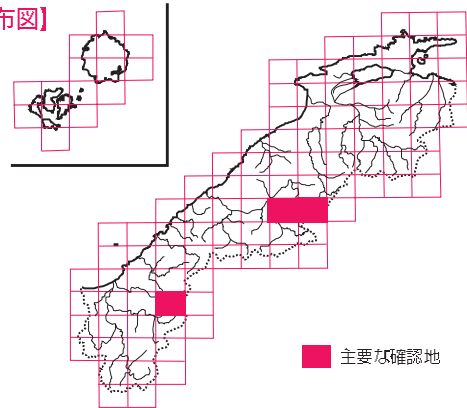
【県内での生育地域・生育環境】

人為干渉の少ない、かなり年数を経た湿地に生育するようであり、県内でもそのような湿地がまれである。

【存続を脅かす理由】

生育地の自然な遷移としての湿地の乾燥化。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○					○		○												

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

イバラモ目イバラモ科

イバラモ

Najas marina L.

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

河川改修や水質汚濁による自生地環境悪化。宍道湖・中海水系内のつばさ池での自生が近年認められなくなったため、ランクをこれまでの絶滅危惧Ⅱ類から絶滅危惧Ⅰ類に変更した。

【概要】

全国の湖沼や溜池、及び流れのゆるやかな河川に生育する1年生の沈水植物で、淡水域だけでなく汽水域にも出現する。水中茎は径1-2mmで叉状によく分枝し、3輪生あるいは対生の葉をつける。葉茎は硬質であるが、もろくて容易に折れる。葉は無柄でやや扁平、長さ2-6cm、幅1-3mmで葉縁に棘状の大きな鋸歯がある。雌雄異株であり、雄株には4室の葯をもつ雄花が葉腋につき、雌株には花被がなく1個のめしべからなる雌花が葉腋につく。

【県内での生育地域・生育環境】

斐川平野の小河川で見られたが、現在は不明。

【存続を脅かす原因】

除草剤の使用及び河川改修などによる生育場所の環境悪化。

【特記事項】

かつて中海の彦名干拓地にある米子水鳥公園内のつばさ池に大きな群落があった。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	汽水
○	△	△														○	○					○

ホンゴウソウ目ホンゴウソウ科

ホンゴウソウ

Andruris japonica (Makino) Giesen

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵7

島根県固有評価: -

環境省: 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も限られている。

【概要】

林内に生える小形の腐生多年草である。草丈は多くは5-6cmで、全体が赤紫色で葉は小さい鱗片に退化している。花は夏から秋に咲き、茎の上部の総状花序に10個ばかりの花をつける。花序の下部には径1.5mm程の球状の雌花、上部には径2mm程の雄花がつく。

本州の関東以西、四国、九州、南西諸島の範囲に分布域がある植物とされる。

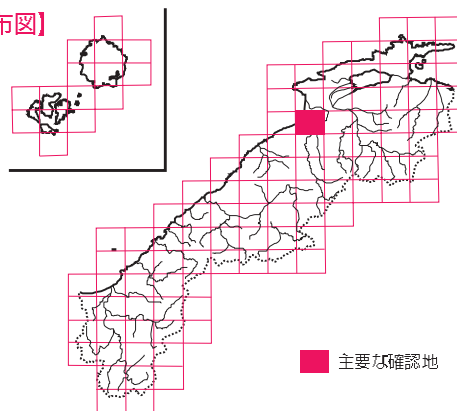
【県内での生育地域・生育環境】

県内での分布はきわめてまれで、出雲部の一部の山地樹林内の狭い範囲に生育地があり、落葉や他の稚樹などと共に生えている。小形で、奇妙な腐生植物であるので一般にはあまり認識されにくく、生育があまり知られていないものと思われる。

【存続を脅かす原因】

森林伐開、一部の山道の傍らに生育するものについては、山道の整備、踏圧による消滅が心配される。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	汽水
○								○														

ユリ目ユリ科

ホソバナコバイモ

Fritillaria amabilis Koidz

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 7

島根県固有評価: -

環境省:準絶滅危惧 (NT)

維管束植物

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

山地林内に生える多年草で、草丈15cm前後、葉は長楕円形で長さ5-6cm、幅1-2cm、対生または3輪生。花は春先に咲き、茎頂に1個の長さ2cmばかりの鐘形、花糸と花柱に毛状突起がある。いわゆる早春植物で5月中に果実成熟、地上部は枯れる。

本州の中国地方から四国、九州に分布域がある。

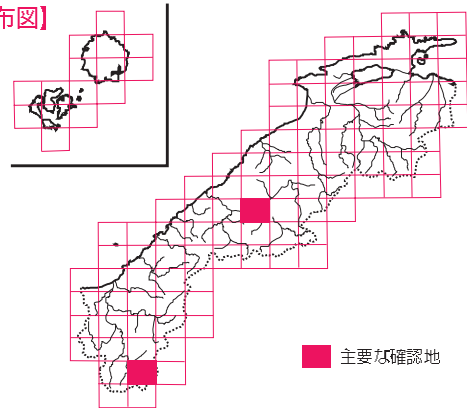
【県内での生育地域・生育環境】

県内では中央部から西部に生育地が知られているが、きわめて狭い範囲である。夏緑広葉樹林内から林縁に生える。

【存続を脅かす原因】

森林伐開、園芸上での採取。生育地での自然遷移。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○		○				○													

ユリ目ユリ科

イズモコバイモ

Fritillaria ayakoana Naruhashi

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 7

島根県固有評価:島根県固有種

環境省:絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

山地林内に生える多年草で、草丈は15-20cmばかり、葉は長楕円形で長さ5-6cm、幅2cm前後で対生または3輪生。いわゆる早春植物であり、春先に、茎、葉を地上部に展開、開花、結実の後、周りの樹木の葉が出揃う頃には地上部は枯れてしまう。花は4-5月に咲き、茎頂に普通1個の花をつけて、広い鐘形で花被の長さは2-3cm下垂して開花する。

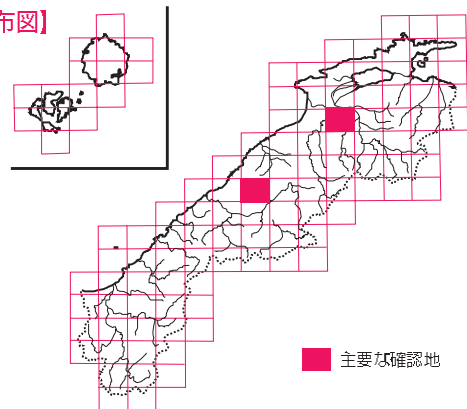
【県内での生育地域・生育環境】

島根県固有種であり、出雲部から石見東部にかけて生育地があり、夏緑樹林内から林縁にかけて生える。森林内の遷移や園芸上での採取による生育地での個体数が激減した場もあるが、一方では自然保護団体や個人による生育地の保護、保全が計られている場もある。

【存続を脅かす原因】

林内遷移、照葉樹林化、園芸用の採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎			○				○													

ユリ目ユリ科

ユウスゲ (キスゲ)

Hemerocallis citrina Baroni var. *vesperitina* (Hara) M.Hotta

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 7

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

本州、四国、九州に分布して、この地方でも以前は山地のそこかしこ生えて、花をつけ目立つ植物であったが、近年、いわゆる里山の植物として急激に全域で激減し、絶滅状態といえる状態となっている。

【概要】

山地草原、林縁草地に生える多年草。葉は線形で、長さ50cm、幅1cmばかりで根生する。夏に高さ1m前後の花茎を立て、径10cm前後の黄花を次々に咲かせ、目立つ。

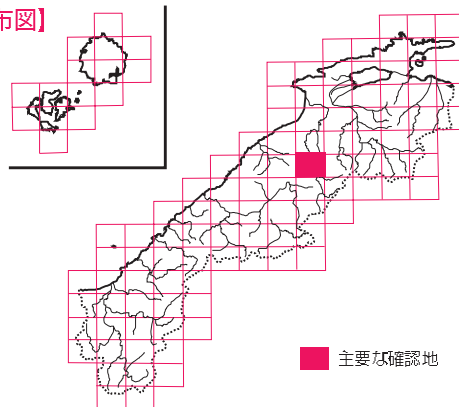
【県内での生育地域・生育環境】

現状では、この植物の生育地を把握することができないものである。それだけ、急激に多くの個体が姿を消してきたものである。

【存続を脅かす原因】

林地への人為干渉の減少。遷移による樹林化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○				○				○					○					○	○	

ユリ目ユリ科

ニッコウキスゲ

Hemerocallis dumortieri Morr. var. *esculenta* (Koidz.) Kitam.

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 7

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

植物体は地下の根茎から長さ50cm前後、幅1-2cmの葉を数枚根生して生える多年草。花は夏の頃に咲き、根茎から高さ50cm前後の花茎を立て、茎頂に5-10個の花をつける。花被片は橙黄色で長さ7-8cmばかりのものである。本来、本州中部以北、北海道から千島、樺太の範囲に生えるやや北方の植物である。

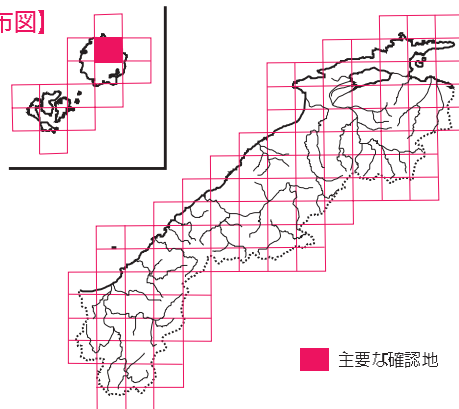
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は隠岐諸島にのみ知られているもので、隠岐(島後)でも、ごく限られた場所に生える。生育地はほとんどが山中の露岩状地で崖地や岩棚の土壌が堆積している場所で、多少なりとも上部から浸出水があって、保水状態のよい場所である。

【存続を脅かす原因】

生育地の自然な遷移による樹林化。園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			◎						○													

目 科

ホソバナアマナ

Lloydia triflora (Ledeb.) Baker.

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

個体数がきわめて少なく、生育地もきわめてまれで絶滅が心配される。

【概要】

山地の草地に生える鱗茎をもつ多年草。植物体は小型で、根出葉は1枚(長さ1cm、幅3mmばかり)、花茎は20cmばかりで、先端に数個の白色小花(花被片、雄蕊6個)をつけて咲く。

国内では、北海道から九州まで、国外では朝鮮半島、中国大陸、シベリア、カムチャッカ、北アメリカと、広い範囲にあるものとされる。

【県内での生育地域・生育環境】

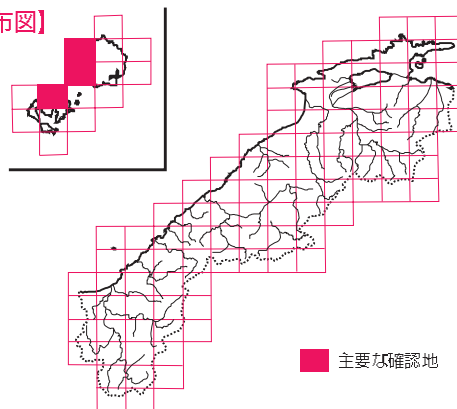
県内では隠岐諸島の一部にのみ生育地が知られているものである。林縁、路傍の岩質基盤の草地にまれに生育するものが見られる。

【存続を脅かす原因】

生育地の自然な遷移で、種々の高茎草本が侵入するこ

とが一番の原因と思われる。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○		○																

ユリ目ユリ科

キンコウカ

Narthecium asiaticum Maxim.

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

植物体は地下の根茎から葉を根生し、草丈30cmばかりの夏緑多年草で、葉は線形で長さ20-30cm、幅1cmばかりのものである。花は夏に咲き、高さ30cm前後の花茎を伸ばし、上部に総状花序に径2cmばかりの黄色花を多数つける。

本州の中部以北、北海道に分布範囲をもち、山地の湿地に生える日本固有の植物とされる。

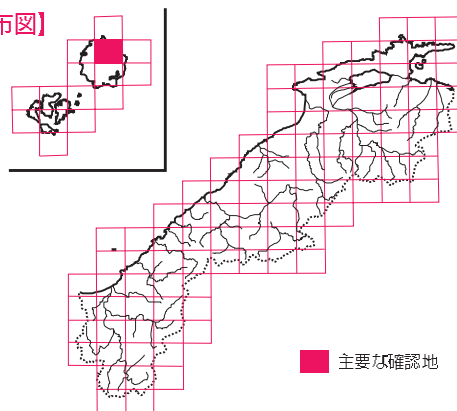
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は隠岐諸島にのみ知られているもので、隠岐(島後)でもきわめて限られた場所に生育している。生育地は山中の露岩状地で露岩崖地や岩棚の土壌が堆積している場所であって、多少なりとも上部から浸出水があつて、保水状態のよい場所である。

【存続を脅かす原因】

生育地の自然な遷移による樹林化。園芸上での採取。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○		○			○														

ユリ目ユリ科

ハナゼキショウ

Tofieldia nuda Maxim.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 8

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

植物体は山地の露岩上に生えて、葉を根生し、草丈20cmばかりのやや小型の夏緑多年草である。葉は線形で長さ20cm前後、幅3-5mmばかり。夏期に葉より長い花茎を伸ばし、花茎の上部に総状花序をなして白色の小花を多数つける。花被片は線状長楕円形で長さ3-4mmで6枚。

本州の関東、北陸地方以西から九州に分布域があり、日本固有の植物とされている。

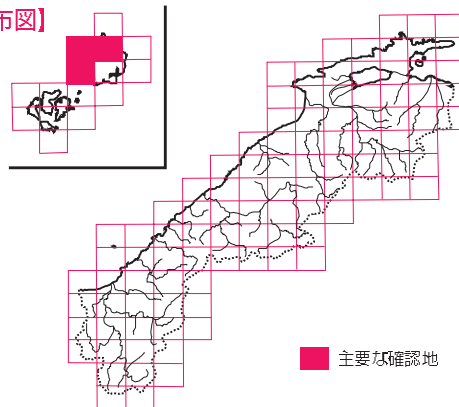
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は隠岐諸島にのみ知られているが、隠岐(島後)でも生育地はかなり限られている。生育地は山中の露岩地であり、湿り気の強い岩上からかなり乾燥した岩上まで、適応範囲はかなり広い植物のようである。

【存続を脅かす原因】

生育地の自然な遷移による樹林化。園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域							
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○											○									

ユリ目ユリ科

バイケイソウ

Veratrum grandiflorum (Maxim.) Loes. fil.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

植物体はやや大形で1mを越し、長さ20-30cmの広楕円形の葉を互生する夏緑の多年草である。花は夏に咲き、茎頂に大きな円錐花序に緑白色の小花を数多くつける。

分布はやや北方系の植物で、国内では本州から北海道に分布して、朝鮮半島、樺太から大陸につながる。

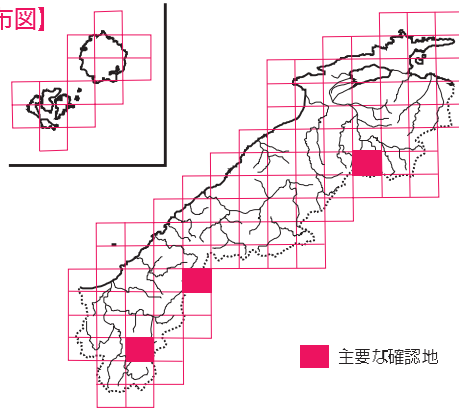
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は出雲部から石見部の中国山地沿いにまれに存在している。本来湿草原に生育する植物であり、県内の生育地も山中の湿地状態の窪地などである。

【存続を脅かす原因】

遷移による樹林化。人為による埋め立て等の生育地の破壊。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域							
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
△	○	○						○															

ユリ目ヒナノシヤクジョウ科

ヒナノシヤクジョウ

Burmattia championii Thwaites

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

草丈10cmばかりの小型の腐生植物である。植物体全体が白色で、葉は退化して長さ3mmばかりの鱗片状で互生する。花は夏から秋にかけて、茎頂に5個程の白色の小花を頭状につける。

本州の関東以西、四国、九州から南西諸島、さらに南方に分布域があるものとされる。

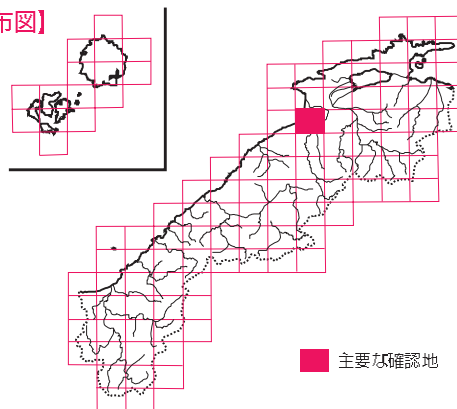
【県内での生育地域・生育環境】

県内では出雲にきわめてまれな生育地が確認されている。照葉樹林内から一部人工林の林縁に生え、落葉や他の種の稚苗などと共に生えている。きわめて小型の植物であり、一般にはあまり認識されていないように思われる植物であり、詳細な調査がなされれば県内での生育地は他所にも存在する可能性がある。

【存続を脅かす原因】

林伐開または諸開発による生育地の破壊。人の踏みつけ等。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○								○													

ツユクサ目ホシクサ科

ツクシクロイヌノヒゲ

Eriocaulon nakasimanum Satake

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: 分布限界種(北限)

環境省: 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

水湿地に生える1年草で、植物体は長さ15cmばかりの線形の葉を根際から根生状に多数つけるものである。花期は夏から秋にかけてで、高さ20cm程の花茎を多数伸ばして、それぞれに頭花を1個ずつつける。頭花は倒円錐形で径5mm程のものである。総苞片は長楕円形で頭花より短い。頭花は雌花、雄花が混生し、雌花、雄花ともに萼は仏炎苞状に合着して黒藍色であり、花床は無毛である。

九州と中国地方の一部に分布する植物である。

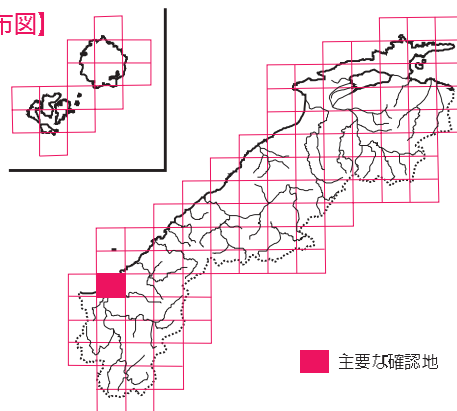
【県内での生育地域・生育環境】

県内では石見西部の一部にのみ生育地が知られているが個体数は多くはない。溜池の縁に生える。

【存続を脅かす原因】

溜池の管理放棄。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○										○									

タコノキ目ミクリ科

オオミクリ

Sparganium macrocarpum Makino

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られている。

【概要】

水湿地に生える夏緑多年草。植物体は草丈1m前後のやや大型の抽水植物で、葉は線形で、長さ50cm、幅1cm前後のものが直立してつく。花は夏に咲き、葉間に伸びる太い茎に互生する葉の葉腋に枝を出し、下部には球状で雌性の頭状花序を数個つけ、上部には雄性の花序を数個つけて咲く。果実は倒円錐形状で数条があって長さ7-8mm、幅6-7mm、20~30果ばかりが球状の集合果として熟す。

国内では本州に分布して、朝鮮半島、中国東北部にも分布するものとされる。

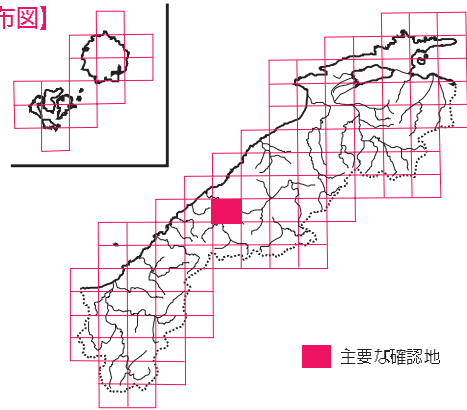
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は出雲部、石見部にきわめてまれに存在する。溜池や、小河川の浅い水域に群生するのが見られる。

【存続を脅かす原因】

溜池や河川の管理放棄による遷移、改修工事などによる生育地の破壊。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○															○	○				

カヤツリグサ目カヤツリグサ科

スジヌマハリイ

Eleocharis equisetiformis B. Fedtsch.

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 8

島根県固有評価: -

環境省: 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地も遷移の進行や人為の干渉により、消滅した地もあり、この種の存続が心配される。

【概要】

水湿地に生育する夏緑性の多年草であり、草丈は50cmばかりのものである。植物体は幅2mmばかりの柱状の茎を伸ばすだけのもので、葉は葉鞘だけに退化したものとされ、茎の基部に鱗片状に付着するものになっている。茎には縦に数条があるのが特徴である。花は夏前に咲くが、茎頂に1個の小穂をつけ、長さ1.5-2cm程で、花の刺針状花被片は無いが、または4個であるとされる。

国内では本州の一部と九州に分布して、朝鮮半島、中国から中央アジアに分布域があるとされる。

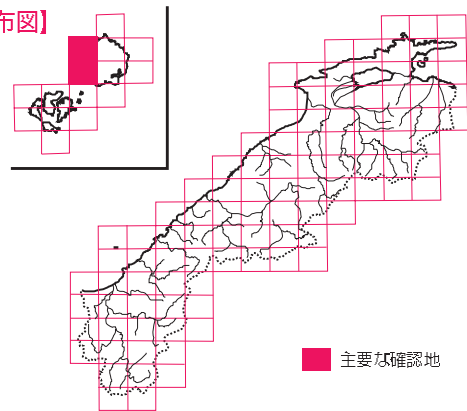
【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐(島後)にのみ生育地が知られている。池沼、休耕田などの水湿地に生育している。

【存続を脅かす原因】

池沼、休耕田における遷移による乾陸化による生育地の消滅。埋め立て。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○				○														

カヤツリグサ目カヤツリグサ科

サギスゲ

Eriophorum gracile Koch

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地の環境変化により、植物体の消滅が心配されるものである。

【概要】

湿地に生える多年草で、植物体は地下に細く長い根茎があり、2~3枚の針状葉を付け、草丈は20-30cm、まばらに生えて全体として群生する。春早く、株から1本の花茎を立て、先端に2~5個程の小穂をつけて花が咲く。多数の花被片があって、これが果時には長さ2cm程の白い綿毛となり、全体として綿の様に見える。果時に青草の中に散る白い綿毛の塊が青田の遠くに白鷺の立つ姿にも見えて、時に美しい。

国内では中部以北、北海道に分布して、北半球に広く分布するものとされる。

【県内での生育地域・生育環境】

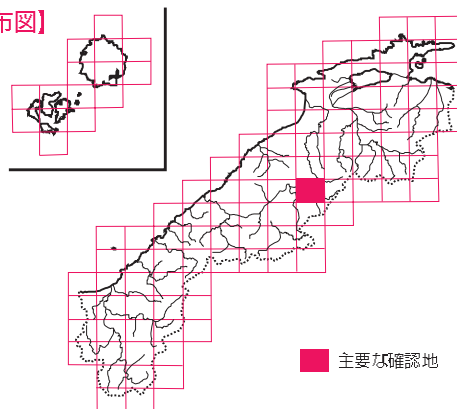
県内では出雲部の中国山地沿いの湿地に生育地が知られている。湿地はもと水田であり、耕作が放棄された地

である。

【存続を脅かす原因】

生育地の遷移が進行することにより、生育地の乾燥化が心配される。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○												○									

カヤツリグサ目カヤツリグサ科

ノグサ

Schoenus apogon Roem. et Schult.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれである。

【概要】

海岸寄りの地に生えていて、茎は高さ10-20cmばかりで針状の葉を1-2枚つける。一年草であって、それとなく目立つ植物ではないようであるが、まれな分布のものとして、この地から絶滅させてはならないものである。本州(宮城県以南太平洋側)、四国、九州、南西諸島、インドネシアに分布するとされる。

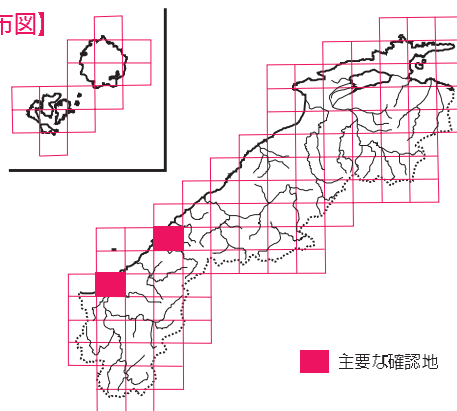
【県内での生育地域・生育環境】

県内では益田市内に生育地が知られている。海岸に近い場での斜面裸地・草地に群生することが多い。

【存続を脅かす原因】

遷移による生育地の消滅。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○																		○	

ラン目ラン科

マメヅタラン

Bulbophyllum drymoglossum Maxim.

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: 準絶滅危惧 (NT)

【選定理由】

県内での生育地はまれであり、生育地での生育範囲、個体数ももともと僅かなものである。

【概要】

樹幹や岩上に着生する小型の植物で、細い根茎を這わせて、長さ、幅とも径1cm程の円形の葉をややまばらにつける。花は初夏の頃に葉のもとに1花を咲かせ、淡黄色で長さ1cm程のものである。

国内では関東地方以西、四国、九州に分布するものとされる。

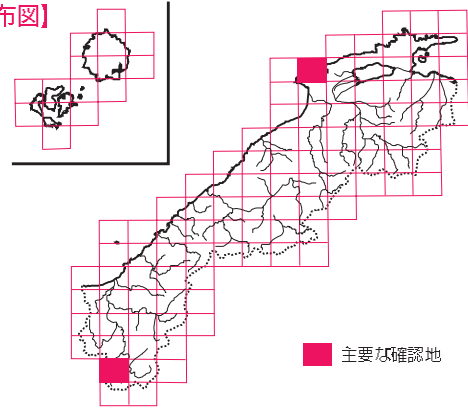
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は過去においてはあちこちに知られていたようであるが、現在ではきわめてまれな状態となっている。出雲部、石見部の一部に僅かに知られるのみである。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開、園芸上での採取も考えられる。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○						○													

ラン目ラン科

ムギラン

Bulbophyllum inconspicuum Maxim.

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: 準絶滅危惧 (NT)

【選定理由】

県内での生育地はかなりまれな状態となっていて、生育地での生育範囲ももともと僅かで存続の危険性大である。

【概要】

樹幹や岩上に根茎を這わせて着生する小型の植物である。葉は根茎につく偽球茎の先に1枚がつき、楕円形～長楕円形で長さ2-3cm、幅1cm弱程でやや厚く硬いものである。初夏の頃に偽球形のもとに黄白色の小花を1花だけつける。

国内では関東地方以西、四国、九州の範囲に分布するものとされる。

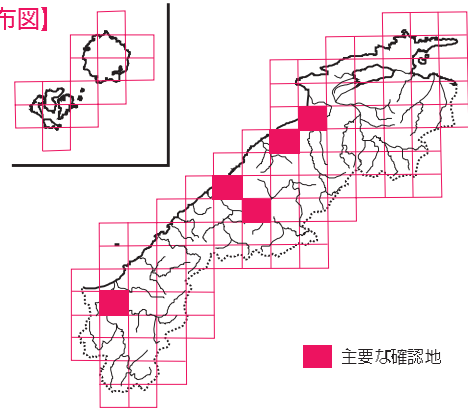
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は以前は全域にかなり見られたが、現在ではまれな状態となっている。山地溪谷状地での照葉樹の樹幹からかなり乾燥気味の山地露岩上にも生える。

【存続を脅かす原因】

森林伐開による着生樹木の伐倒、山地露岩地の遷移による樹林化等、生育地の破壊、消滅。園芸上での採取も考えられる。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域							
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○						○						○									

ラン目ラン科

キンセイラン

Calanthe nipponica Makino

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

根際に長さ20cmばかり、幅3cmばかりの細長い葉を5～6枚つけて生える多年草。夏前に、葉間より高さ20～30cmの花茎を出し、薄黄色の花を10個ばかり咲かせる。

北海道から九州に分布域がある植物で深山の林内に生える。

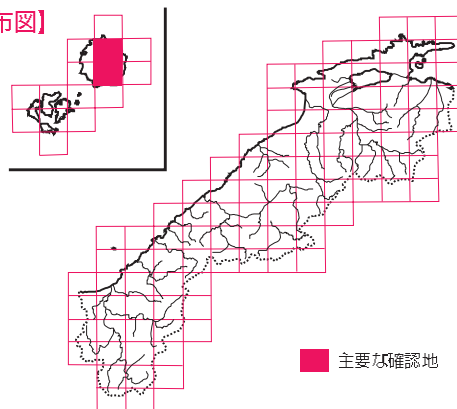
【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐(島後)にのみ生育地が知られているが、限られた範囲にあつて個体数は激減している。照葉樹林内から露岩状地での針葉樹林内に生育地がある。出雲部奥地の老齢な針葉樹林(人工林)内にも生育地があったが、樹木伐採により消滅した。石見部での生育地については不明である。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開による生育地破壊、環境変化。園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○	○																	

ラン目ラン科

キエビネ

Calanthe sieboldii Decne.

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: 絶滅危惧ⅠB類 (EN)

【選定理由】

県内での生育地が限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

長さ30cmばかり、幅7～8cmばかりの広楕円形の葉を数枚根生して生える多年草。春早く、新葉を出すと同時に花茎を高さ30cm程に伸ばして、多くの淡黄色の花を美しく咲かせる。

国内では本州西部、四国、九州に分布して、韓国の済州島にも分布するとされる。

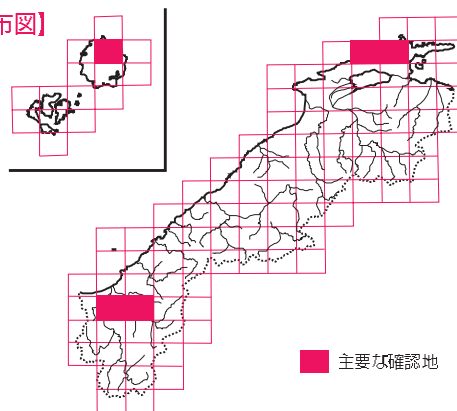
【県内での生育地域・生育環境】

県内においては全域に生育地が点在するようであるが、限られている。山地の樹林内、時には低海拔地の樹林内にも見られ、多くは夏緑樹林内に生えるが、人工林内にも生えるのが見られる。いずれも生育地での個体数は少ない。

【存続を脅かす原因】

森林伐開と園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○	○				○													

ラン目ラン科

サルメンエビネ

Calanthe tricarinata Lindl.

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育での個体数もまれである。

【概要】

植物体は長さ30cmばかり、幅7-8cm程の倒長楕円形のやや大型の葉を数枚根生するもので、早春、新葉を出すと同時に高さ30cm前後の花茎を伸ばして、10花ばかりの特徴ある美しい花をつける。花の萼片や側花弁は黄緑色であるが、唇弁は紫褐色系の独特な色相で全体として奇妙な美しさを有するものである。栽培する人も多く、自生、野生品は珍重され、山野での採取により個体数は激減し、生育地が消滅した地もある。

国内では北海道から九州までの冷温帯林に分布するものであり、台湾、さらにヒマラヤ地方にまで分布域があるとされる。

【県内での生育地域・生育環境】

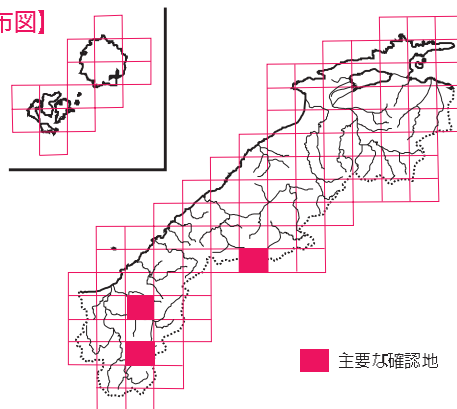
県内での生育地は石見部に知られているが、出雲では

詳細は不明である。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開と園芸上での採取。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○		○																	

ラン目ラン科

ユウシュンラン

Cephalanthera erecta (Thunb.) Blume var. *subaphylla* (Miyabe et Kudo) Ohwi

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 8

島根県固有評価: -

環境省: 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もきわめてまれである。

【概要】

植物体はやや小型で、草丈20cm程度、葉は退化して鱗片状から長さ2-3cm程のものが互生する。初夏の頃に茎頂部に白色の花を2-3個つける。ギンランの変種として扱われるが、時に腐生植物のようにも見える植物である。

北海道から九州までの範囲に分布するもので、ややまれなもののようなものである。

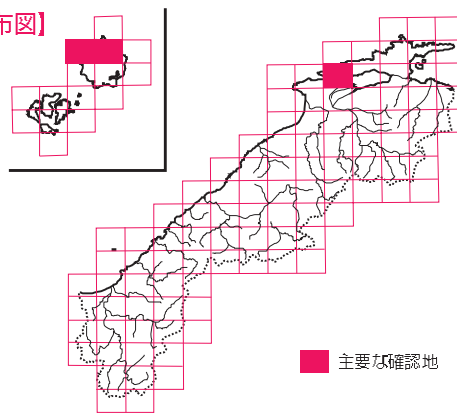
【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐(島後)、島根半島に生育地が知られていて、低地の照葉樹林内及び照葉樹と夏緑樹、針葉樹の混生林内に生える。生育での個体数はきわめてまれである。

【存続を脅かす原因】

森林伐開。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			○	○				○													

ラン目ラン科

マヤラン

Cymbidium nipponicum (Franch. et Savat.) Makino

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価: 分布限界種 (北限)

環境省: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数もきわめてまれである。

【概要】

暖地に分布する無葉の腐生蘭であり、平常は地中に根茎を持ち、地上には開花のための地上茎のみが出現して、花期にのみ気づかれる植物である。花期は夏であり、地上茎は高さ20-30cmで、茎頂部に数個の花をつける。花被片は2cmばかりで、白色に赤茶色を帯び、時に美しく見える。

本州の関東以西の太平洋側から南西諸島にかけて分布域がある植物である。

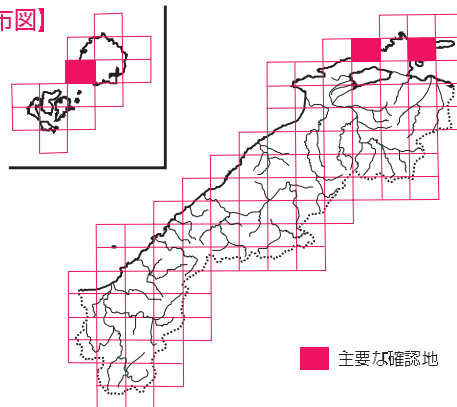
【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐(島後)と出雲部の一部に生育地が知られていて、いずれも、照葉樹林内に生育し、まれである。

【存続を脅かす原因】

森林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			◎	○				○													

ラン目ラン科

クマガイソウ

Cypripedium japonicum Thunb.

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 8

島根県固有評価: -

環境省: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【選定理由】

県内での生育地はまれであり、生育地での個体数も限られている。

【概要】

植物体は地下の根茎より高30cmばかりに茎を立て、先端に扇形の葉を2枚つけた特異な姿の夏緑性、多年草である。花は春に咲いて、茎頂の2枚の葉の上にさらに花柄を立てて、大きな花をつける。花は長さ5cm程、楕円形の萼片が目立ち、その下にさらに目立つ大きな袋状の唇弁があり、特徴的である。

北海道西南部から九州までの範囲に分布し、さらに朝鮮半島、中国にも分布するとされる。

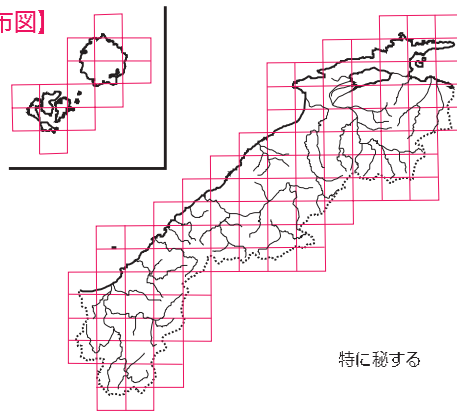
【県内での生育地域・生育環境】

県内では隠岐諸島、出雲部、石見部にそれぞれ僅かな範囲の生育地が知られている。いずれも山地の夏緑樹林内であり、一部、スギ人工林内にも生育している。

【存続を脅かす原因】

森林伐開による生育地破壊、環境変化。園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎			○	○																	

ラン目ラン科

サギソウ

Habenaria radiata (Thunb.) Spreng.

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 8

島根県固有評価: -

環境省: 準絶滅危惧 (NT)

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

水湿地に生える植物で、地中に球茎があって、未開花株では草丈5cmばかりで長さ3cm程の披針形の葉を数枚互生する。開花株は高さ20-30cmばかりに地上茎を伸ばし、夏に茎頂部に白色の花を数個つける。花は白鷺が舞い飛ぶ姿に似て、特徴的であり、一般によく知られている。唇弁が3深裂して、側裂片の縁がさらに多くの細裂片となり、白鷺の羽根を広げた姿に似ていて美しい。

日本全土から朝鮮半島、台湾に分布域があるとされる。

【県内での生育地域・生育環境】

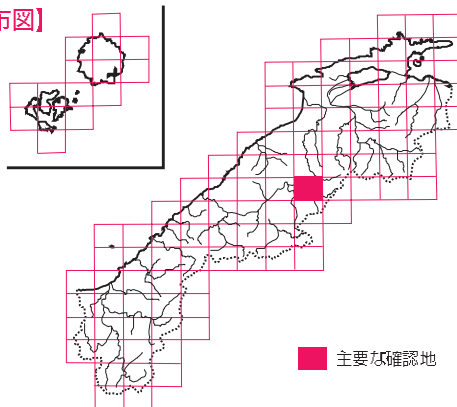
県内での明らかな生育地は出雲部にのみ知られていて、県の自然環境保全地域に指定されている湿地である。

【存続を脅かす原因】

県の自然環境保全地域に指定されているが、自然な

湿地での遷移や盗採により、個体数は明らかに減少している。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎							○														

ラン目ラン科

フガクスズムシソウ

Liparis fujisanensis F. Maekawa

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 8

島根県固有評価: -

環境省: 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【選定理由】

県での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もきわめて僅かである。

【概要】

草丈は10cmばかりで、多くは長さ5cm前後の楕円形の葉を2枚展開する植物である。多くはブナの大木の支幹分枝上に生えるコケ植物の基盤上に生育するものである。花はスズムシソウに似るが、スズムシソウとクモキリソウとの自然雑種であるとする資料もある。

富士山や近畿地方に分布することが知られている珍奇な植物である。

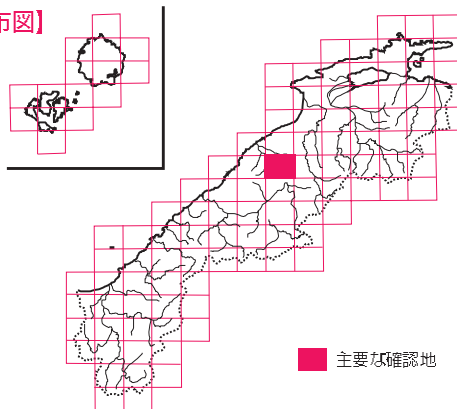
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は県中央部にきわめてまれである。生育地は国立公園内であって、それなりに保護、保全策がとられているものである。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開と園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	◎			○																	

ラン目ラン科

ジガバチソウ

Liparis krameri Franch. et Savat.

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

植物体は草丈10cmばかりで、多くは長さ5-10cmばかりの広卵形の葉を2枚対生状につけて生える。花は初夏で、葉間より花茎を20cmばかりに伸ばし、先端部に2~3花をつける。花被片は線形で淡緑色で赤茶色を帯びる部分もある。山地の樹林内、露岩状地に多くはコケ類を伴った基盤に生える。

北海道から九州まで広く分布域があるようである。

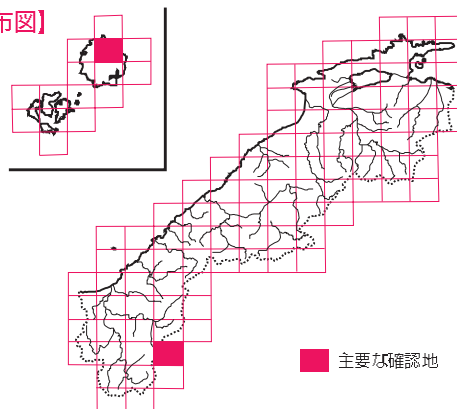
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地はまれであって、隠岐諸島、石見西部に知られているが他の地域での生育地については不明である。生育地はいずれも露岩状地でやや乾燥気味の立地である。

【存続を脅かす原因】

生育地の自然な遷移による照葉樹林化と園芸上での採集。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○	○																		

ラン目ラン科

ウチョウラン

Orchis graminifolia (Reichb. fil.) Tang et Wang

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数もきわめて僅かである。

【概要】

岩壁などの露岩上に生え、草丈10cm前後のやや小型の多年生草本である。植物体は地中に球状の塊根を持ち、葉は線形で長さ5cm程、幅5cm程で数枚がつく。花は夏に咲き、葉より少しばかり長い花茎の先に赤紫色の花を5~6個つける。

国内では関東以西の本州、四国、九州に分布域が知られている。

【県内での生育地域・生育環境】

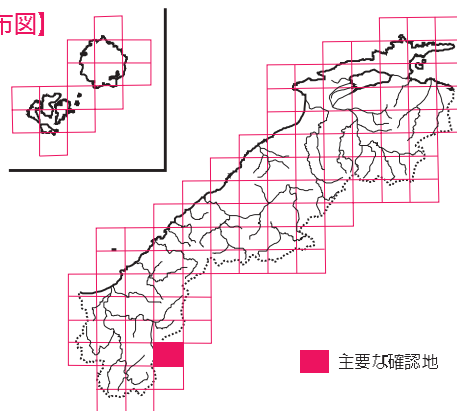
県内では石見西部に生育地が知られているが、きわめて限られた場所に生える。陽当りのよい岩場の僅かな土壌が認められる小さな岩棚に生育する。

【存続を脅かす原因】

岩場の自然な遷移による草原化、樹林化。園芸上での

採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○						○														

ラン目ラン科

ミズチドリ

Platanthera hologlottis Maxim.

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価:—

環境省:—

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

湿地に生え、開花株は草丈50cm前後になる草本である。葉は線状披針形で、茎の下の方には長さ10cm前後、幅2cm程の葉がつくが、上方に向いしだいに小さい葉となって、その先に穂状花序をなして花が着く。花期は初夏の頃で、花は径1cmばかりの純白色の小数で、数多く咲いて、夏の青草の中に時に美しく目立つものである。

北海道から九州までの範囲に分布域があるとされる植物である。

【県内での生育地域・生育環境】

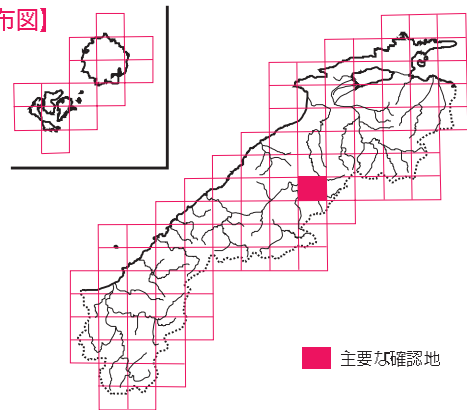
県内では出雲部山地に生育地が知られているが、他の地域での生育地は不明である。出雲部での生育地は県の自然環境保全地域に指定された範囲の中にあるが、その中でもごく一部であり、他の水湿地の高茎草本と混生し、

さらに近年ススキが侵入し、絶滅が心配される。

【存続を脅かす原因】

湿原、湿地での自然な遷移による乾草原化による生育地の環境変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○							○														

ラン目ラン科

コバノトンボソウ

Platanthera nipponica Makino

島根県:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価:—

環境省:—

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

湿地に生え、開花株は草丈30cm前後に細い茎を立てる草本である。葉は茎の下の方に1枚が目立ち、広線形で長さ5cm、幅1cmの程のものである。花期は夏で、茎の上部に淡黄緑色の小花が疎らに数個つけて咲く。唇弁の距が長さ2cmに近いもので上にはね上がるのが特徴的である。

北海道から九州の範囲に分布域があるとされる。

【県内での生育地域・生育環境】

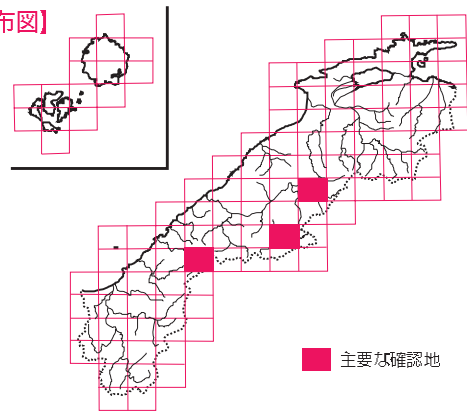
県内では山地の湿原状地に若干の生育地が認められるがまれな分布のものである。出雲部、石見部の山地に限られた湿地にみられるが、個体数は僅かであり、湿原の自然な遷移の中で、乾草原化、樹林化その他の人為的な生育地破壊により絶滅が心配される。一部の生育地は県

の自然環境保全地域に指定された場の中にある。

【存続を脅かす原因】

湿原の乾燥、樹林化と埋立て等による生育地の破壊。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎						○														

ラン目ラン科

トキソウ

Pogonia japonica Reichb. fil.

島根県：絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 8

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体も多くはない。

【概要】

湿地に生えて、地中に這う根茎から線状長楕円形の長さ10cm、幅1cmばかりの葉を1枚、垂直に立てて生える草本。花は初夏に咲く。開花株は茎を高さ20cm程に立てて、葉は中程につき長さ5cmばかり、茎頂に薄紅紫色の花を1個だけ咲かせる。花には長さ2cm程の葉状の苞が目立つ。

国内での分布は北海道から九州までの範囲に生えるものとされる。

【県内での生育地域・生育環境】

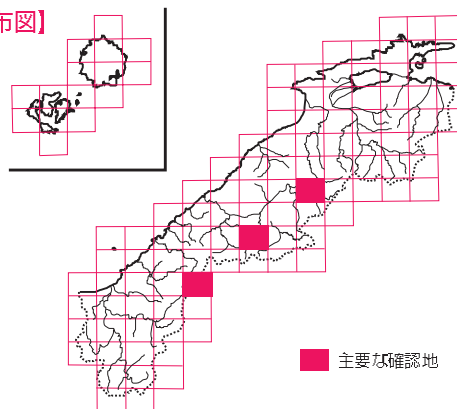
県内での生育地は出雲部から石見部の山地湿原状地にまれに存在する。日陽りのよい湿地で、草丈の低い草本が出現する中に混生する。一部の山地では放棄水田にも生えるが、遷移による湿地の乾燥化により絶滅状態の場合もある。また、一部は県の自然環境保全地域内に生えるものがあるが、これも乾燥化による絶滅が心配される。

遷移による湿原の乾燥、樹林化と埋め立て等による生育地の破壊。採取。

【存続を脅かす原因】

遷移による湿原の乾燥、樹林化と埋め立て等による生育地の破壊。採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○						○														

ラン目ラン科

カシノキラン

Saccolabium japonicum Makino

島根県：絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれで、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

植物体は長さ5cm、幅1cmばかりの葉を左右2列に互生し、根は細い気根が互いに撚れ合い樹幹に着生する。時には枝先に着いて下垂する個体も見られる。花期は夏で、短い総状花序に10個ばかりの淡黄色の小花をつける。多くは照葉樹につく常緑の草本である。

国内では本州の千葉県以南から南西諸島に分布域があるとされる。

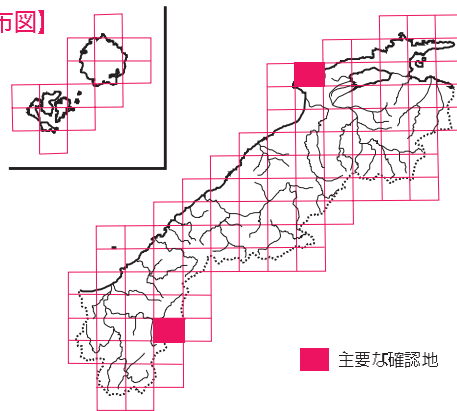
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は出雲部、石見部にまれに存在する。

【存続を脅かす原因】

森林伐開と園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○		○																	

ラン目ラン科

マツラン

Saccolabium matsuran Makino

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

樹幹に着生する小型の植物である。植物体は全体としての長さは5cmに満たないもので、葉は2列に互生し、長さ2cm、幅3mmばかりである。花は春に咲き、葉腋から出る花茎に数花の小花をつける。

国内でのこの種の生育地の範囲は東北地方南部から四国、九州にあるものとされる。

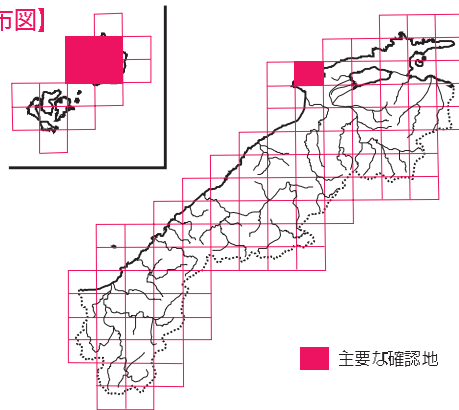
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は多くはなく、出雲、隠岐諸島に知られているが、特に隠岐(島後)の山地ではモミの樹幹に多く着生するものが見られる。モミ以外ではウラジロガシの古木の樹幹に着生することが多い。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			○	○																	

ラン目ラン科

カヤラン

Sarcophilus japonicus (Reichb. fil.) Miq.

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

写真 口絵 8

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数もまれである。

【概要】

植物体は樹幹に着生して生活する。葉は披針形で長さ3cm、幅5mmばかりで左右2列に互生し、気根は葉のもとから出て、茎に沿うように下方に伸びて樹幹に着生する。常緑樹の樹幹に着生し、時に枝先に下垂して生育する個体もある。花は春に咲き、葉腋から花茎を出し、淡黄色の小花を数個つけて咲く。

国内での分布は本州は東北地方以南、四国、九州にあるとされる。

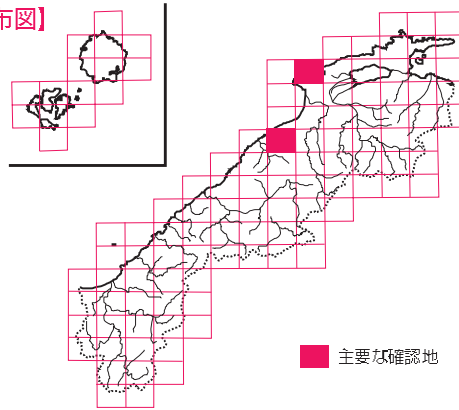
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地はまれであり、東部での生育地が知られているが、他の地域では不明である。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開と園芸上での採取。

【分布図】



■ 主要な確認地

生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	

ラン目ラン科

ナゴラン

Sedirea japonica (Linden et Reichb. fil.) Garay et Sweet

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 □ 絵 9

島根県固有評価: 分布限界種 (北限)

環境省: 絶滅危惧ⅠB類 (EN)

【選定理由】

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

植物体は樹幹に太い着生根でつき、多くは長さ10cm、幅3cm前後の長楕円形の厚い葉を4~5枚、左右2列につける常緑、多年草である。花期は夏で、葉より長く花茎を出し、総状に5~6花をつける。側萼片と唇弁には紫色の横縞紋、斑紋がある。花には強い芳香があり好まれる。

国内での分布は太平洋側の暖地 (伊豆七島、南畿)、四国、九州から南西諸島にあるものとされる。

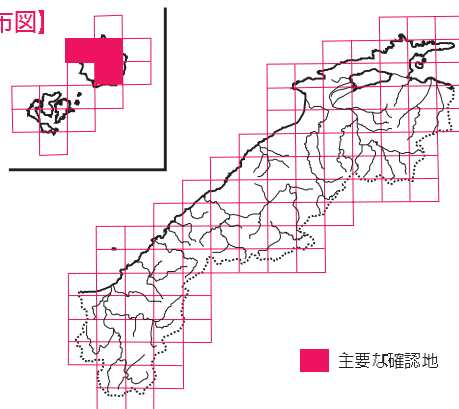
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は隠岐 (島後) に限られている。多くはモミ、ウラジロガシの樹幹に着生してみられるが、隠岐諸島での奇異な状態として、クロベ、ヒメコマツ、クロマツの樹幹にも着生するものが見られる。

【存続を脅かす原因】

森林伐開と園芸上での採取。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○	○																	

ラン目ラン科

クモラン

Taeniophyllum glandulosum Blume

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 □ 絵 9

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地はきわめてまれであり、生育地での個体数もまれである。

【概要】

樹幹に着生して生育する明らかな葉を持たない奇妙な植物である。樹皮上に長さ3cm程の平らな根を放射状に這わせているだけの植物体であるので一般には気づかれることがないが、花期に認識されることが多い。花は初夏に咲くが、樹幹に直接奇妙な花がつく感じで、数花の淡緑色の小花がつく。照葉樹林内、スダジイやタブノキ、ウラジロガシの樹幹によく着生するようである。

国内では本州の関東以西、四国、九州に分布する種のようなものである。

【県内での生育地域・生育環境】

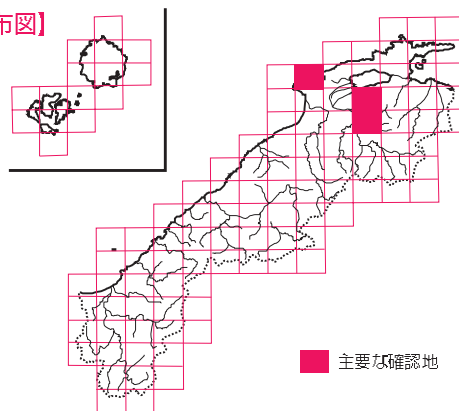
県内での生育地はあまり知られていない。植物体が特異な形態のものであることによる点もあると思われる。山地の谷筋にあって、かなりな大木からなる照葉樹林内

に見られることが多い。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○				○													

ラン目ラン科

イヌマムカゴ

Tulotis iinumae (Makino) Hara

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: 絶滅危惧ⅠB類(EN)

【選定理由】

県内での生育地はまれであり、生育地での個体数も僅かである。

【概要】

山林の林内に生える夏緑の多年草である。草丈は開花株で30cm前後のもので、葉は披針形～長楕円形で、長さ10cm、幅2cmのものを2～3枚つける。花は夏に咲き、茎頂に淡緑色の小花を数多くつける。

国内でのこの種の分布は北海道南から、本州、四国、九州の範囲にあるものとされるがもともと、まれな植物のようである。

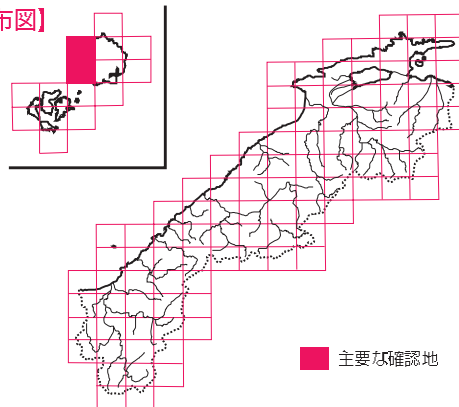
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は隠岐（島後）にのみ知られている。現状としては夏緑広葉樹の二次林内に生えるものが多いが、本来の生育環境がどのような状態の場のものか明かでない。隠岐諸島においては人為の影響がある場所の一部に生存可能な場があるようにも思われる。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開と自然なこの地での遷移、照葉樹林化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○	○																	

ラン目ラン科

ショウキラン

Yuania japonica Maxim.

島根県: 絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

島根県固有評価: -

環境省: -

【選定理由】

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数も多くはない。

【概要】

山地、深山の地表に生える腐生、無葉の奇妙な植物。植物体は白色～薄紅色で草丈20cmばかり、夏の頃、径3～4cmの少しばかり大きい淡紅紫色の花を数個つけて咲く。花は長い柄があるので特徴的である。

国内では北海道西南部から本州、四国、九州に分布する植物であり、多くは冷温帯林内に生え、まれに見られる。

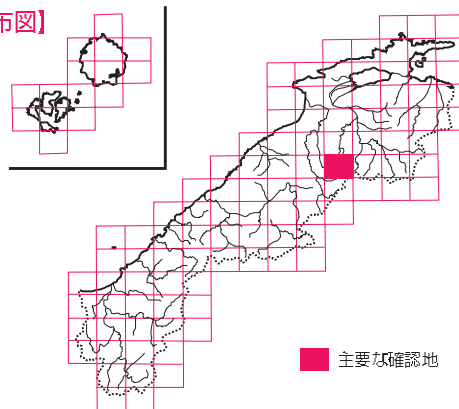
【県内での生育地域・生育環境】

県内での生育地は中国山地脊梁部の山地樹林内にまれに見られる。樹林内の腐生植物の一種であり、できる限り、人出の影響が入らぬ山野の下生植物として生育する種であり、生育地での人為の影響がない環境がつけられることが望まれる。

【存続を脅かす原因】

樹林伐開。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	